

Hokkaido University News

北大時報

平成30年

11

No. 776 November 2018

文化功労者に名誉教授 宇井理生氏

秋の叙勲に本学から1氏

平成30年度文部科学省国際研究拠点形成促進事業費補助金「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に採択～「化学反応創成研究拠点（ICReDD）」の開始～



■ 全学ニュース

- 1 文化功労者に名誉教授 宇井理生氏
- 2 秋の叙勲に本学から1氏
- 4 平成30年度文部科学省国際研究拠点形成促進事業費補助金「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に採択～「化学反応創成研究拠点（ICReDD）」の開始～
- 5 文部科学省「卓越大学院プログラム」（平成30年度）に本学の「One Healthフロンティア卓越大学院」が採択
- 6 文部科学省「超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業」（平成30年度）に本学が採択
- 6 文部科学省「データ関連人材育成プログラム（D-DRIVE）」（平成30年度）に本学が採択
- 7 日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS地域）の受託及びモスクワ国立大学で「日本留学フェア」を開催
- 8 笠原理事・副学長が中国科学院大学設立40周年式典に出席
- 8 北海道大学交流デー（モスクワ国立大学）を開催
- 10 「北海道大学進学相談会」を大阪で開催
- 11 北大フロンティア基金
- 13 イチヨウ並木の一般開放を実施
- 13 スイス北海道大学アンバサダー エーリッヒ・ウィンドハブ教授及び武田 靖名誉教授来学に際し、総長表敬及び欧州同窓会関係者懇談会を実施
- 14 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に20名の研究者が参加
- 17 九州大学とキャンパス計画マネジメント交流会議を開催
- 17 平成30年度補正予算案（本学関係分）の主要事項
- 18 秋のガレージセールを開催
- 18 新入留学生オリエンテーションを実施
- 19 高等教育推進機構等自衛消防訓練を実施
- 19 高等教育研修センターにて研修会を開催
- 20 情報セキュリティ対策セミナー等を開催
- 21 国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーションが「世界の食資源システムを回復させるための国際シンポジウム」を開催

■ 部局ニュース

- 22 歯学院・歯学研究院・歯学部が台北医学大学と部局間交流協定を締結
- 22 文学研究科でアカデミック・ハラスメントに関するFDを開催
- 23 法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティーを開催
- 24 経済学院・経済学研究院・経済学部で外国人留学生懇親会を開催
- 24 保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
- 25 第10回ロバスト農林水産工学「科学技術先導研究会」を開催
- 26 工学系部局で救急救命講習会を実施
- 26 環境科学院・地球環境科学研究院でFD研修会を開催



経済学院・経済学研究院・経済学部
外国人留学生懇親会



工学系部局
救急救命講習会



国民との科学・技術対話推進に関する研究
支援事業



秋のガレージセール

- 27 国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院、観光学高等研究センターで研究倫理に関するFD研修会を開催
- 28 メディア・コミュニケーション研究院で、留学生と中国語シニア学習者との学習交流ワークショップを実施
- 28 動物慰霊式を挙げる
- 30 北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
- 35 北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭を挙げる
- 36 函館キャンパスで「秋のキャンパス一斉清掃」を実施
- 36 消防訓練等の実施
- 40 環境健康科学研究教育センター市民講演会「SDGsを考える ～暮らし・教育・健康～」を開催
- 41 第16回 脳科学研究教育センター シンポジウム「脳科学の最前線－活躍する女性研究者－」を開催
- 42 リーディングプログラム新プログラム生の採用式を実施
- 42 突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点及び公共政策大学院が北海道胆振東部地震緊急フォーラムを開催
- 43 突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点で平成30年北海道胆振東部地震での土砂災害対応へ技術的な支援
- 44 1920年卒業記念写真帖を大学文書館で受贈

■ レクリエーション

- 45 教職員テニス大会の開催

■ 諸会議の開催状況 48

■ 学内規程 49

■ 研修

- 49 平成30年度アドバイラストレータ研修

■ 表敬訪問 50

■ 人事 50

- 51 新任部局長等紹介

■ 訃報

- 52 名誉教授 田部 浩三 氏
- 52 名誉教授 西 信三 氏
- 53 名誉教授 稲辺 保 氏
- 53 准教授 高見 敏子 氏

■ 資料

- 54 役職員数（平成30年10月1日現在）
- 55 在籍学生数（平成30年10月1日現在）
- 57 広報誌等一覧（平成30年10月調査）



北方生物圏フィールド科学センター
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～



消防訓練等の実施

表紙：北方生物圏フィールド科学センター「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」(関連記事30頁に掲載)

裏表紙：北の鉄道風景 雪晴れの山線を駆ける汽車

■ 全学ニュース

文化功労者に名誉教授 宇井理生氏

この度、本年度の文化功労者に宇井理生名誉教授が選ばれました。

文化功労者は、日本において、文化の向上発達に関し特に功績が顕著な方が選ばれ、文化勲章に次ぐ栄誉とされています。同氏は、生命活動に重要な役割を果たしている「Gタンパク質」の機能を解明したほか、新薬の開発研究に大きく貢献されました。

宇井名誉教授の功績等を紹介します。

(総務企画部広報課)

う い みち お
宇井 理生 氏

功績等

このたび、宇井理生本学名誉教授が薬学・生化学・薬学教育の分野における多大な貢献により、平成30年度の文化功労者に顕彰されました。宇井氏は、1955年東京大学医学部薬学科を卒業後に大学院に進学し、1958年北海道大学医学部薬学科助手に着任、1962年に東京大学より薬学博士の学位を授与されました。1964年に北海道大学医学部薬学科助教授、1973年には北海道大学薬学部薬学科教授に昇任された後、1986年に東京大学薬学部に移任されるまでの28年にわたり本学薬学部で教育・研究に携わられました。宇井氏はこの間、生体機能を司るホルモンなどの刺激が細胞内部に情報として伝えられる仕組みを明らかにし、特に受容体刺激を仲介するGTP結合タンパク質（Gタンパク質）の発見、同定に関して多数の重要な業績を上げられました。特筆すべきは、Gタンパク質活性を阻害することで毒性を発揮する百日咳毒素の研究を土台に、この毒素を用いた広範な研究を進め、アデニル酸シクラーゼの促進・抑制ばかりでなく、多彩なシグナル伝達経路にGタンパク質が広く介在することを証明しました。1994年のノーベル医学生理学賞は、米国のギルマン博士とロッドベル博士の二人に与えられましたが、別種のGタンパク質が広範なシグナル伝達経路に介在することを明らかにした宇井氏の業績がこの研究に大きく影響しており、Gタンパク質に共役する多くの受容体は創薬の標的として、今日でも重要な位置を占めております。宇井氏は東京大学を定年退官後、東京大学名誉教授及び北海道大学名誉教授となられ、また理化学研究所特別招聘研究員、東京都臨床医学総合研究所長、徳島文理大学香川薬学部長、高崎健康福祉大学薬学部長などを歴任されました。宇井氏の深遠な研究哲学・教育理念は多くの若手研究者を惹きつけ、これまでに数多くの人材を育成して薬学・医学分野に優秀な研究者を輩出してきました。国内の細胞内情報伝達研究の興隆を支えたその功績はまことに顕著であり、これまでに上原賞、日本薬学会賞、学士院賞、ポール・エールリッヒ国際医学賞なども授与されています。

略 歴

生 年 月 日	昭和8年2月20日
昭和33年5月	北海道大学医学部助手
昭和39年11月	北海道大学医学部助教授
昭和40年4月	北海道大学薬学部助教授
昭和48年5月	北海道大学薬学部教授
昭和61年8月	東京大学薬学部教授

東京大学では評議員、退職後は理化学研究所特別招聘研究員、東京都臨床医学総合研究所長、徳島文理大学香川薬学部長、高崎健康福祉大学理事・薬学部長などを歴任

(薬学研究院)

秋の叙勲に本学から1氏

この度、本学関係者の次の1氏が、平成30年秋の叙勲を受けることについて、11月3日（土・祝）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝単光章	元 副看護部長	本間 美恵

同氏の長年にわたる看護業務への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。

同氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



ほんま よしえ
本間 美恵 氏

感想

この度、秋の叙勲という栄誉を賜り身に余る光栄と感激しております。これもひとえに諸先輩ならびに同僚の皆様方のご指導ご支援

の賜物と深く感謝申し上げます。

私は昭和55年、北海道立衛生学院を卒業し、北海道大学医学部附属病院第二外科病棟に配属されました。当時の第二外科は過渡期で、教授も交代し診療体制も大きく変革していました。また、この時期は、食道・膵臓・肝臓がんの消化器外科手術や、特に小児の心臓外科や解離性大動脈瘤といった循環器外科手術が目覚ましく進歩したのではないかと考えております。患者看護・クリニカルパス作成・人工呼吸器の知識・学会参加・看護師長代行等、様々な経験をさせていただきました。この第二外科病棟での6年間で、チームリーダーとしてキャリアアップさせて頂いたと感謝しております。

その後は、手術部・救急部・透析室、循環器内科、耳鼻咽喉科、第二外科・循環器外科を経て、看護部副看護部長を5年間務めさせていただきました。

手術部では全身の解剖生理と時間・情報管理を勉強し医師や多職種の方とのチーム医療を学びました。手術部副師長時代に世界手術室看護婦会議に参加し、カナダとフィンランドに行きました。フィンランドでは麻酔科医師の協力を得て英語で論文を発表しました。今考えると随分度胸良く発表したなと恥ずかしい思いです。

平成14年4月、耳鼻咽喉科で看護師長となり、病棟の在院日数を短縮し稼働率のアップに努めました。転院調整等、終末期のがん看護をスタッフと一緒に学びました。がんの疼痛管理・味覚障害などを学び五感の使い方を熟知しました。

平成18年4月から再び、古巣の第二外科・循環器外科に異動しました。やはり人・物・金・時間・情報が大きく動

く部署で、協働できる効率的な業務改善を目指し科内ローテーションの実施、既卒看護師の教育プログラムの作成、感染管理、病棟回転率のアップ、衛生材料のコスト削減に取り組みました。手術部看護師長時代は手術件数を低下させず、局麻専用手術室・ハイブリット手術室の増室工事・スリッパの1足制（シューズカバーの装着）開始、高価な人工血管・人工弁等の衛生材料の最低在庫管理、全麻・局麻問わず全手術に器械出し看護師を配置し手術時間の短縮と手術件数の増加等、様々な業務改善に取り組みました。その後、看護部に異動し看護必要度研修や病床再編に関われたことは大きな経験知となり宝です。「仕事は楽しくする」をモットーに、どの部署でも全力でトライしたように思います。今後はこの栄誉に恥じることなく精進して参りたいと思います。

最後になりますが、北海道大学、北海道大学病院、看護部の発展を祈念してお礼の言葉といたします。

功績等

本間美恵氏は、昭和33年3月22日に北海道上川郡朝日町に生まれ、同55年3月に北海道立衛生学院看護婦第二科を卒業され、同年4月北海道大学医学部附属病院に採用、平成8年副看護部長、同14年看護師長、同25年副看護部長を歴任し、同30年3月に北海道大学病院を定年にて退職されました。

同氏は当初、第二外科病棟、手術部・救急部で勤務され、副看護婦長昇任後は、手術部・救急部・透析室で勤務されました。この間、持ち前の協調性と指導力を発揮し、後輩を育成するとともに、平成11年世界手術室看護婦会議で「コンピューター化による看護業務の支援」など多数の研究発表を行いました。

その後、看護師長に昇任、耳鼻咽喉科病棟では、終末期がん患者の低栄養改善や褥瘡予防等をスタッフに教育し、患者のQOLの向上に貢献され、平成15年北海道・東北地区看護研究学会で「終末期患者の自己決定を支える援助について考える」を発表しました。

第二外科・循環器外科病棟では、心臓移植後の患者看護

や、体外式補助人工心臓装着患者の教育に力を注ぎ、心臓移植コーディネーター養成教育を開始しました。

手術部では、ハイブリッド手術室、局所麻酔専用手術室の増室に伴い手術看護業務の質向上・効率化を実施、手術件数増加に貢献され、平成24年日本看護管理学会で「手術室看護師の職務管理に影響する要因の分析－3年目未満と3年以上の比較検討－」を発表しました。

副看護部長昇任後は、看護管理者としての資質向上に努め、平成27年に日本看護協会認定看護管理者を取得されました。看護部では、業務担当副看護部長として5年間活動し、重症度、医療・看護必要度の教育および精度向上の取り組み、医療看護支援ピクトグラム運用、病床再編成等の活動に尽力されました。また、院内認定がん看護エキスパートナースの認定・教育に尽力され、その成果を平成26年から同28年の日本がん看護学会で3年続けて発表する等、学会発表にも多く取り組まれました。

同氏は社会活動も精力的に行い、北海道看護協会では、札幌第4支部書記や支部長を歴任、この他、札幌市北区要保護児童対策地域協議会代表者会議委員、日本手術医学研究会（北海道地区）世話人、日本手術看護学会（北海道地区）幹事等を務められました。

以上のように同氏は、38年の永きに亘り看護管理・教育の充実、患者サービスの質向上に尽くされ、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

生 年 月 日	昭和33年 3 月22日
昭和55年 4 月	北海道大学医学部附属病院看護部
平成 8 年 4 月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
平成14年 4 月	北海道大学医学部附属病院看護部看護師長
平成15年10月	北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部看護師長
平成16年 4 月	北海道大学病院看護部看護師長
平成25年 4 月	北海道大学病院看護部副看護部長
平成30年 3 月	北海道大学定年退職

（北海道大学病院）

平成30年度文部科学省国際研究拠点形成促進事業費補助金 「世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)」に採択 ～「化学反応創成研究拠点 (ICReDD)」の開始～

平成30年度文部科学省国際研究拠点形成促進事業費補助金「世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)」に、本学が申請した拠点構想「化学反応創成研究拠点(Institute for Chemical Reaction Design and Discovery (ICReDD))」(拠点長：前田 理 (まえだ さとし) 教授) が採択されました。事業期間は10年間で、毎年7億円程度の補助金が交付されます。

本事業は、高いレベルの研究者を中核とした世界トップレベルの研究拠点の形成を目指すもので、国からの集中的な支援により、「世界最高水準の研究」、「融合領域の創出」、「国際的な研究環境の実現」及び「研究組織の改革」に取り組み、世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る「目に見える拠点」となることが求められます。

本学は、拠点長の前田教授が開発した「人工力誘起反応法」を基盤とした「化学反応創成研究拠点」構想を提案しました。

本構想では、人工力誘起反応法によって未知の化学反応の経路を系統的に明らかにし、得られる膨大な経路ネットワークを、情報科学を用いて包括的に解析することによって、調べる価値の高い経路を絞り込みます。さら

に、得られた経路の候補に基づいて実際に新物質を合成します。これら一連の研究を「化学反応創成学」と名付け、新たな学問分野へと育て上げます。そして、これから人類が到達するであろう新世代のものづくりを実現します。

前田教授は、コンピュータ上で分子に仮想的な力を加え、分子同士の化学反応を引き起こすという画期的な手法の開発に世界ではじめて成功し、さらに、これまでの計算手法では不可能であった化学反応の経路を自動的に見つけ出すことにも成功しました(図1)。前田教授は、この手法を「人工力誘起反応法」と名付けました。

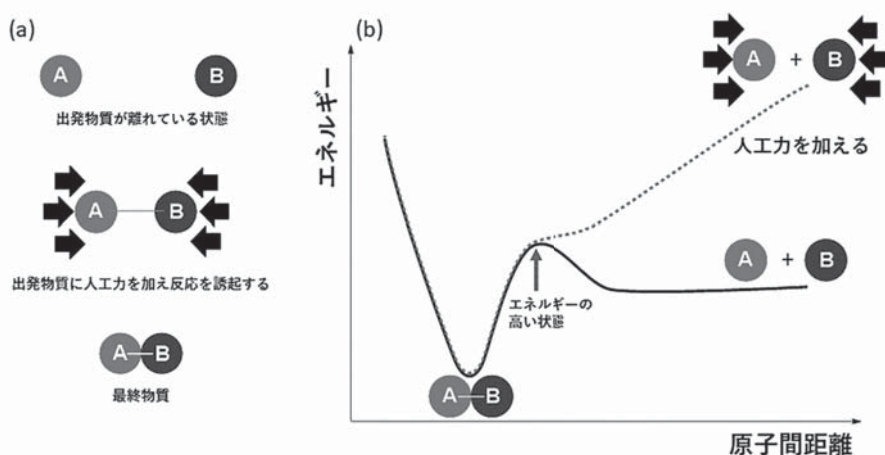
本拠点では、この方法から得られる膨大な化学反応の経路ネットワークをものづくりへと展開します。例えば、人工知能(AI)などに使われている情報科学を駆使して経路ネットワークを解析し、目的物を与える最良の経路を迅速に絞り込みます。さらに、この手法で提案された経路を実験科学によって検証します。実験結果を計算手法の研究にフィードバックすることにより、計算手法自体の更なる効率化も狙います。このような計算科学、情報科学、実験科学という3つの学問分野が目的を同じくして一堂に会することで、新しい学問分野が構築されます。

このような異分野融合研究を加速することで、非常に複雑な化学反応が正確に理解され、未来の私たちの生活を支える新物質を短時間で発見だけでなく、生命に関わる未知の現象が解明され、医療・医薬の飛躍的な発展にも波及します。また、新しい学問分野の基盤を強固にするためには、若手研究者の育成と、その世界レベルでのネットワーク形成が非常に重要です。そこで本拠点では、計算科学、情報科学、実験科学の3つの融合研究「化学反応創成学」を世界中の研究者や大学院生に伝える「MANABIYA(学び舎)システム」を構築し、高度人材の世界的循環と分野横断型共同研究の実現を目指します。具体的には、国内外の連携拠点に所属する若手研究者や学生が本研究拠点に3か月程度滞在し、共同研究を通して化学反応創成学に基づく研究手法を習得します。その後、それぞれの連携拠点に戻って、独自の研究を展開します。そして10年後には、世界中のトップ研究者から若手研究者まで数百人が参画する巨大ネットワークが完成し、新たな研究分野の発展が期待されます。

(研究推進部研究支援課

化学反応創成研究拠点事務局)

【図1：人工力誘起反応法のイメージ】



人工力誘起反応法とは、反応物(AとB)同士を押し付ける(または引き離す)手法(a)。例えば、出発物質AとBが結合し、ABができる場合の原子間距離とエネルギーの関係は(b)の実線のようになる。しかし、この従来の方法だとABができるまでにエネルギーの高い状態を計算することが難しく、時間がかかる。人工力誘起反応法では、AとBが近づくようにコンピュータ上で仮想的な力(人工力)を加える。力を加えた場合((b)点線)、エネルギーが低い方向に下っていくだけで自動的に最終物質ABが得られる。これにより比較的容易な計算で様々な化学反応の反応経路を短時間で予測することが可能になった。

文部科学省「卓越大学院プログラム」(平成30年度)に 本学の「One Healthフロンティア卓越大学院」が採択

文部科学省の新規事業である「卓越大学院プログラム」(平成30年度)について、本学の「One Healthフロンティア卓越大学院」が採択されました。

平成30年度は、全国の38大学から54件の申請があり、このうち13大学15件が採択されました。

卓越大学院プログラムは、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とし、海外トップ大学や民間企業等の外部機関と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集した博士課程学位プログラムを構築するものです。

本学が採択されたプログラムでは、総合大学の利点を活かした獣医系と医歯薬保健科学系の連携、これまでの実績を生かした国内外諸機関との連携、並びに人獣共通感染症、ケミカルハザード対策、獣医科学及び関連領域の卓越した教育研究リソースの活用により、人と動物の健康と共生・地球上の健康(One Health)のために解決が必要な諸問題、技術革新が求められる課題等に挑戦し、それらの解決・克服を通じてOne Healthの実現に貢献する思考態度と能力を備えた博士人材の育成を目的とする、先導的な博士課程学位プログラムを構築します。学位プログラムを推進する拠点として、基礎研究からグローバルな実践活動までを包括的に実施する世界的に卓越した教育研究拠点の形成を進めます。

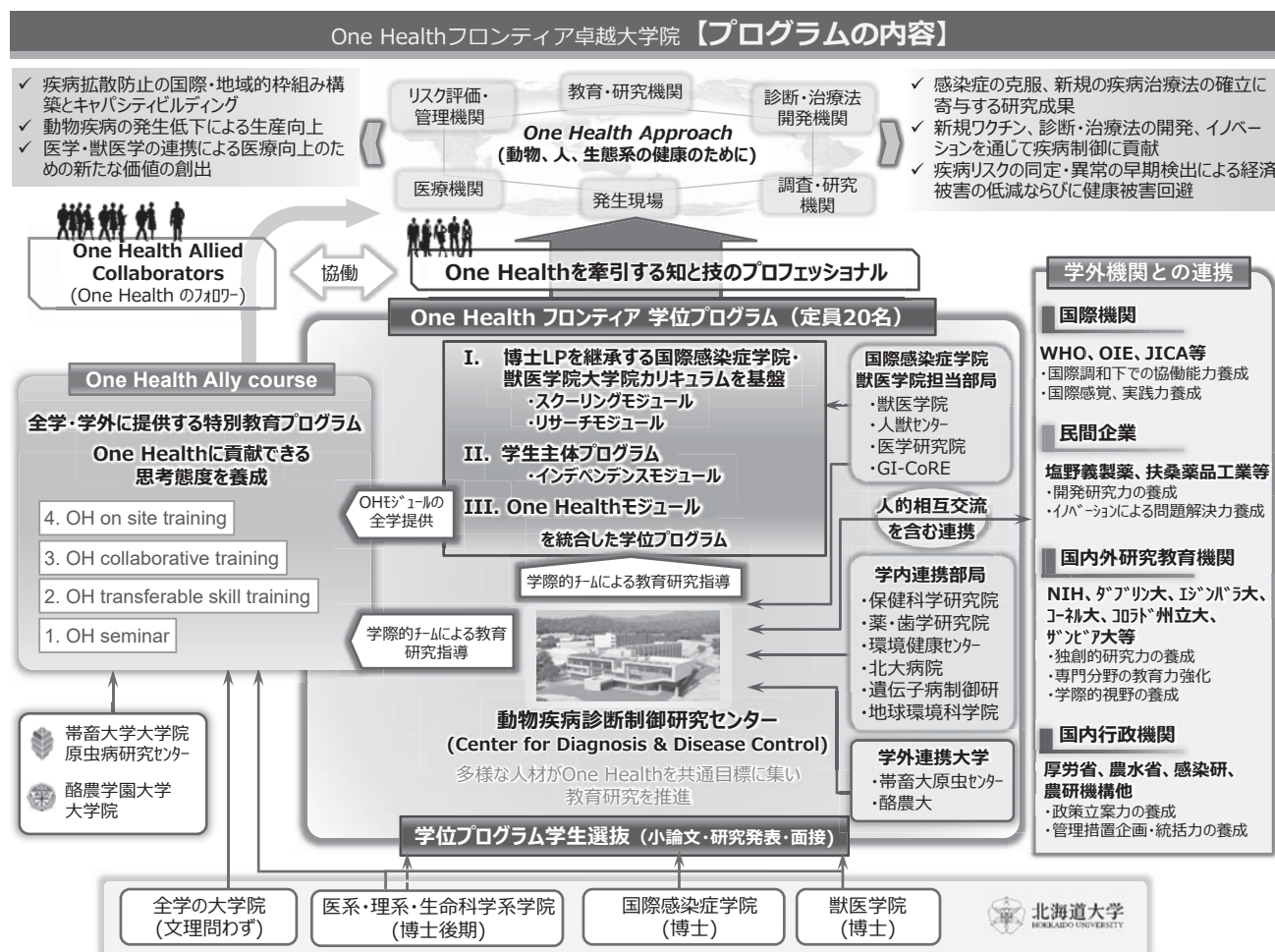
本プログラムでは、卓越した教育研究リソースと教育研究体制により、疾病制御・予防の理念を明確に持ち、バランス感覚に優れた国際性とチームによる課題解決を推進できる協調性を有し、動物、人及び生態系の健康を俯瞰的に捉えOne Healthに係る問題解決策をデザインして実行できる専門家(知と技のプロフェッショナル)を育成します。

【関連ホームページ】

文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/10/1409731.htm

(総務企画部企画課)



文部科学省「超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業」（平成30年度）に本学が採択

文部科学省の新規事業である標記事業（平成30年度）について、本学の「産・官・学・地域連携型のデータサイエンティスト育成事業～実社会のデータに基づく課題解決が養成する実践的な展開力～」が採択されました。

平成30年度は、全国の18大学から申請があり、このうち5大学が採択されました。

本事業は、産官学による実践的な教育ネットワークを構築し、文系理系を問わず様々な分野へデータサイエンスの応用展開を図り、それぞれの分野でデータから価値を創出し、ビジネス課題や社会課題に答えを出す人材、いわ

ゆるデータサイエンティストを育成する取組を支援するものです。

本学の取組では、修士レベルの学生を対象とした高度に実践的なデータサイエンスの知識や技術を身に付ける教育プログラムを開発します。文理を問わず効果的に習得できるよう、基礎力養成を目的とした分野横断型の科目と、速やかな実践力養成への移行を目的としたプロジェクトマネジメント等の科目の両者を提供します。また、特長的な取組として学生が自ら企画を提案し実施するPBL演習を行い、企業等が課題と実データを提供する上、直接指導に関わります。さらに、この演習

で産み出された成果の審査を経て登壇者が選抜されるプレゼンテーションも実施します。これらの教育プログラムの提供は、本学学生にとどまらず、eラーニングコンテンツ等を積極的に活用して、連携校及び協力校をはじめとする他大学への波及、また社会人学び直しにまで展開することを目指します。

【関連ホームページ】

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/miraikachisouzou/1409532.htm

（数理・データサイエンス教育研究センター）

文部科学省「データ関連人材育成プログラム（D-DRIVE）」（平成30年度）に本学が採択

文部科学省の標記事業（平成30年度）について、本学が代表機関となって申請した「産官学連携型の実践的な人材育成基盤『北大モデル』～次世代スマートインフラ管理人材育成コンソーシアム～」が採択されました。

平成30年度は、5件の申請があり、このうち1件が採択されました。

本事業は、大学、企業等がコンソーシアムを形成し、博士課程学生・博士号取得者等の高度人材に対して、データサイエンス等のスキルを習得させる研修プログラムを開発・実施、キャリア開発の支援を実施することにより、高度データ関連人材を育成し、社会の多様な場での活躍を促進するものです。今回採択された取組では、本学で培われた人材育成の仕組みと組織対組織の産学連携の仕組みを活用し、人材育成基盤「北大モデル」の実装を行うために、特定分野において産官学が協働するコンソーシアムを構成するものとし、この分野について、「データ関連人材が活躍するフィールド」として「インフラ維持管理」に注目しました。

インフラ管理企業や地方自治体、大学による産・官・学体制により「次世代スマートインフラ管理人材創出コンソーシアム」を構成し、明確な役割分担の協働体制で進めていきます。

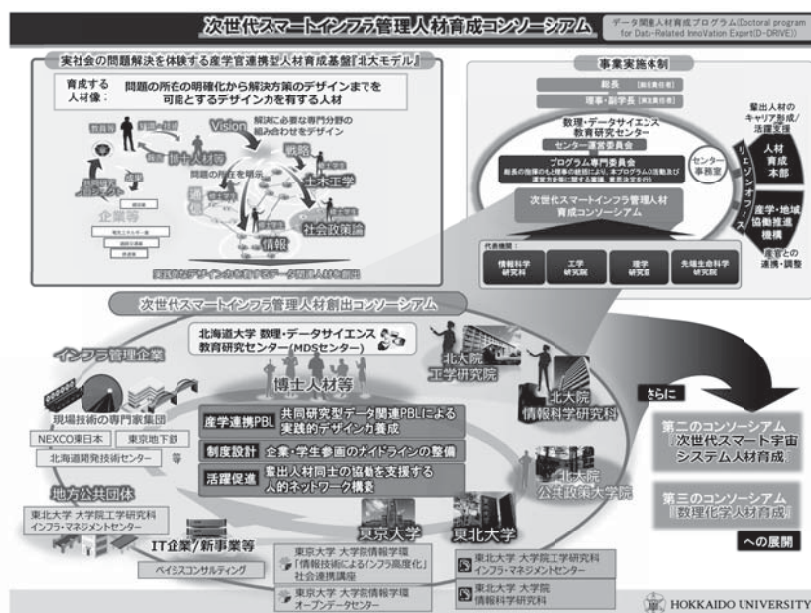
また、インフラ維持管理分野を対象とした北大モデルの実装をふまえ、さらに、他の分野のコンソーシアムとして「次世代スマート宇宙システム人材

育成コンソーシアム」や「数理化学生人材育成コンソーシアム」への展開を目指しています。

【関連ホームページ】

http://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/data/1410001.htm

（数理・データサイエンス教育研究センター）



日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS地域）の受託及びモスクワ国立大学で「日本留学フェア」を開催

文部科学省では、平成26年度から、様々な機関の垣根を越え、オールジャパンで日本留学を促進する「留学コーディネート配置事業」を実施しています。当該事業を拡充・発展させ、ロシア連邦・CIS（独立国家共同体）地域に新たに日本留学海外拠点を設置し、リクルーティング機能から帰国後のフォローアップまで一貫したオールジャパンの日本留学サポートを実現する「日本留学海外拠点連携推進事業」（実施機関は最大5年間）の公募が行われ、本学、筑波大学及び新潟大学が共同で申請し、10月1日（月）に採択されました。

本事業を実施するにあたっては、本学、筑波大学、新潟大学の3大学が持つ「大学の世界展開力強化事業」の交流推進プログラム及びプラットフォーム構築プログラムで培った日露大学協会をはじめとするロシア連邦・CIS地域の大学とのネットワーク並びに各地域において特性を活かした自治体や企業とのネットワーク等を活用します。特にロシア連邦を中心に留学生のニーズに即した日本留学情報を提供することにより、事業期間内に留学生数の倍増を目指し、①日本留学に関する情報の効果的な発信方法の開拓、②地域の特性に合わせたリクルーティング活動、③留学情報の提供から留学支援、留学後の就職等キャリアパスを含めた体系的支援、④帰国留学生のネットワーク構築、広報・リクルーティングでの関係機関との連携、を機軸として活動します。これらの活動により、中長期的には「留学経験者を通じた新たな留学生の獲得」及び「日本との懸け

橋となる人材の育成」という好循環を生み出し、ひいては、我が国の教育研究の質向上に寄与することが期待されます。

なお、本事業はオールジャパンで日本への留学を促進するものであることから、本学アフリカ・サハラ地域を中心に関心している同事業のアフリカ・サブサハラ地域や、筑波大学が実施している南米地域での経験を活かすとともに、3大学以外の大学等の機関とも連携を図ります。

今回、当事業の活動として、本学が中心となり、10月12日（金）にロシア連邦モスクワ市のロモノーソフ名称モスクワ国立大学において、日本留学フェアを開催しました。

ロシア連邦は、BRICsの一つとして目覚ましい経済発展を遂げ、今年6月にはサッカーワールドカップを開催したほか、アジア太平洋地域への統合を積極的に推進するなど、世界的な地位が向上しており、また、定期的に首脳レベルの対話が進められるなど、日本との経済・文化・貿易面での関係強化が図られています。モスクワ国立大学とは、2001年から大学間交流協定を締結しており、今回のフェアは同時期に開催された科学フェスティバル（All-Russian Festival of Science in Moscow）の中で行われました。

本フェアは在ロシア日本国大使館の協力のもと実施され、日本からは、文部科学省、日本学生支援機構（JASSO）のほか、本学、東海大学、東京外国語大学、東北大学、新潟大学、筑波大学の6大学が参加しました。

フェアの開会にあたり、はじめに笠

原正典理事・副学長、在ロシア日本国大使館の山本敏生公使・広報文化部長、日本留学の経験もあるモスクワ国立大学心理学部のアレクサンドル・ラエフスキー言語心理学・外国語教育学科長から挨拶がありました。続いて、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室の齋藤 潔室長から日本の留学政策及び日本留学海外拠点連携推進事業の概要について説明があり、次に、JASSO留学生事業部留学生事業計画課の渡辺 明事業戦略係長から日本留学の概要について説明がありました。最後に、モスクワ国立大学学生による日本留学体験談があった後、日本からの参加大学が各大学の研究教育の特色などについて紹介しました。

午後からは個別相談の時間を設けたほか、科学フェスティバル内に設けたブースでも日本留学希望者に対応し、資料参加した3大学*の案内資料も配付しました。12日（金）のフェア及びブースには約100名が来場したほか、13日（土）及び14日（日）のブースには2日間で約250名が来場し、日本留学への関心の高さがうかがえました。

本学では、引き続き、ロシア連邦の教育機関、行政、支援機関や企業等と連携し、日本とロシア連邦・CIS地域の学術・学生交流を促進する活動を実施していく予定です。

*金沢大学、神戸大学、東京大学（計3大学、50音順）

（国際部国際連携課）



モスクワ国立大学シュワロフスキー棟
(Shuvalovsky building)



日本留学フェア会場



ブースの様子

笠原理事・副学長が中国科学院大学設立40周年式典に出席

10月14日（日）、笠原正典理事・副学長が中国、北京市で行われた中国科学院大学設立40周年式典に出席しました。

中国科学院大学は、中国初の大学院大学として1978年に設立され、現在は大学院生を中心に約45,000人の学生が在籍する中国の名門校です。2017年12月に、本学と中国科学院大学との間で、学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書が締結されて以降、学生交流や教員交流を推進してきました。2018年3月には、双方の学長の働きかけにより、中国科学院大学内に本学の中国北京リエゾンオフィスが開設され、本学の中国での活動が拡充・発

展できることとなりました。これまでの協力とご尽力への感謝の意を込めて、笠原理事・副学長が本学を代表し、お祝いの意を伝えました。

式典では、科学と教育の融合と若い才能の育成について、中国科学院院長・名誉校長の白 春礼氏、同大常務副校長の王 艶芬氏、北京大学副校長の龚 旗煌氏をはじめとする各校の代表者が、各校の取り組み等を発表しました。笠原理事・副学長は、発表の中で本学のGI-CoRE（国際連携研究教育局）やサマー・インスティテュートにも触れ、積極的に海外大学の研究者及び学生を本学へ招へいし、国際交流をますます推進していくことを述べまし

た。

今回の訪問を契機に、中国科学院大学との具体的な交流がより一層前進することが期待されます。

（国際部国際連携課）



発表する笠原理事・副学長

北海道大学交流デー（モスクワ国立大学）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、欧州ヘルシンキオフィスが中心となり、10月10日（水）・11日（木）にモスクワ国立大学において北海道大学交流デーを開催しました。

モスクワ国立大学は、ロシア連邦の首都モスクワ市にあり、1755年に設立され、学生約38,000人、教職員約11,000人が在籍する総合大学です。本学とは、2001年10月に大学間交流協定を締結しています。また、本学が平成29年度に採択された文部科学省の「大学の世界展開力強化事業（ロシア）」プラットフォーム構築プログラムにおけるロシア側のセントラル・オフィスとして、日露大学協会のロシア側幹事校

の役割を担っています。

初日の午前は全体会が行われ、モスクワ国立大学からはユーリー・マゼイ副学長の他、教職員、研究者等約30名が出席し、本学からは笠原正典理事・副学長をはじめ、各研究科等から合わせて22名が出席したほか、在ロシア日本国大使館の相木俊宏次席公使にも出席いただきました。

全体会では、まず、モスクワ国立大学マゼイ副学長から挨拶及びモスクワ大学の紹介をいただきました。続いて、相木次席公使から挨拶をいただいた後、笠原理事・副学長から挨拶及び本学の紹介が行われました。

その後、分科会（※）の概要について、本学スラブ・ユーラシア研究セン

ターの野町素己教授、モスクワ国立大学アジア・アフリカ研究所のイリヤ・ザイツェフ准教授、モスクワ国立大学



モスクワ国立大学



マゼイ副学長による挨拶



相木次席公使による挨拶



笠原理事・副学長による挨拶

歴史学部ヴラジスラヴ・ジチェニョフ准教授、本学理学研究院のヘレナ・フォルトゥナト准教授、本学地球環境科学研究院のラム・アバタル助教、モスクワ国立大学哲学部のアンドレイ・ランチン教授からそれぞれ紹介がありました。

全体会終了後は、モスクワ国立大学の学生によるキャンパスツアーが実施され、参加者は赤や黄色に色づく木々

を愛でながらモスクワ国立大学内を散策しました。

初日の午後及び二日目は、分野ごとの分科会に分かれ、双方から研究発表等が行われました。各セッションとも活発な議論が交わされ、文献紹介が行われるなど研究面での進展をもたらしたほか、論文集の発刊や研究交流の継続を相互に確認するなど、研究者交流の点からも非常に実りある交流デーと

なりました。

今後も本学では、ロシア連邦の教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、学術面にとどまらない幅広い面での交流を強化していきます。

(国際部国際連携課)

※ 分科会・テーマ一覧

Session 1-1: Rethinking the Role of Normative Grammar in Society and Beyond: Interdisciplinary Approaches (1) (参加者：約20名)

Session 1-2: Islam in Central Eurasia (Dedicated to the Memory of Professor Dmitrii Iur'evich Arapov together with IVI and INION RAN) (1) (参加者：約15名)

Session 1-3: Human Culture in Northern Eurasia and Arctic: Adaptive Strategy and Cultural Diversity (1) (参加者：約12名)

Session 2-1: Rethinking the Role of Normative Grammar in Society and Beyond: Interdisciplinary Approaches (2) (参加者：約20名)

Session 2-2: Islam in Central Eurasia (Dedicated to the Memory of Professor Dmitrii Iur'evich Arapov together with IVI and INION RAN) (2) (参加者：約15名)

Session 2-3: Mollusks as Tools to Study Climate Change Impacts in Marine Environments (参加者：約25名)

Session 3-1: Russian Literature and World Cultures (参加者：約14名)

Session 4-1: Geospatial Techniques for Environmental Monitoring (参加者：約25名)

Session 4-2: Human Culture in Northern Eurasia and Arctic: Adaptive Strategy and Cultural Diversity (2) (参加者：約12名)



キャンパスツアー参加者



分科会の様子

「北海道大学進学相談会」を大阪で開催

本学主催の「北海道大学進学相談会」を8月の東京開催に続いて、10月7日（日）に大阪で開催しました。

会場では西井準治理事・副学長、長谷川晃理事・副学長をはじめ、各学部やアドミッションセンターの教職員、在学生等、合わせて約60名が高校生や保護者等への説明・相談に当たりました。

全体説明では、冒頭で西井理事・副

学長による挨拶があり、引き続き長谷川理事・副学長が本学の魅力について説明を行いました。その後は、藤田修アドミッションセンター副センター長による総合入試についての説明、山口淳二新渡戸カレッジ副校長による新渡戸カレッジについての説明等を行いました。また、それと並行して、全12学部の教職員・学生による相談ブース等において個別相談対応を行い、多く

の高校生・保護者等が訪れていました。

大阪会場の来場者数は682人で、8月25日（土）に開催した東京会場での来場者数1,110人を加えると、今年度は2会場で1,792人となりました。

（アドミッションセンター）



全体説明で挨拶する西井理事・副学長



本学の魅力について説明する長谷川理事・副学長



入試制度の説明をする藤田アドミッションセンター副センター長



来場者と語り合う西井理事・副学長と長谷川理事・副学長



学部相談ブースの様子



北大生と話そうコーナーの様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（10月31日現在）

23,177件 4,597,563,325円

10月のご寄附状況

法人等16社、個人名の157名の方々から15,443,723円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人社団美しが丘という内科、上川管内母子寡婦福祉連絡協議会、株式会社木村工務店、JFEミネラル株式会社、鳥居薬品株式会社、パシフィックシステム株式会社、北海道大学文系4学部東京同窓会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	天野 良	荒瀬 規子	安藤 孝夫	石田 忠	伊藤 博一	入江 和彦	入澤 秀次
上江洲安宏	大塚 仁美	大野 和則	大場 淳一	大原 正範	岡田 裕	小内 透	小原 大和
加賀田裕介	柿沼 光明	鍵和田忠男	加藤 勝利	加藤 紘之	加藤 芳宏	金川 眞行	川代 敦志
河本 充司	窪田 開拓	桑原 照雄	小長井奎幸	斉藤 久	齋藤文志郎	斉藤 光信	坂本 大介
佐藤 淳治	三升畑元基	塩井 孝	志済 聡子	篠原 正英	杉江 和男	杉田 恵子	鈴木 貴之
鈴木奈美子	瀬名波栄潤	平 和俊	高島 元	高橋 隆司	竹内 信彦	竹内 学	竹田 剛
竹田 寛	武田 宏司	田子 真	田代 邦雄	田代理枝子	土田 芳彦	土家 琢磨	土屋 裕
角田 実	寺澤 睦	土井 陸雄	土井 敦子	研谷 靖	戸田 純子	土橋 晋也	豊田 威信
内藤 春彦	永井 潤一	長岡 宗男	長崎 滋	中田 邦雄	中塚 英俊	中村仁志夫	長屋 良行
南園 真純	蓮本 浩介	長谷敬太郎	長谷川 晃	長谷川就一	長谷川裕正	早野 利人	羽山 広文
福永 悟郎	古谷 修	細井 康雄	細川 悌弘	前田 博	政氏 伸夫	松浦 清	松沢 幸一
松原 謙一	松廣 眞介	丸山 健一	水谷 啓子	御園生 潤	三谷 彩子	三谷 千花	皆川 一志
宮内 徹也	宮坂 正昭	宮田 信幸	三好 秀明	村上 幸夫	村元 富夫	望月 恒子	森田 高行
森田 俊彦	山下 貴正	山田 元	横井 成尚	横田 篤	横田 恒一	横山 考	吉岡佐知子
吉田 広志	和久津和洋	渡辺 康了					

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法 人）

JFEミネラル株式会社、鳥居薬品株式会社

（個 人）

大場 淳一、柿沼 光明、高島 元、竹田 剛、武田 宏司、田代 邦雄、田代理枝子、土井 陸雄、土井 敦子、
研谷 靖、中村仁志夫、早野 利人、羽山 広文、宮坂 正昭、村元 富夫、横田 篤

感謝状の贈呈



中外製薬株式会社 様（平成30年10月17日）



笹本洋一 様（平成30年10月24日）



一般財団法人協済会 様（平成30年10月25日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（北海道大学 百年記念会館内・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

イチョウ並木の一般開放を実施

10月27日（土）・28日（日）の2日間、観光客や市民の皆様が安全に黄葉を鑑賞できるように、北13条通りの車両通行を規制して「イチョウ並木の一般開放」を実施しました。

当日はあいにく雨が降ったり止んだり安定しない空模様でしたが、今年はイチョウ並木の一般開放を2日間としたことや、開放時間を昨年より延長したこともあり、2日間で三万人を超す

方々が訪れました。来場者は、イチョウで埋めつくされた黄色のじゅうたんをゆっくりと歩き、写真撮影するなど、秋の一日を満喫していました。

また、北大元気プロジェクト採択団体が、飲食屋台やイチョウ並木のライトアップなどの「北大金葉祭」を実施し、黄葉の鑑賞を盛り上げました。

（総務企画部広報課）



北13条通りのイチョウ並木

スイス北海道大学アンバサダー エーリッヒ・ウィンドハブ教授及び武田 靖名誉教授来学に際し、総長表敬及び欧州同窓会関係者懇談会を実施

11月7日（水）・8日（木）、本学において、スイス在住の北海道大学アンバサダー エーリッヒ・ウィンドハブ教授及び武田 靖名誉教授による総長表敬及び欧州同窓会関係者懇談会を実施しました。

スイス連邦工科大学チューリッヒ校（ETHZ）のウィンドハブ教授は、同食品加工工学研究室長として2004年から本学工学研究院の研究室と交流締結を交わし、2010年から本学とETHZで開催地を交代しながら実施している学術交流シンポジウムの中心人物を務めるなど、研究者や大学院生の相互派遣を継続的に支援いただけてきました。一方、武田名誉教授はかつて本学工学研究院の教授としてウィンドハブ教授と研究室間学術協定を交わし、本

学退官後はETHZのシニアサイエンティストとしてウィンドハブ教授との共同研究を続けています。

また、ウィンドハブ教授は今年3月に設立された北海道大学欧州同窓会の会長、武田名誉教授は副会長に就任されています。

名和豊春総長への表敬では、今回8回目となるETHZとの学術交流シンポジウムとそのベースである食品加工工学を中心にした研究交流について話が弾み、今後も末永く、またより一層の研究交流を継続することを互いに確認し合いました。

また、欧州同窓会関係者懇談会には、本学側から、笠原正典理事・副学長、田畑伸一郎欧州ヘルシンキオフィス所長、川野辺創国際連携機構副機構

長、浅野賢二校友会エルム事務局長、齋藤幸義国際部国際連携課長らが出席し、これまでの協働について感謝を述べるとともに、欧州同窓会にかかるヘルシンキオフィスの関わりや、主に今年度から来年度にかけての年次総会や交流行事の開催協力、そして本学とETHZとの連携活動の促進協力をお願いしたところ、快諾いただきました。

今回の総長表敬及び懇談会を機に、ETHZと本学との教育・研究交流活動の推進はもちろん、欧州同窓会活動の促進と学術・研究交流の活性化及び留学生リクルーティング活動の発展が、今後ますます期待されます。

（総務企画部広報課）



名和総長（右）との懇談の様子



ウィンドハブ教授（左）と武田名誉教授



本学関係者との記念撮影
（欧州同窓会関係者懇談会）

「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に20名の研究者が参加

平成24年度から実施している「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業、通称「Academic Fantasia」では、北海道新聞社の協力のもと、高校生を対象とした出前授業や公開講義を行っています。今年度は、ここに紹介する20名の研究者たちが、高校生に向けて最前線の「知」を解説します。

(総務企画部広報課)

参加者一覧 [敬称略・順不同]

- ・高瀬 克範 (文学研究科 准教授)
「文字記録を残さなかった人々の歴史を考古学によって復元する」
- ・網塚 浩 (理学研究院 教授)
「絶対零度の世界」
- ・加藤 昌子 (理学研究院 教授)
「結晶なのにやわらかい、光るソフトクリスタルの七変化」
- ・塚本 尚義 (理学研究院 教授)
「はやぶさ2が明らかにする宇宙と生命の謎」
- ・北原 圭 (理学研究院 特任助教)
「北大の研究者と大学院生が語る『生命とは何か?』」
- ・芳賀 永 (先端生命科学研究院 教授)
「がん細胞の動きを止めろ！」
- ・寒川 美奈 (保健科学研究院 准教授)
「環境に応じたカラダづくりとストレッチング」
- ・清水 伸一 (医学研究院 教授)
「未来の放射線治療～体内を見ながら体外からがんを狙い撃つ」
- ・白土 博樹 (医学研究院 教授)
「研究開発を実用化するために～粒子線治療～」
- ・今内 覚 (獣医学研究院 准教授)
「動物の難治性疾病(がん・感染症)に対する創薬研究」
- ・好井 健太郎 (獣医学研究院 准教授)
「ダニが持つ人獣共通感染症を防げ!～道民に意外と身近な危機～」
- ・工藤 興亮 (北海道大学病院 診療教授)
「磁石の力で脳の病気を見える化する」
- ・川堀 真人 (北海道大学病院 特任講師)
「脳は治る!～神経疾患に対する再生医療の最前線～」
- ・根本 知己 (電子科学研究所 教授)
「脳の不思議、心の謎」
- ・三澤 弘明 (電子科学研究所 教授)
「夢のエネルギー人工光合成の実現に向けて」
- ・青沼 仁志 (電子科学研究所 准教授)
「昆虫が超高速の運動を生み出すカラクリ」
- ・長山 雅晴 (電子科学研究所 教授)
「漸化式を使っていろいろな現象を数学にしてみよう！」
- ・佐藤 威友 (量子集積エレクトロニクス研究センター 准教授)
「先端エレクトロニクスでエネルギー課題に貢献する」
- ・加藤 博文 (アイヌ・先住民研究センター 教授)
「アイヌ民族の歴史遺産の魅力:北海道と世界を繋ぐ」
- ・湊屋 街子 (環境健康科学研究教育センター 特任講師)
「胎児期の環境が将来の健康に影響している？」



北海道新聞に掲載されたキックオフ広告

実施報告（10月）

藤女子中学校・高等学校の生徒が、本学の陽子線治療センターを見学

前半は、白土教授が自身の高校時代の話を変えながら、陽子線治療に関するレクチャーをしました。後半は、清水教授が陽子線治療センターを案内し、普段は見ることのできない治療装置の裏側も見学してもらいました。講義に関するアンケートでは、「誰もがガンになりうるこの時代で、私の知らない所でこのような研究がされていることに感動しました」といった感想がありました。

■日 時：10月17日（水）15:30-17:00

■会 場：北海道大学医理工学院中研究棟、北海道大学病院陽子線治療センター

■参加生徒：藤女子中学校・高等学校中学3年生～高校3年生8名

■参加教員：白土 博樹（医学研究院 教授）

清水 伸一（医学研究院 教授）



白土教授によるレクチャー



清水教授の案内で陽子線治療センターを見学

北海道札幌南高等学校にて、7名の教員による出前授業を実施

1年生全員が参加する進路講演会で、物理、生物、エネルギー、環境、脳科学など、本学の幅広い研究分野に触れてもらいました。それぞれの授業で多くの質問があがり、授業後に個別に質問に来る熱心な生徒も見られました。

■日 時：10月18日（木）14:15-16:05

■会 場：北海道札幌南高等学校

■参加生徒：北海道札幌南高等学校1年生314名（1名あたり2講義選択）

■参加教員：網塚 浩（理学研究院 教授）
 以本 尚義（理学研究院 教授）
 北原 圭（理学研究院 特任助教）
 根本 知己（電子科学研究所 教授）
 三澤 弘明（電子科学研究所 教授）
 佐藤 威友（量子集積エレクトロニクス研究センター 准教授）
 湊屋 街子（環境健康科学研究教育センター 特任講師）



網塚教授



以本教授



北原特任助教と参加した生徒たち



根本教授



三澤教授



佐藤准教授



湊屋特任講師

北海道札幌北高等学校にて、文学研究科 高瀬准教授が講義

「考古学は分類的には文系だけれど、実は高校までの化学の知識が役立つ学問なんです」と高瀬准教授。考古学の楽しさについても語っていました。参加した生徒からは、「人間の歴史を初めて自分が発見できるという点で、とてもワクワクする学問だと思った」「僕が通っている北高の下からも遺跡が出ていることに驚きました」といった声がありました。

■日 時：10月31日（水）15:50-17:20

■会 場：北海道札幌北高等学校

■参加生徒：北海道札幌北高等学校1年生23名、2年生8名

■参加教員：高瀬 克範（文学研究科 准教授）



大勢の生徒が参加



質疑応答の様子

九州大学とキャンパス計画マネジメント交流会議を開催

サステイナブルキャンパスマネジメント本部及び施設・環境計画室は、10月30日（火）に「第4回北大九大キャンパス計画マネジメント交流会議」を百年記念会館大会議室において開催しました。

本会議は、九州大学キャンパス計画室と合同で開催しているもので、第4回となる今回は「キャンパスの交通計画とマネジメント」をテーマとしました。本学及び九州大学の教職員のほか、本学学生及び他の国立大学の職員からも参加があり、計32名での開催となりました。

会議は、最初に皆川一志理事（サステイナブルキャンパスマネジメント本

部長、施設・環境計画室長）から挨拶があり、続いて本学工学研究院の小篠隆生准教授の進行により主題解説及び意見交換が行われました。主題解説では、九州大学から「九州大学伊都キャンパス紹介」（山本聖一郎施設部長）、「九州大学のキャンパス計画とAI自動運転バス実証実験」（キャンパス計画室坂井猛教授・山王孝尚助教）及び「九州大学の交通計画」（工学研究院外井哲志准教授）について、本学から「北海道大学キャンパスマスタープラン2018」（工学研究院小澤丈夫教授）、「北海道大学札幌キャンパスにおける交通計画」（工学研究院萩原 亨教授）、「札幌市の都市・交通計画と北海道大

学キャンパス」（公共政策学連携研究部高野伸栄教授）について報告がありました。意見交換では、伊都キャンパスが本年完成したばかりの九州大学と、長く現在の地で歴史を刻んでいる本学という異なる立場から活発に意見が交わされました。その後、閉会にあたって、九州大学の山本聖一郎施設部長と本学の天野 良施設部長からそれぞれ挨拶がありました。

本会議は、本学と九州大学で交互に開催しており、第5回となる次回は、九州大学において来年度開催する予定です。

（施設部施設企画課）



皆川理事による挨拶



九州大学からの発表



活発な意見交換

平成30年度補正予算案（本学関係分）の主要事項

平成30年度補正予算案（本学関係分）の主要事項は、次のとおりです。

事 項	摘 要
（平成30年10月15日閣議決定）	
【施設整備事業】	
○（札幌他）基幹・環境整備（ブロック塀対策）	

（施設部施設企画課）

秋のガレージセールを開催

10月10日（水）、学生交流ステーション（旧国際連携機構）ロビー及び学生活動室において、秋のガレージセールを開催しました。これは、本学の教職員の妻と女性教職員で構成されている北海道大学国際婦人交流会が春と秋の年2回行っているもので、留学生と外国人研究者に対して日常生活に必要な物資を提供しているものです。

当日は約200名の来場があり、来場者は開場とともに炊飯器、アイロンと

いった小型家電や、食器や調理器具など日用品、冬物衣料などのコーナーに詰めかけ、多くの留学生が手に手に大きな荷物を抱え、活気ある賑わいを見せていました。

毎年4月と10月の開催前には学内にに向けて物品提供依頼をしています。皆様のご協力をお願いいたします。

（学務部学生支援課）



冬用コートを手に入れた留学生たち



子ども用品を探す留学生たち



にぎわう会場（中庭）の様子



布団を選ぶ留学生たち

新入留学生オリエンテーションを実施

本年10月に入学した外国人留学生を対象として、新入留学生オリエンテーションを10月2日（火）に実施しました。このオリエンテーションは留学生が一日も早く本学での学生生活に慣れ、戸惑いや不安を解消し、新しい環境へ適応してもらうことを目的としています。オリエンテーションは英語セッション、日本語セッションの2部構成で進められ、57の国と地域から新しく渡日した合計438名の新入留学生が参加しました。

オリエンテーションでは、学生相談総合センター留学生相談室の石井治恵カウンセラーから日本の学生生活で適應するためのヒント、北警察署から日本の交通ルールやサイバーセキュリティ、先輩留学生から大学内外での手続きや生活の注意点、学生支援課から災害への備えや事故への対処法等が説明された他、卒業後の進路を見据えた

学生生活を送るようにと人材育成本部の飯田良親特任教授から激励があり、参加者は聞き入っていました。

オリエンテーション終了後は学生相談総合センター留学生サポート・デスクのスタッフが希望者に対し日本語・英語・中国語の3言語でキャンパスツアーを実施し、これから過ごすキャンパスの説明を受けました。また附属図書館メディアコートでは留学生及び外

国人支援を行っている様々な団体のポスター展示等による活動紹介ブースが設けられ、新入留学生が各団体担当者へ熱心に質問をする姿が見られました。札幌市北清掃事務所のブースでは、ゴミの分別を実際に体験できるコーナーもあり、楽しみながら日本生活のルールを学ぶ機会となりました。

（学務部学生支援課）



中国語でキャンパスの案内を受ける新入留学生



北清掃事務所職員によるゴミ分別についてのデモンストレーション

高等教育推進機構等自衛消防訓練を実施

高等教育推進機構、附属図書館北図書館、メディア・コミュニケーション研究院、放送大学北海道学習センターを構成員とする共同防火管理協議会では、10月19日（金）に、自衛消防訓練を実施しました。

訓練は高等教育推進機構E棟1階給湯室から出火したとの想定で、約500名の学生・教職員が参加し、自衛消防隊が通報連絡、初期消火及び避難誘導等の一連の訓練に取り組みました。また、アクセシビリティ支援室と連携し、災害時に避難が困難となることが予想される肢体不自由職員及び視覚障害学生の救護訓練を実施しました。

自衛消防隊本部隊長である長谷川晃理事・副学長（高等教育推進機構長）は、訓練終了後の挨拶で、昨今の地震被害に触れ、日頃の防災意識を高めてほしい、と訓練参加者に呼びかけていました。



長谷川理事・副学長の挨拶

最後に、水消火器を用いた操作訓練が行われ、実際の火災に備えた実践的な訓練を行うことができました。

（学務部学務企画課）



水消火器による消火訓練

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、9・10月に以下のとおり研修会を開催しました。

（高等教育推進機構）

Workshop on introducing Active Learning to your classes ～

アクティブラーニング導入ワークショップ 参加者：3名

開催日：9月21日（金）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：アクティブラーニングという言葉はすっかり浸透してきたが、その実態として、どのような授業を行えば良いのかといった点についてはまだまだ共通理解が得られていない。アクティブラーニングを正しく理解し、自身の授業にどのように取り入れることができるかを考えることを目的として英語で開催した。



Workshop on introducing Active Learning to your classes

第36回北海道大学教育ワークショップ 参加者：13名

開催日：9月25日（火）～26日（水）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：採用されてから5年未満の教員を対象に、授業を構成するために必要な教育の基礎を理解すること、アクティブラーニング型授業を設計する方法を理解しシラバスを作成できること、志を同じくする同志と教育について話し刺激し合うことを目的として開催した。



北海道大学教育ワークショップ

情報セキュリティ対策セミナー等を開催

情報環境推進本部では、10月16日（火）に「情報セキュリティ対策セミナー」を、10月24日（水）に「情報セキュリティセミナー」を開催しました。

情報環境推進本部では、引き続き、情報セキュリティ対策の情報発信を続けていくほか、今後も各セミナーを開催し、教職員及び学生の情報セキュリ

ティに関する対策支援に取り組んでいます。

（情報環境推進本部）

情報セキュリティ対策セミナー

今回は、JPCERTコーディネーションセンターから早期警戒グループマネージャー洞田慎一氏を講師に迎え、部局等の情報セキュリティ管理者向けと役員・部局等の長向けのセミナーを行いました。

部局等の情報セキュリティ管理者向けは、「大学等におけるサイバー攻撃事例から考えるインシデントへの対応」と題し、学術交流会館（第1会議室）にて開催しました。

セミナーでは、構成員が多様であること、ガバナンスが特殊であることなど、大学特有の事情が問題を複雑にしている可能性や、そこから生じたインシデント事例についての解説がありました。標的型メール攻撃の事例紹介においては、近年は「科研費」に関連するもの、学会活動や研究内容に関連するものが継続的に確認されている旨の説明があり、いつでも誰にでも起こりうるものであることを認識させられました。また、セキュリティ対策では、自組織でインシデントの発生に気づくことは大変難しく、それらを検知するためには、定期的なログの収集や保存、分析が必要であることなど、日頃より情報を確認しておくことが大切であるとの説明がありました。

午後には、役員・部局等の長向けに、部局長等意見交換会の議題の1つとして、「大学等におけるサイバー攻撃の現況と求められる対策」をテーマに講演が行われました。

大学は多様性を持つがゆえに管理が容易ではないことや、インシデント発生を未然に防ぐには組織内の体制が期待どおりに機能するか否かの検証が必要である旨の話がありました。また、攻撃の目的を意識し、セキュリティ問題を経営課題として意識することが重要であること、さらに、攻撃を防止するだけでなく、早期検知、復旧、追跡調査ができる準備が大切であるとの話があり、課題を再認識する機会となりました。

情報セキュリティセミナー

全教職員・学生を対象とした本セミナーは本年度2回目の開催となり、昨年に引き続き、トレンドマイクロ株式会社から上級セキュリティエバンジェリスト染谷征良氏を講師に迎え、工学部フロンティア応用科学研究棟にて「サイバー攻撃の最新動向といまからできるセキュリティ対策」をテーマとする講演が行われました。

同社の調査によると、北海道内の約半数の組織がセキュリティインシデントによる重大な被害を受けており、また近年においては、「フィッシング詐欺」が急増し、その手口は非常に巧妙で、誘導されたサイトも本物と比べても見分けがつかない程酷似してきているとのことでした。

また、こうしたサイバー攻撃から身を守るためには、①OS、ソフトウェア、セキュリティ製品は常に最新のものを使う、②二要素認証・二段階認証を使う、③情報セキュリティに関する学内ルールを守る、④不審なメールやリンクをクリックしない、⑤不審な兆候が現れたらヘルプデスクに直ちに連絡、の同社による「サイバー攻撃対策5か条」を日頃から意識することが重要である旨説明があ



講演する洞田氏



参加者の様子（部局等の情報セキュリティ管理者向けセミナー）



講演を聞く役員・部局長等



講演する染谷氏

りました。

セミナーには、函館キャンパスの遠隔参加も含め63名の参加があり、実施後のアンケートにおいては、「大変参考になった」「ある程度参考になった」との回答が、回答者（回答率73.0%）の78.3%から得られ、満足度の高い有意義なセミナーとなりました。



説明する南情報セキュリティ対策室長

国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーションが「世界の食資源システムを回復させるための国際シンポジウム」を開催

国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーションは、ワシントン州立大学をはじめ多くの海外大学の教員とともに、様々な国際食資源問題の解決に向けた研究と教育を推進しています。10月3日（水）・4日（木）に「世界の食資源システムを回復させるための国際シンポジウム」を工学部フロンティア応用科学研究棟において、国際食資源学院、農学研究院、工学研究院及びロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点との共催で開催しました。

食の生産から消費までの一連の活動とその過程である食資源システムの安定確保には、地球規模で起きている地

球温暖化、急激な都市化、高齢化などの問題をはじめ、自然災害、政治・経済的危機、さらには予測できない様々な問題に対処していかなければなりません。複雑な食資源問題の解決には、多くの学問領域を融合させたアプローチが必要です。本シンポジウムでは、フィンランド自然資源研究所副所長 Taneli Kolström 博士による「バイオエコノミーとサステナビリティ」、ワシントン州立大学 Juming Tang 教授による「新たな食品加工技術と食品ロスの減少」、及び農学研究院野口 伸教授による「新たな社会 Society 5.0 に向けたスマート農業」の基調講演とともに、GI-CoRE 教員や工学研究院など

の研究者から、最新の研究成果及び今後の食資源問題解決に向けた話題提供があり、講演者や参加者らとの間で熱心な討議が行われました。また、国際食資源学院学生による海外実習の帰国報告とポスター発表、及びミャンマーから学生実習協力者による発表も行われました。海外からの招へい教員による評価も併せて実施され、優秀な発表をした学生には、学院長賞が授与されました。学生にとっては、国際プレゼンテーションの機会になったとともに、今後の研究に向けた貴重なアドバイスを得ることができました。

（国際連携研究教育局・国際食資源学院）



井上ステーション長による開会の挨拶



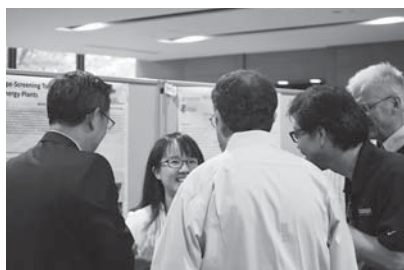
Taneli Kolström 博士による基調講演



Juming Tang 教授による基調講演



国際食資源学院の学生によるポスター発表の様子



学院長賞の授与式の様子

■ 部局ニュース

歯学院・歯学研究院・歯学部が台北医学大学と部局間交流協定を締結

歯学院・歯学研究院・歯学部は、10月9日（火）に台北医学大学口腔医学院と部局間交流協定を締結しました。

台湾・台北市内で開催された調印式には、歯学研究院から八若保孝研究院長、鄭 漢忠教授、大廣洋一准教授ら5名が赴き、台北医学大学からはHsin-Chung Cheng学院長ほか7名が参加して行われました。

台北医学大学とは、2017年に大学間交流協定も締結しており、今後は、本協定に基づき、国際共同研究の実施や教育研究における交流連携が一層推進されることが期待されます。

また、台湾訪問中には、国立陽明大学歯学院長のほか、台湾衛生福利部長（日本の厚生労働大臣に相当）、台湾歯科医師会理事長、台湾歯科学会理事

長などの行政・学会関係者とも教育・医療事情について情報交換が行われ、国立陽明大学とは、部局間交流協定締結に向けた動きが進められることになるなど、非常に有意義な台湾訪問となりました。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



調印する八若研究院長（右）とCheng学院長



調印式参加者の集合写真



行政関係者等との集合写真

文学研究科でアカデミック・ハラスメントに関するFDを開催

文学研究科では、10月12日（金）に、広島大学ハラスメント相談室教授の横山美栄子先生をお迎えして、「アカデミック・ハラスメントの解決のために一事例検討を中心に」と題したFDを開催しました。横山先生は昨年、長年にわたる豊富な相談経験をもとに、同僚である北仲千里氏と共著で「アカデミック・ハラスメントの解決」（寿郎社2017）を出版されています。

アカデミック・ハラスメントの背後には、一般の職場でのハラスメントとは異なる、教育・研究という場に特有の権力関係があり、被害の形も一般の職場とは異なります。また一言でアカハラと言っても、学部生が直面する問題と、大学院生が直面する問題では質が異なることもあり、さらに人文・社会学系と理系の大学院生では直面する問題の性格が異なることもあります。今回のFDはそのようなポイントを踏

まえたものでした。

FDは事例をもとにしたワークショップ形式で開催しました。参加者は5～6人のグループに分かれて、横山先生が準備した三つの事例について自分が相談を受けたらどうするか、というテーマでディスカッションを行い、その後各事例について横山先生がコメントを加え、それを踏まえた質疑応答がなされました。

横山先生が準備された事例は、他大学から進学してきた女性院生や留学生に関するもので本学の文学研究科の教員にとってリアルなものだったようで、どのグループでも活発に議論がなされていました。問題にされたポイントは、教員が十分な指導をしない、大学院生を秘書代わりに使う、アカハラがセクハラに発展する、教員が大学院生の集めたデータを無断で使う、留学生の研究上のミスマッチ、日本的な大学院文化になじめない留学生への配慮

の欠如、といったことでした。教員によるデータの無断使用の事例はデータを扱う教員には深刻なものとして、また留学生を多く受け入れている研究室の教員は留学生の事例を自分たちの問題として受け止めていたようでした。また質疑応答でも活発な議論がなされました。

横山先生は文系大学院生の特徴として「1対1の師弟関係を通じた、強い対人的影響力」があることや「日常的な言動を裏付ける信念と研究指導内容が連関しやすい」ことを指摘しました。またこういった特徴のために修士課程、博士課程と進学するにつれて問題が深刻化して被害救済が難しくなる傾向があること、将来にわたる研究者としてのキャリア形成への影響があること、尊敬・信頼が深いほど不信感へと変わった時の影響が大きいこと、対策としては研究領域を変えるか研究者をやめるという選択しはなくなること

等も指摘しました。横山先生のメッセージは、白黒をつけたり処分したりすることがアカハラの解決ではなく、「育て、巣立たせる」という視点での対応が必要で、大学に大切にされているという実感を学生に与える必要があるというものでした。さらに学生の「逃げ場」をつくり、学生を囲い込まない複数指導体制をつくる必要性も指摘されました。またアカハラは研究不正と結びつくことも多く、研究不正には厳正な態度で望む必要があることも強調されました。

本研究科ではパワハラなどに関する

FDを実施してきましたが、今回のFDは「人文・社会系の研究者養成系の大学院」に特化した内容のアカハラに関するものだったこともあり、教員が日



ディスカッションの様子

頃の指導のあり方について考え直すよい機会になったようです。

(文学研究科・文学部)



講師の横山先生

法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティーを開催



集合写真

10月18日（木）、外国人留学生とサポーター・チューター学生や交換留学経験者、関係教職員を対象とした、法学研究科・法学部・公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）合同の「留学生パーティー」を開催しました。

本パーティーは、留学生同士及び留学生と日本人学生・関係教職員との交

流の機会を提供することにより、相互に理解と親睦を深めてもらうことを目的として、毎年この時期に開催しているものです。

外国人留学生の入学者は、全学的にも年々増加していますが、現在、法学研究科・法学部及び公共政策大学院には127名の外国人留学生が在籍しています。



ビンゴゲームに集中

当日は、学生ら87名が出席し、留学生が司会を務めました。パーティーは主催者を代表して加藤智章法学研究科長の挨拶で始まり、参加者は自己紹介やビンゴゲームなどを通じて大いに盛り上がり、互いに親交を深めました。

(法学研究科・法学部、公共政策学教育部・公共政策学連携研究部)

経済学院・経済学研究院・経済学部で外国人留学生懇親会を開催



集合写真

経済学院・経済学研究院・経済学部では、11月1日（木）に研究棟3階会議室において、平成30年度外国人留学生懇親会を開催しました。

本学院・研究院・学部では、外国人留学生が年々増加しており、特に大学院修士課程（現代経済経営専攻）においては、在籍する学生の大半を占めています。このような状況の下、留学

生、日本人学生、教職員が相互に理解と親睦を深め、交流を通して生まれた絆が留学生の生活適応や日本人学生の国際経験に資することを目的とし、本懇親会を開催しています。

11回目の開催となる今回は、司会進行とゲームの企画を日本人学生及び中国からの留学生の3名が務め、在籍する留学生や、そのチューター・サポー



親睦を深める参加者たち

ター、そして国際交流に関心のある日本人学生と関係教職員など計72名が参加しました。参加者は軽食を取りながら、歓談やゲームへの参加を通して互いに親交を深め、盛況のうちに閉会しました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）

保健科学研究院公開講座「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」を開催

11月3日（土・祝）、保健科学研究院の公開講座「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」を開催しました。講座では、3名の講師陣が専門分野の紹介を行い、83名の参加がありました。

第1限目は、神島 保教授が「最新画像診断技術が拓く医療の未来」と題して、多彩な発展を続ける画像診断の最新情報及び近未来の画像診断や医療の方向性について講演しました。

第2限目は、境 信哉教授が「神経心理学からみた高齢者の自動車運転」と題して、高齢ドライバーが起こしがちな様々なエラーに関して、神経心理学の観点から、その原因について講演しました。

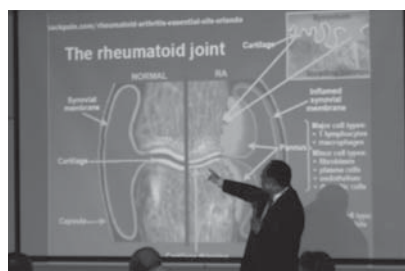
第3限目は、浅賀忠義教授が「転ばぬ先の専門知識」と題して、加齢に伴う転倒のメカニズムと予防について、最新のリハビリテーション科学の知見を基に講演しました。

参加者からは大変好評を博し、様々な質問があり、各講師はわかりやすく

丁寧に解説を行いました。

今後も毎年、その時代を反映するようなテーマや、興味を持って参加いただけるようなテーマを設定して、公開講座を開催していく予定です。

（保健科学研究院）



神島教授による講演の様子



質疑応答の様子

第10回ロバスト農林水産工学「科学技術先導研究会」を開催

10月19日（金）、水産科学研究院管理研究棟大会議室において、第10回ロバスト農林水産工学「科学技術先導研究会」を開催しました。本学のロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点事業では、農林水産業すべての分野のロバスト化への貢献を目指しています。今回は水産業のロバスト化に焦点を当て、函館の水産科学研究院で研究会を開催する運びとなり、行政機関、農林水産業の関連団体、民間企業、学生を含め約50名が参加しました。

本研究会は、木村暢夫水産科学研究院長からの開会挨拶で始まり、増田隆夫工学研究院長からロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点事業の趣旨説明がありました。

続いて、足立伸次水産科学研究院教授から、北海道鹿追町ほかにおけるチョウザメ養殖の展開について、小関

成樹農学研究院准教授から、農産物・食品の品質と安全性の両立を実現するための取組みについて発表がありました。次いで、大木淳之水産科学研究院准教授から、海中を見ることから始める海の利用について、森 太郎工学研究院准教授から、積雪寒冷地の温室における室内環境の維持について研究シーズの発表がありました。

引き続き、水産科学研究院先端環境制御実験棟でラボツアーが行われました。参加者は、屋内では、音響水槽等を配置した「技術開発実験ゾーン」や、水温や日照時間の長さを制御できる「環境制御実験ゾーン」等を、屋外では、チョウザメ等を飼育する「屋外水槽スペース」を見学しました。

研究会会場に戻り、瀬戸口剛工学研究院副研究院長からロバスト農林水産工学「科学技術先導研究会」の今後の

展開について説明がありました。

最後に、横田 篤農学研究院長の閉会挨拶により、本研究会は盛会裡に終了しました。その後、同会場で行った名刺交換会では、参加者が講演者に熱心に質問したり、参加者同士が活発に交流を図る様子が見られました。

（工学研究院）



シーズ発表の様子



会場の様子



ウナギの水槽を見学する参加者



チョウザメの水槽を見学する参加者

工学系部局で救急救命講習会を実施

工学系部局では、10月23日（火）に工学研究院アカデミックラウンジ3において、公益財団法人札幌市防災協会から防火防災・救命指導専門員を招き、救急救命講習会を実施しました。

工学系部局のエリア内では、「どこにいても5分以内にAEDによる処置が可能となる」目安を満たすよう、10箇所（自動体外式除細動器）を設置しています。

本講習会は、学内外にかかわらず心肺停止に陥った人がいた場合、AEDを利用する等の方法により救急救命措置を行うことができるよう、心肺蘇生術を自身の技能として体得することを目的に毎年実施しているものです。

講習会では、14名の参加者が「一次救命措置（心肺蘇生法、AEDの取り扱い方）について」として、心肺蘇生法や人工呼吸のやり方、具体的なAEDの使用方法などの基礎的な実技を学び、参加者からは、「わかりやすかった」などの感想がありました。

なお、今年度から受講修了者に対してオリジナルバッジが授与されることとなり、増田隆夫工学研究院院長から授与が行われました。授与後には、普段からバッジを着用することで、救急救命措置が必要となった場合にいち早く対応可能な人を探すことができること、また、受講修了者同士が協力しやすくなることについて、増田工学研究

院長から説明がありました。

工学系部局では、来年度以降も救急救命講習会を開催していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



胸骨圧迫による心肺蘇生を行う参加者



バッジについて説明する増田研究院長



参加者全員での集合写真



オリジナルバッジ

環境科学院・地球環境科学研究院でFD研修会を開催

環境科学院・地球環境科学研究院では、サステナブルキャンパスマネジメント本部の協力を得て、10月29日（月）に「実験室の省エネ対策FD研修会」を、地球環境科学研究院会議室において開催しました。

本FD研修会は、同本部が実施する「実験施設に特化した省エネ対策の試

行」に参画予定の本研究院 沖野龍文教授を世話人として、省エネ意識の向上を目的に開催したものです。

当日は、本研究院・学院等の教職員及び学生19名の参加のもと、同試行のために来学中のUCL（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）Martin Farley氏を講師として、英語（通訳なし）に

よる講演を行っていただきました。

最初に、進行役の同本部 池上真紀特任准教授から講師の紹介に続き、世話人の沖野教授から冒頭の挨拶がありました。講演の演題は「実験室における持続可能性」で、効果的な省エネルギー対策や研究室のゴミの分別・減量に加えて、研究の再現性をあげること



冒頭の挨拶を行う沖野教授



講演を行うMartin氏



進行役の池上特任准教授

で無駄な研究をなくせるという指摘もあり、大変わかりやすく説明していただきました。続いて、活発な質疑応答が交され、最後に、大原 雅地球環境科学研究院長から講師へお礼が述べられ、充実した研修会となりました。

本研究院・学院では、平成25年度に、一般財団法人 省エネルギーセンター主催「省エネ大賞省エネルギーセ

ンター会長賞」を、テーマ“寒冷地の実験系大学院の節電”で受賞するなど、日頃から省エネに対する高い意識のもと教育研究活動を行っておりますが、この研修会を機会に、さらに意識を高めていきたいと考えております。

(環境科学院・地球環境科学研究院)



講師へお礼を述べる大原研究院長

国際広報メディア・観光学院,メディア・コミュニケーション研究院,観光学高等研究センターで研究倫理に関するFD研修会を開催

国際広報メディア・観光学院,メディア・コミュニケーション研究院,観光学高等研究センターでは10月26日(金)にFD研修会を開催し、財団法人公正研究推進協会理事の羽田貴史先生(東北大学名誉教授・広島大学名誉教授)をお招きして「責任ある研究活動を定着させるために一現状と課題」と題して講演を行っていただきました。

研究倫理の重要性が現在ほど強調されたことはなく、今後もさらに大きな課題となることは明かです。しかし研究者の中には「自分には関係ない」とこの問題に関心ない人もいます。羽田先生は研究倫理が大きな課題になった経緯、すなわち様々な問題とそれらへの対処の事例を国内外の比較で解説し、私たちがこの問題とはもはや無縁ではいられないことを強調されました。

研究大学では、常に大きなストレスを晒されている人が少なくありません。できるだけ多くの業績をできるだけ早く、またできるだけインパクトファクターの高い研究誌に発表することが求められるためです。しかしそのために重大な問題も生じています。データの捏造や改ざん、盗用だけではありません。古い時代の感覚のまま

いる指導者が急速に進化する研究倫理に関心であったため、そのラボで起きたいくつかの事件は大きな社会問題となりました。加えて組織の多文化化が進むと、個々の研究者や学生がもつ背景文化により、研究倫理に相違が出ることなど、きわめてアクチュアルな課題もあります。羽田先生は、それらを詳細なデータで具体的に報告されました。

こうした問題を避けるためには、まず研究者が(学生も含めて)率直に対話できる環境を作ることが必要であると羽田先生は強調されます。その上で、万が一倫理にもとることが起きてしまった場合に迅速な対応ができる専門家集団を組織・養成する必要性も指摘されました。各部署が個別に対応するだけではなく、知識と技能を持つ教職員が一丸となって迅速に対応する体制の構築が重要とのこと。同時に、様々な国の倫理教育の先進事例を

基に、大学に入学した段階から倫理教育を徹底して行うべきであるとも述べられました。

私たちはこれらの課題に真摯に向き合って行かなくてはなりません、羽田先生がそのための指針を数多く与えてくださったことは間違いありません。参加した40名は、その後の質疑も含めて多くを学ぶことができました。

なお羽田先生と東北大学高度教養教育・学生支援機構のご厚意により、参加者は羽田先生の著書である「研究倫理マネジメントの手引き」(東北大学高度教養教育・学生支援機構2018年)のご恵与いただきました。ここにあらためて厚く御礼を申し上げます。

(国際広報メディア・観光学院,
メディア・コミュニケーション研究院,
観光学高等研究センター)



講演する羽田先生



会場の様子

メディア・コミュニケーション研究院で、留学生と中国語シニア学習者との学習交流ワークショップを実施

メディア・コミュニケーション研究院では、留学生と中国語シニア学習者との学習交流会（ワークショップ）を、10月10日（水）、24日（水）、31日（水）の3日間にわたり実施しました。

この学習交流会は、本研究院内の共同研究プロジェクト「中国語シニア学習者と留学生の国際世代間協働による北大キャンパスガイドVRコンテンツの開発」の一環として実施されたもので、札幌在住の一般のシニア中国語学習者（日本人）と本学に留学中の中国語ネイティブスピーカーとで混成グループをつくり、相互に協働しながらキャンパスガイドのための紹介文を日中対訳で企画・作成するという活動です。単なるランゲージエクステンジではなく、双方の持つ各種のリソースを十分に活用して、本学キャンパスにまつわる新たな価値を共創することを目指しました。

今回参加したのは札幌のシニア学習者8名、留学生は中国出身2名、台湾出身3名。テーマ別に「札幌農学校と新渡戸稲造」「北大キャンパスに見るアイヌ文化と北海道の食文化」「北大精神とキャンパスの変遷」「サクシュコトニ川に沿って」の4グループに分かれ、留学生の若者の視点とシニア札幌市民の視点を交え、意見交換をしながら、お互いの興味・関心にもとづき、気になるスポットや紹介したい内容を設定しました。教室内で知識や情報を学ぶだけに留まらず、附属図書館や大学文書館、総合博物館から遠友学

舎、農場まで、本学キャンパス内各所での現地調査を含めた調べ学習を行いました。最終日には作成したキャンパス案内ガイド文を発表するプレゼンテーションも行い、和気あいあいとした雰囲気のうちに互いの協働学習の成果を確かめ合うことができました。

引き続き、参加者の企画に基づいてVRキャンパスガイドコンテンツを開発し、来年2月に視聴体験会も行いたいと考えています。

（メディア・コミュニケーション研究院）



サクシュコトニ川周辺での調査



企画発表プレゼンテーション

動物慰霊式を挙行

医学研究院附属動物実験施設

医学研究院附属動物実験施設では、10月4日（木）に、平成30年度動物慰霊式を医学部学生会館「フラテ」ホールにおいて執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に

受け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、教職員、学生等が多数参列しました。

はじめに、渡邊雅彦施設長から追悼の辞を述べた後、吉岡充弘医学研究院長の挨拶、参列者全員による黙祷・献

花を行いました。最後に渡邊施設長から適正な動物実験の実施について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



追悼の辞を述べる渡邊施設長



渡邊施設長による献花



参列者による献花

獣医学研究院

獣医学研究院では、10月12日（金）に、獣医学研究院講堂において動物慰霊式を執り行いました。

慰霊式は研究・教育のために提供された動物や附属動物病院で治療の甲斐なく死亡した動物の御霊に対し追悼の意を表するとともに、獣医学発展の陰

に多数の動物の尊い生命が犠牲にあることを厳粛に受け止め、生命への畏敬と倫理的責任感を啓発することを目的としたもので、教職員、学部・大学院学生のほか、飼い主等約250人が参列しました。

はじめに、動物の御霊に対して黙祷

を捧げた後、堀内基広獣医学研究院院長の式辞、参列者による献花、滝口満喜附属動物病院長による講話が行われ、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（獣医学研究院・獣医学部）



式辞を述べる堀内研究院長



参列者による献花

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所では、10月11日（木）に、遺伝子病制御研究所セミナー室において、昨年9月からの1年間に学術研究の礎として実験に供せられた動物の御霊を慰霊するため、動物慰霊式を執り行いました。

慰霊式には研究所教職員、大学院生・学生等関係者が多数参列し、はじめに村上正晃研究所長から、生命の尊

さを常に考え、動物福祉に一層配慮した研究態勢を考えていくことを願う旨の挨拶がありました。引き続き、参列者全員による黙祷、研究分野等代表者による献花が行われ、最後に高岡晃教動物実験施設長から追悼の辞と共に、今後とも諸法令を遵守し、適切な動物

実験の実施について、理解と協力を願う旨の挨拶がありました。

この動物慰霊式を通して、参列者全員が生命の尊厳、倫理観について改めて認識し、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（遺伝子病制御研究所）



村上研究所長による献花



挨拶を述べる高岡施設長

北方生物圏フィールド科学センターで 「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催

7月28日（土）～9月29日（土）に、雨龍研究林、札幌キャンパス、忍路臨海実験所、白尻水産実験所及び七飯淡水実験所において、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催しました。

本事業は、小学校5・6年生、中学生、高校生を対象に、科学研究費助成事業の研究成果をもとに、最先端の研究成果について直に見て、聞いて、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムとして、独立行政法人日本学術振興会からの支援を受けて実施しています。

以下に、今回実施した6件のプログラムを紹介します。

（北方生物圏フィールド科学センター）

海の森の調査隊～おしよろで“こんぶ”の役割を考える～

7月28日（土）に、忍路臨海実験所で、「基盤研究（B）：北太平洋西部沿岸におけるコンブ類の種多様性とその由来の解明」（研究代表者：四ツ倉典滋准教授）の成果をもとに、大学で取り組んでいる研究の一端に触れてもらうという児童・生徒へ向けた体験型プログラムを行いました。今回は、小学5・6年生を対象に、「海の森の調査隊～おしよろで“こんぶ”の役割を考える～」をテーマとして実施しました。

当日は、札幌市や小樽市に住む小学生11名が集まりました。開講式では、主催者側が本プログラムの趣旨と大学施設や屋外フィールドで学ぶうえでの心構えや注意点を伝えた後、受講生各人が1日の目標を発表しました。その後、実施代表者が「海の森の調査隊～おしよろで“こんぶ”の役割を考える～」のタイトルのもと講義を行い、大学で行っている研究内容を紹介しながらフィールド調査の魅力を伝えました。次いで、受講者は胴付長に着替え、忍路湾の平磯へ繰り出しました。ホソメコンブの生態について説明を聞

きながら局所的に広がるコンブ群落を目にして、ほとんどの受講生は初めて磯に茂っているコンブを見たことから大きな歓声を上げながらも、先の講義のなかで解説された「コンブの役割」について理解を深めていたようです。その後、受講生は3つの班に分かれ、“コンブ群落内に生育する海藻の採集”“箱メガネと水中カメラを用いた海中観察”“多項目水質計を用いた水質調査”を行いました。海中観察では一面に広がる磯焼けに驚く様子がみられた一方、水質調査では計器に示される数値が思ったよりも値が高かったことに驚き見入っている様子がそれぞれ印象的でした。

昼食後は、午前中に採集したコンブやその他海藻類の種同定と押し葉標本作りを行いました。海藻が呈する色合いの違いやきれいな標本を作るコツなどについて実施者から説明を受けながら熱心に作業し、出来上がった標本は夏休みの自由研究として全員が大切に持ち帰っていきました。なお、はじめはゆっくりと手を動かしていた受講生

ですが、昨年度のプログラムで同定した種数を伝えると一気にその動きは早くなり、最終的に30種を超える海藻の標本を作ることができました。次いで、実施分担者が“コンブの森の環境”“コンブの森に暮らすさまざまな海藻類”“コンブの森の造成”についてリレートークを行い、質疑応答によって疑問点を解消しました。午前中にコンブの重要な役割を勉強した受講生は、あらためてコンブの森が多くの生命の拠り所となっていることを認識し、その森を守るために環境について理解することや自分たちにできることを考えることの大切さを学んだようです。



磯へ出てホソメコンブの生態調査



“コンブの森”を船上から観察



コンブとともに見られる海藻の同定と標本作成



各種コンブを前に解説

修了式では、受講生全員から1日の目標を達成できたことが発表され、一人ひとりに未来博士号が手渡されました。

本プログラムは、毎回主催関係者の強いチームワークのもとで実施されています。今回も、準備から実施当日の円滑な進行と安全の確保のためにご尽

力いただいた教職員及び大学院生諸氏に感謝いたします。

体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”

7月28日（土）に、生物生産研究農場で、「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”」を実施し、中学生17名が参加しました。

午前中は、参加者は生物生産研究農場の園芸圃場を探索し、様々な小果樹について学びました。その後、品種改良の基本的な手法である植物の交配実験を行いました。

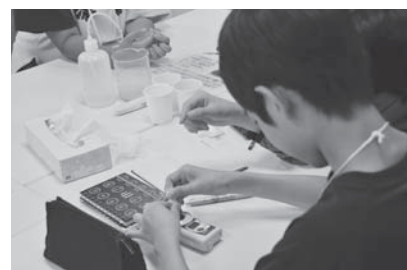
午後は、4つのグループを作り、「パラピン紙で交配袋を作ろう」「果実の糖度とpHを測ってみよう」「生きた花粉が伸びる様子をとらえよう」「シーベリーのタネを採ろう」の実験

を行いました。実験終了後は、手作りのベリーソースを添えたアイスクリームを味わい、最後に「未来博士号」の授与式を行いました。

自然豊かな北海道大学のキャンパス



圃場でラズベリーを堪能



ベリーの糖度を測定

北海道の魚たちをまるごとリサーチ

白尻水産実験所（函館市白尻町）では、「基盤研究（B）：暖流系生物の分布拡大で変遷する寒流域生物群集—漂着・繁殖あるいはゲノムパラサイト」及び「基盤研究（B）：ホストを乗り換え永続するアイナメ属半クローンゲノムの起源と進化、遺伝子の特定まで」（研究代表者：ともに宗原弘幸准教授）による成果のもと、8月5日

（日）に5年連続8回目の「北海道の魚たちをまるごとリサーチ」を開催しました。今年は、12名の申し込みがあり、静岡県、埼玉県、群馬県、東京都、青森県のほか札幌市など、地元以外から10名の参加がありました。参加者にとっては、普段とは違い寒流が流れる北海道の海と冷水域の生きものに

ついて、実習体験を通じて楽しく学んでもらえる機会になるだろうと、学部生・大学院生を含めたスタッフ一同は張り切って準備にあたりました。

しかし、開催前々日よりオホーツク海高気圧の張り出しが強くなり、当日夜明け頃には南東からの強風とその風に伴う沿岸湧昇流により一夜にして海水温が20℃から13℃にまで降下しました。そのため、シュノーケリングや地引網など野外で行うアクティビティは中止せざるを得ませんでした。そこで、当日は、高気圧であるのに北海道の気候を崩すオホーツク海高気圧による沿岸湧昇流の発生機構と冷害について解説する講義から始めました。気圧配置によって一夜にして海の水温が

7℃も下がる仕組みを伝え、実際に海水にも触りながら当日の特殊な海象を教材に海のダイナミックな側面を体感してもらいました。その後、本題である本プログラムの元となった研究の一つ「暖流系生物の分布拡大で変遷する寒流域生物群集—漂着・繁殖あるいはゲノムパラサイト」の目的と成果を紹介しながら、生物の「種」を調べることが生物学の基本であること、生物はそれぞれに適した生息場所があること、北日本には長い時間をかけて姿や性質を変えながら（進化）アラスカから系譜を継ぐ寒流系生物が分布していること（生物地理）を講義形式で伝えました。

休憩時間には、大学院生が大学での



第1飼育室の半クローン実験に使われている継代飼育中の魚を見学する参加者



第2飼育室の幼魚の飼育水槽を見学する参加者



ブリの外部形態の説明と解剖

研究活動や調査の際に経験した数多くのエピソードを紹介し、参加者は興味深く聴き入っていました。その後、3班に分け、大学院生らが実験所内の海水取水システムや飼育設備を案内しながら、本実験所で行われている研究や飼育魚の系統などを説明しました。また、お昼には教材兼食材として地元の漁協から直接購入した魚を解剖しながら調理しました。同伴の父母を含めた昼食会では、漁業生産から消費まで水

産業について思考をめぐらせていました。今回は午後のイベントを取りやめたので、これが最後のプログラムとなりましたが、お腹いっぱい海の味覚を味わえたためか、遠方から来た参加者も笑顔で終えることができました。今回は、図らずも、食料生産が豊かであるばかりでない北海道の海の一面も知ってもらう機会となりました。

実習は、サポートする実験所の学部生・大学院生たちにとって、日頃の研

究活動で培ったフィールド力を発揮する場でもあります。海で行うフィールドワークは安全管理が大切なので一部プログラムの中止はやむを得ませんでしたが、自然現象の驚異を伝える機会となりました。白尻水産実験所で行う夏季実習が終わった今、研究の取りまとめの季節です。こちらは中止とはいかないので、学生たちの踏ん張りや成長を楽しみにしたいと思います。

生き物の個性から学ぶ豊かな森の守り方

8月19日(日)に、雨龍研究林(幌加内町)で、「生き物の個性から学ぶ豊かな森の守り方」を開催しました。これは、「若手研究(B):フィールドにおける群集と進化のフィードバックループの解明」「若手研究(A):景観群集ゲノミクス・アプローチによる群集生態-進化動態の統合的解明」(研究代表者:ともに内海俊介准教授)による成果をもとにした企画です。「生き物の個性」というキーワードを切り口に、森林生態系における遺伝子から生物群集にいたる生物多様性の階層性とその維持・創出の仕組みについて、遺伝子実験とフィールド実習を通して体感し、最先端の研究に触れてもらう体験プログラムとなっています。今年は2回目の実施となり、道内各地(札幌市、旭川市、名寄市、士別市、美深町、幌延町、稚内市)から中学生5名・高校生16名が集まりました。

午前中は、雨龍研究林庁舎内で2つの実習に取り組みました。まずは、水辺における生物多様性の調査です。胴長を着用して川に入り魚類や水生昆虫類を、川辺では草木から陸生昆虫類を採集し、豊かな種多様性が維持される水辺の生態系を学びました。次に、生

物多様性の次の階層、すなわち種内多様性を実際に観察しました。まず標本を用いて形態多型や緯度変異などの昆虫の種内のバリエーションを理解したうえで、さらにその背景にあるDNAレベルの変異を分析しました。ここでは、ヤナギリハムシのDNAにおける一塩基多型SNPについて、リアルタイムPCRを用いてすべての参加者がジェノタイピングを実施しました。

実験結果を待つ間、午後は再びフィールド実習です。遺伝的変異・迅速な進化・生物群集の関わりについて、実際のフィールドの現場で学んでいきます。まずは、ハンノキの根元を掘り返し奇異な粒々を発見してもらいました。これは、根粒という共生バクテリアが作り出したもので、窒素固定能力があります。遺伝的な変異性の存在

と生態的意義についてその場で解説を受けました。次に、ロールプレイを通して、自然淘汰と進化の仕組みを体感してもらいました。そして、進化と生態を結びつけた仮説について検証している野外大型実験を見学しました。また、エゾヤマアリのアリ塚も観察し、昨今話題の外来種ヒアリとの違いについて学びました(自生種エゾアカヤマアリと外来種ヒアリは、外見や、塚を作るという習性が似ています)。

その後、庁舎に戻ってからは、ジェノタイピング実験の結果を調べ、実験結果の整理と一連のプログラム内容の解説を中心としたミニ講義を行いました。最後に、「未来博士号」を授与してプログラムを終了しました。

実施においては、受講生を4~5名の5班に分けて、各班に職員・学生に



さあ、森へ



こんなに沢山の生き物が！水に入ってみな楽し



ピベットの使い方は？



アリ塚の観察



野外大型実験施設の前で

よるスタッフが2名ずつつき、話しかけとサポートを行いました。生憎の雨模様でしたが、野外活動も予定通り実施することができ、特に野外では参加者の活き活きとした声が響いていました。これらを通し、すべての受講生が体験を楽しみ、終始和気あいあいとプログラムを進行することができ、その模様は8月28日付北海道新聞に報道されました。遠隔地にも関わらず多くの受講生が集まり、アンケートからは以下のように高い満足度を得られたことが分かりました。

【アンケート結果】

「参加したことのある他の企画よりも初めて体験することが多かった。貴

重な経験ができる場をありがとうございました。進路選択の一助にもなったと思っています」「実験やフィールドワークは楽しい内容のものばかりでした。初めて見る虫や生き物などもありました。周辺でも探してみたいです。来年もし都合があれば参加したいです」「フィールド実習では多数の生き物にふれ合えて自然を肌で感じることでできてとても楽しかったです。DNA実験でも自分の行った実験が目に見える形になってとてもおもしろかったです」「普段することのない体験をすることができてとても楽しかったです。科学をもっと学びたいと思いました」「生き物が好きなのでとても

楽しかった。川に入ることはあまりないので水中の生き物を見られて嬉しかった。現在クワガタやハナムグリを飼育しているのでどう育てれば大きくなるか考える中、ゲノムや環境がやはり重要になることを知れた。標本づくりもしているので標本も見られて良かった」

本プログラムを実施するにあたり、研究林の職員並びに理学部生2名・環境科学院大学院生3名には惜しみない協力をいただきました。また、日本学術振興会研究員による視察も行われました。ご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。

農業をささえる名脇役～緑肥作物ってなんだろう？～

8月22日（水）に、生物生産研究農場において、「農業をささえる名脇役～緑肥作物ってなんだろう？～」を開催しました。これは、「基盤研究（C）：夏播きカバークロップと不耕起播種による春コムギ初冬播き栽培体系の改善」（研究代表者：平田聡之助教）による成果をもとに、中学生を対象とした体験的なプログラムとして企画したもので、11名が参加しました。

このプログラムでは、古くから利用されてきた緑肥作物を通して作物の栽培環境について考え、実際に研究現場を体験することを目的として、作物の収量や成分調査及び土壌分析を行い観察するとともに、スライドやパネルを

用いて研究の概要を紹介しました。受講生自らの手で実際の研究に則した測定方法を用いて作物の生育や成分の調査を行い、そこで得られたデータをその場で解析し、調査結果を総括しました。

当日は、オープニングセレモニーのあと、緑肥作物についてミニ講義を行い、緑肥作物が古くから利用されている近年の農業生産を支える重要な作物であることを説明しました。続いて、いろいろな緑肥作物を紹介し、グループに分かれて作物内の成分分析と緑肥作物すき込み後の土壌養分の変化について解析しました。昼食後は、緑肥作物の効果について、緑肥作物栽培後の

トマトの生育と収量について調査しました。午前中は小雨が降っていましたが、午後からは晴れ、参加者の皆さんは暑い中でのハウス内調査となりました。その後、各試験の結果を持ち寄ってデータ解析を行い、緑肥作物の効果について統括し、無事に終了しました。本プログラムを実施するにあたり、事務職員・大学院生・教育スタッフにプログラム告知、事前準備及び当日のプログラム実施と安全管理にご協力をいただきました。参加者の皆様及びスタッフの皆さんに深く感謝いたします。



緑肥作物の観察



オープニングのミニ講座



トマトの収量調査

挑戦！イクラをさかなにしてみよう！

9月29日（土）に、七飯淡水実験所（亀田郡七飯町）において、「挑戦！イクラをさかなにしてみよう！」を開催しました。これは、科学研究費補助金による研究「雑種ゲノムの発生工学的解析による育種利用に関する研究」（研究代表者：山羽悦郎教授）等の成果をもとに、大学で取り組んでいる研究の一端を小学5・6年生から中学生に体験してもらおうという企画で、4年連続で開催しているものです。

当日は快晴で、魚を飼育している川水も澄んでいて観察しやすく、絶好の実習日和となりました。本年度の企画には、函館市の小中学生7名が参加しました。

受講者はまず、実験所で飼育している様々なサケマス類を見てまわり、その特徴や受精卵の培養、稚魚の飼育方法を学びました。また、実際に池から大きな魚を掬い、どれくらいのかさであるのかも計測しました。次に、成熟したサクラマスからの採卵と採精、そして受精を行いました。親魚の動きに驚いて魚を落としてしまう受講者もありました。受精といっても小中学生には理解が難しいので、精子を顕微鏡で

観察し、水を加えると泳ぎ始めることを理解してもらいました。また、受精前には指で簡単につぶせるほど柔らかい卵が、受精するとまるでピンポン球のように弾むほど固くなることを体験しました。

昼食では、受講者自身に魚を締めてもらい、内臓を取り除いて串打ち後、炭火で塩焼きにしたほか、刺身、イクラ醤油漬け、マリネなどの鮭料理を食べました。一番人気はイクラご飯でした。マリネは大人の味のように、参加者には人気がありませんでした。魚を食べ慣れない小中学生は、箸で塩焼きを食べるのに悪戦苦闘していました。

午後には、塩焼きで残した骨を観察し、血管と脊髄がついていることを観察しました。この構造を理解した後、魚の尾柄部から注射器を使って「採血」を行い、採った血から血液標本を作って顕微鏡で観察し、魚の赤血球には核があることを学びました。次に、脊椎骨の背中側にある脊髄を確認し、尾柄からワイヤを差し込んで脊髄破壊を行いました。難しい実習でしたが、美味しい刺身を食べるために必要な技術であることを受講者達は学びまし

た。その後は解剖実験です。スライドで手順を確認するのですが、受講生によって進行速度がバラバラなのでTAの学部生・大学院生の指導を受けながら、内臓の種類・形・つながり、心臓の構造と血の流れ、目の構造と脳とのつながりを調べました。

おやつのは、卵黄を持っている赤ちゃん魚の顕微鏡観察をし、血液がからだの中を循環する様子を確認しました。ここで体験教室は終了しました。最後に、自分たちが受精させた卵と1ヶ月前に受精させた卵を飼育し魚ができてくるのを確認するため、各家庭に持ち帰ってもらいました。昨年度は、孵化した魚を8か月以上飼育し、もう飼えないからと実験所に戻ってきた参加者もありましたが、今年はどうなるでしょうか。

今回のプログラムでは、事務や実験所の職員の方、指導の補助をしてくれた学生さんにお世話になりました。子供たちが主役でしたが、主役をもり立ていただきありがとうございます。



魚を掬う参加者



採卵の様子



マスの塩焼き



昼食の様子



注射器による採血



解剖実験の様子

北方生物圏フィールド科学センターで畜魂祭を挙行

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、10月25日（木）にアグリフードセンター傍に位置する畜魂碑前において、教育・研究に供された家畜の供養のための畜魂祭を執り行いました。穏やかな秋晴れのなか、山田敏彦農場長をはじめとする本センターの教職員、本センターを利用する農学部教員や畜産科学科の学生など、約70名の関係者が参列しました。

本センター生物生産研究農場では、自給飼料を主体とする物質循環型の持続的な家畜生産が継続的に営まれ、様々な教育・研究に利用されています。また、飼料畑で栽培されるトウモロコシや牧草から飼料を生産して家畜・家禽を飼養し、得られる牛乳や食肉を加工して畜産製品を製造するという一連の流れを教育の中心としてお

り、これらの教育・研究活動に対して多大な貢献をした家畜・家禽に感謝し、その御霊を供養するために、毎年畜魂祭を行っています。

三谷朋弘助教による進行のもと、はじめに、山田農場長から挙行にあたっての挨拶がありました。続いて、中小家畜生産研究施設、酪農生産研究施設及び畜産製造施設より、家畜・家禽の利用実績等について報告があり、その後、参列者全員で畜魂碑に拝礼しました。最後に、山田農場長から、世界的には人口増加や経済発展に伴って肉需要が急増しているなかで食資源の確保が課題であること、その解決のためには食べ残しやフードロスの削減が求められていることなどについて説明があり、参列者一同は、持続的な畜産生産システムや高付加価値生産システムの

構築に向けて、教育・研究の推進や技術の向上が不可欠であるという思いを新たにしました。

（北方生物圏フィールド科学センター）



畜魂碑



利用実績等の報告をする職員



畜魂碑に御神酒を捧げる山田農場長



山田農場長からのお話

函館キャンパスで「秋のキャンパス一斉清掃」を実施

11月1日（木）に、函館キャンパスにおいて「秋のキャンパス一斉清掃」を実施しました。

当日は晴天に恵まれ、函館キャンパス構内とその周辺の清掃を行うことができ、大変きれいになりました。

参加人数は、学生・教職員をあわせ

て約250名となり、たくさんの方に参加いただきました。

収集されたごみ等は、一般ごみ、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）、木の枝等を合わせて約1㎡になりました。

函館キャンパスでは毎年、春と秋に

年2回、「キャンパス一斉清掃」を行っており、来年度も予定しております。

これからも環境美化活動を推進し、きれいなキャンパスを目指します。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



ゴミ袋配布の様子



清掃活動を行う学生



協力し合いながらの清掃作業

消防訓練等の実施

理学研究院

理学研究院では、11月1日（木）に消防訓練を実施しました。

当日は、断続的な降雨に加え強風が吹く肌寒い天候の中、5号館2階213室から出火した想定で、石森浩一郎理学研究院院長を隊長とする事務部で構成された自衛消防隊による通報連絡、非

常放送、初期消火、避難誘導、救護等の総合的な訓練を、教職員・学生約200名が参加し実施しました。

訓練終了後に、石森理学研究院院長から、訓練参加者及び協力者への慰労の辞と、日頃からの防災に対する心構えや協力体制について要請があり、一連

の訓練を終了しました。

（理学院・理学研究院・理学部）



初期消火の様子



防災監視盤操作状況



自衛消防隊長（石森研究院長）からの講評

薬学研究院・薬学部

薬学研究院・薬学部では、10月17日（水）、総合研究棟2階学生実習室からの出火を想定した消防訓練を実施しました。

当日は通報連絡班、避難誘導班、消火班、応急救護班に加え、教員も避難誘導に加わり、佐藤美洋薬学研究院長を隊長とする自衛消防本部を組織して

の訓練が行われました。

今回も所属する教職員及び学生が参加する訓練を実施し、自衛消防本部との連携により、すべての参加者が速やかに避難を完了するなど、訓練参加者の防災意識の高さが確認できました。

その後、佐藤薬学研究院長から教職員及び学生の防災意識を啓蒙する挨拶

があり、全体での消防訓練は終了しました。

消防訓練終了後は、防災設備業者の指導の下、消火器を使用した消火訓練、布担架による救助訓練が行われました。

（薬学研究院・薬学部）



佐藤研究院長による挨拶



消火訓練の様子

工学系部局

工学系部局では、10月9日（火）に工学研究院土木工学研究棟及びJ棟を被災想定現場とした自衛消防訓練を実施しました。土木工学研究棟は、平成29年7月に完成した建物で、今回初めての訓練実施となりました。

当日は、両棟併せて約200名の教職員・学生が、放送による指示のもと、避難場所へ速やかに避難を行いました。事務職員及び技術職員で構成される自衛消防隊は、トランシーバーを使用し、隊長である勝山憲明工学系事務部長による指示のもと、想定した任務を遂行し、無事、消防署員に引き継ぎ、

自衛消防隊としての役割を終えました。

訓練終了後、札幌市北消防署から訓練は概ね良好との講評があり、増田隆夫工学研究院長から防災意識の重要性についての挨拶がありました。続いて、防災設備業者の指導のもと、日本語と英語による消火器の使用方の説明後、水消火器による模擬消火訓練を行い、訓練を無事終えることができました。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



講評を行う北消防署員



増田研究院長による挨拶



模擬消火訓練の様子



獣医学研究院

獣医学研究院では、10月16日（火）に防火訓練を実施しました。

今回の訓練は、本研究院自衛消防隊を主体とした通報、避難誘導、初期消火等の訓練であり、非常時における学生、教職員等の安全確保を図ることを目的とし、約150名が参加して行われました。

避難訓練では出火時における初動体制の確立を目的として、本館3階の比

較病理学第二学生実験室から出火したとの想定で始まり、自衛消防隊各班ごとの訓練計画に基づいた職務分担に従い、通報、初期消火、避難誘導を行い、被害を最小限に食い止める訓練を実施しました。

また、本訓練内において、安否確認システムを活用したメールを教職員に配信し、本システムの認知度を向上させる取組も併せて実施しました。

避難訓練に引き続き、消火器を使った放水による消火訓練及び4階からの救助袋による降下訓練を防災設備業者指導の下で実施し、使用方法に理解を深め、一連の防火訓練を行うことができました。

（獣医学研究院・獣医学部）



消火器を使った訓練



救助袋による降下訓練

低温科学研究所

低温科学研究所では、10月19日（金）に防災設備業者の指導と協力を得て、自衛消防訓練を実施しました。

当日は、分析棟1階機械室から火災が発生したことを想定し、出火時の初動体制を確立するために、自衛消防隊が直ちに活動し、出火場所に対応して

各職務分担の任務（通報連絡・避難誘導・初期消火・防火措置・救護・重要書類搬出等）を行い、被害を最小限に食い止める初動措置の訓練を実施しました。

避難完了後には、防災設備業者の指導により、水消火器を使用して消火訓

練を行いました。

その後、福井所長から、日頃の防災に対する意識向上や災害発生時の連絡体制の構築について協力が呼びかけられ、訓練を終了しました。

（低温科学研究所）



屋内消火栓を使用した模擬消火訓練



水消火器を使用した消火訓練

附属図書館

附属図書館本館では、10月22日（月）に東棟2階第一会議室から出火したとの想定のもと、図書館利用者及び職員86名が参加して防災訓練を実施しました。

英語による館内放送並びに掲示も行い、火災発生後、直ちに「通報連絡

係、避難誘導係、消火係、防護措置係、救護係、搬出係」の自衛消防隊の各担当に分かれ、現場の確認、消防署への通報、非常放送、避難誘導、消火活動等、実践さながらの訓練が行われました。

防災訓練に続いて防災設備業者指導

のもと、消火器具の取扱説明及び実地訓練を実施し、使用方法についてより一層の理解を深め、一連の訓練を無事に終了しました。

（附属図書館）



負傷者役を搬出する職員



消火器訓練をする職員

環境健康科学研究教育センター市民講演会 「SDGsを考える ～暮らし・教育・健康～」を開催



集合写真



講演の様子

10月17日（水）、WHO環境化学物質による健康障害の予防に関する研究協力センター指定3周年記念として、「国立大学フェスタ2018」のもと、市民講演会「SDGsを考える ～暮らし・教育・健康～」を、百年記念会館大会議室において開催しました。

本講演会では、WHO研究協力センター長の岸 玲子特別招へい教授から、WHO研究協力センターとしての3年間の活動について報告の後、SDGsについての3つの講演を行いました。

まず、札幌市環境局環境計画課の佐竹輝洋氏より、「持続可能な開発目標（SDGs）と札幌市の取組」という題目で、「誰も取り残さない（されない）- No one will be left behind -」を理念とし、世界に誇れる持続可能な都市を目指した札幌市の取組についてご講演

いただきました。

次に、地球環境科学研究所の山中康裕教授に、「持続可能な世界に向けて：世界と地域をつなぐキーワードSDGs」と題して、SDGsの17の目標についてビデオで説明いただいた後、SDGs達成を含めたグローバル化社会での教育の重要性についてご講演いただきました。

続いて、本センターの湊屋街子特任講師からは、「環境と健康の視点でとらえるSDGs」と題して、SDGsの目標の一つである「すべての人に健康と福祉を」を軸に、「環境」「健康」「子ども」をキーワードに、当センターが長年実施している出生コホート研究と研究成果、及び、SDGs目標達成に貢献するためのWHO研究協力センターとしての活動の紹介を行いました。

質疑応答では積極的に質問がなさ

れ、また、講演会が終了してからも参加者と講演者との討論が続き、参加者のSDGsへの関心の高さがうかがえました。参加者からは、「非常に興味深かったです」「とても素晴らしい内容だった」「普段会えない人の話が聞けて良かった」「このような講演会を定期的に実施していただきたい」など、多くの良いフィードバックをいただき、本講演会により、環境+αによるSDGs達成について参加者に理解を深めていただくことが出来ました。

今後も、研究機関としての成果を社会に還元する場として、また市民・行政・企業などとともにSDGsを考えていく機会として、今回のような市民講演会を継続して実施していきたいと考えています。

（環境健康科学研究教育センター）

第16回 脳科学研究教育センター シンポジウム 「脳科学の最前線—活躍する女性研究者—」を開催



講演者と関係者集合写真

10月16日（火）に、第16回脳科学研究教育センターシンポジウム「脳科学の最前線」（世話人代表：薬学研究院南 雅文教授）を医学部学友会館フラテホールで開催しました。脳科学研究教育センターには医学、薬学、理学、工学、保健科学、文学、教育学など学内12部局の約30名が基幹教員として参加しており、脳科学研究の推進と、大学院講義、実習、合宿研修などを柱とした教育活動を行っています（<https://www.hokudai.ac.jp/recbs/>）。また、毎年、学内外の脳科学研究者が参加するシンポジウムを開催しています。今回のシンポジウムでは、「—活躍する女性研究者—」ということで、脳科学の最先端で活躍されている女性研究者3名を招へいし、本学の若手女性研究者1名を加え、計4名の研究者が講演を行いました。

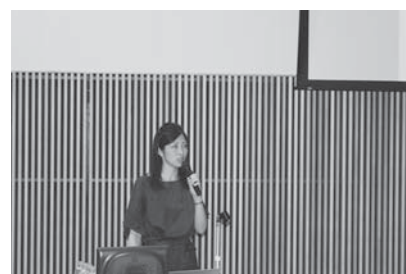
南教授（副センター長）による挨拶とシンポジウム趣旨説明の後、講演が開始されました。人羅（今村）菜津子助教（本学薬学研究院薬理学研究室）

による講演「内側前頭前皮質による恐怖反応制御メカニズム」では、内側前頭前皮質のドーパミンシグナルが扁桃体中心核の脱抑制を介して不安障害の再発に関与していることが紹介されました。竹本さやか教授（名古屋大学環境医学研究所神経系分野Ⅰ）による講演「扁桃体中心核分子マーカーを手掛かりとした情動制御機構の解明」では、扁桃体中心核のlateral subdivisionに多く発現するカルシウム依存性タンパク質リン酸化酵素CaMKI γ について、ノックアウトマウスの行動解析から恐怖記憶や社会行動などの情動行動に関与すること、また、分界条床核の特定の神経亜核でも発現が多く、機能的・解剖学的に類似した特徴を持つことが報告されました。林（高木）朗子教授（群馬大学生体調節研究所脳病態制御分野）による講演「操作・モデリングから迫る精神病態シナプスパソロジーの多階層理解」では、長期増強したスパインを特異的に標識・退縮させる新規光感受性シナプスプローブ

Activated Synapse targeting PaRac1（AS-PaRac1）によるシナプスマッピングと、光刺激によるスパインの人為的書き換えに関する研究結果が紹介され、記憶学習や精神疾患とスパインの因果関係について議論されました。中村加枝教授（関西医科大学生理学教室）による講演「セロトニン神経系による報酬と罰の情報処理機構」では、セロトニン神経が多く分布する背側縫線核の神経活動が、課題遂行中の各時点において期待される報酬価値を刻一刻と持続的に表現していることが紹介され、報酬予測誤差を表現する中脳ドーパミン細胞との違いについて議論されました。最後に、渡辺雅彦センター長（医学研究院教授）の挨拶があり活況のうちに閉会となりました。

教員、学生、一般市民の方など、61名の参加があり、活発な質疑応答がなされました。今回のシンポジウムが参加者の皆様の興味を満たすとともに、学内外の研究の新しい展開につながっていくことを願っております。

（脳科学研究教育センター）



講演する人羅先生



講演する竹本先生



講演する中村先生



講演する林（高木）先生

リーディングプログラム新プログラム生の採用式を実施



新プログラム生の集合写真

物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム^{*}（ALP）は、10月1日付で新プログラム生8名を採用しました。これらの新プログラム生は、総合化学院、生命科学院、理学院、工学院、環境科学院の関連5専攻の修士課程の学生の中から選抜試験を経て採用されました。プログラム生の採用は今年度で6回目となります。初年度に採用されたプログラム生はすでにALPを修了し、社会で活躍しています。

採用に先立って9月20日（木）に百年記念会館大会議室で行われた新プログラム生の採用式では、プログラム責任者である長谷川晃理事・副学長より新入生一人ひとりに認定書が授与されました。プログラムコーディネーターである石森浩一郎教授からは、「ALPは発足から6年目となるので、プログラム生を全面的にサポートできる体制が整っている。新プログラム生はALPの活動を通して、グローバルに活躍できるよう成長してほしい」との

激励の言葉が述べられました。採用式に続き、法哲学が専門である長谷川理事・副学長による「Ambitious研究倫理セミナー：科学の法秩序」と題したセミナーが行われました。プログラム生は、研究者自身と社会との間の関係性に対する深い洞察力（内省的知力）を養うことが強く求められます。新プログラム生は、採用式の直後にこのセミナーを受講することにより、それぞれに課せられた期待と責任の重さを自覚する良いきっかけとなりました。

^{*}ALPは、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援を受けて平成25年度よりスタートした5年一貫の大学院教育プログラム。産業界や学術・研究機関など、様々な領域で幅広く活躍可能なグローバルリーダーを養成することを目的としている。そのために、「圧倒的専門力」「俯瞰力」「フロンティア開拓力」「国際実践力」「内省的知力」と名付けた5つの力を獲得することを目標としたカリキュラムと、充実した経済支援をプログラム生に提供している。

（総合化学院）

突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点及び公共政策大学院が北海道胆振東部地震緊急フォーラムを開催

突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点及び公共政策大学院（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）では、10月22日（月）、学術交流会館講堂において、9月6日（木）に発生した平成30年北海道胆振東部地震に対する北海道大学の研究者の最新の調査結果・知見の一般への共有を目的に、北海道胆振東部地震緊急フォーラムを開催しました。

名和豊春総長からの開会挨拶の後、土砂災害、液状化被害、建築被害、経

済被害、防災政策それぞれを専門とする理学研究院の谷岡勇市郎教授、農学研究院の小山内信智特任教授、工学研究院の渡部要一教授、岡田成幸特任教授、公共政策学連携研究部の石井吉春特任教授、高松 泰客員教授から緊急報告がありました。

その後、大学院生からの災害ボランティア体験・留学生からの被災体験の報告を行うとともに、法学研究科の山崎幹根教授がディスカッションコーディネーターとなり研究者による地震

から得られた教訓・課題等についてのディスカッションを行った後、高松客員教授から閉会挨拶をいただき、盛会のうちに終了しました。

一般市民及び大学・研究機関・防災関係行政機関・民間企業等から約300名の参加者があり、報道機関の関心も高く、新聞7社、テレビ3社の取材がありました。

（農学研究院、公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）

突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点で 平成30年北海道胆振東部地震での土砂災害対応へ技術的な支援

突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点では、平成30年北海道胆振東部地震による土砂災害（死者36名）に対し技術的な支援を行っています。

1) 砂防学会平成30年北海道胆振東部地震緊急調査団への参画

農学研究院の小山内信智特任教授（団長）、林真一郎特任助教、山田孝教授、笠井美青准教授、桂 真也助教、古市剛久学術研究員は、砂防学会災害調査団に参画し、現地調査により、災害メカニズム・二次災害防止のための留意点を明らかにするとともに、報告書の公開・調査結果報告会の開催（札幌9月28日（金）、東京10月

25日（木））を迅速に行い、調査結果の防災技術者・一般市民に向けた情報提供に取り組んでいます。また、調査結果に基づき、国土交通省砂防部（10月25日（木））・北海道開発局、北海道庁（10月29日（月））へ緊急提言を行いました。

2) 国土交通省北海道開発局・厚真町への支援

小山内特任教授は、10月5日（金）の厚真町日高幌内川の河道閉塞の調査・対策への助言、厚真町役場での台風25号による二次災害防止のための会議において自治体・防災関係者に向けて災害リスクに関する助言を行う等、

技術的な支援を行いました。

3) メディアへの対応

小山内特任教授及び林特任助教は、災害メカニズムの理解の促進、二次災害防止の啓発のため、国内外メディアへの対応を行っています

掲載メディアは、延べ国内25社（新聞21社、テレビ4社）及び国外雑誌1社となっています。（10月30日時点）

（農学研究院）



現地調査を行う林特任助教



厚真町での二次災害防止のための会議
宮坂町長（中央）、（左隣）小山内特任教授



北海道開発局長への提言の手交
水島局長（左）、小山内特任教授（右）

1920年卒業記念写真帖を大学文書館で受贈

10月9日（火）、大学文書館では、小杉尚子氏から、1920（大正9）年農学部卒業記念写真帖1冊をご寄贈いただきました。

この写真帖は、小杉方也（みちなり）氏の旧蔵品で、ご子息夫妻である小杉伸一氏（平成28年ご逝去）・尚子夫人が大切に保管されてきたものです。

小杉方也氏は、1895（明治28）年兵庫県に生まれ、兵庫県立第一神戸中学校を卒業後、1914（大正3）年東北帝国大学農科大学大学予科に入学しました。大学予科修了後の1917年には農学科第一部へ進学、卒業論文「北海道帝

国大学農学部第三農場経営論」を提出し、1920年7月に農学部を卒業しました。

この度、ご寄贈いただいた写真帖には149枚のモノクロ写真が貼付されています。1910年代後半の大学構内の風景写真（ポプラ並木、中央ローン、植物園、第一・第二農場、正門、中央講堂、図書館、温室）、農学部の各教室（農学・農業経済学・動植物学・昆虫学・農芸化学・応用菌学・林学・畜産学）の外観・室内の写真、佐藤昌介総長・南鷹次郎農学部長・農学部を担当した教官55名（教授・助教授・講師）の肖像写真、1920年農学部卒業生50名

の肖像写真など、すべての写真がキャプション付きで貼付されています。

大学文書館で既に所蔵している風景写真・集合写真には裏書きのないものが多いため、撮影時期や人物の特定作業に、この写真帖の情報が非常に大きな役割を果たすものと考えています。

大学文書館では、ご寄贈いただいた写真帖は収蔵庫にて保存し、写真のデジタル画像を作成の上、展示や閲覧利用等を通じて紹介してまいります。

（大学文書館）



第二農場



正門



畜産学教室と中央ローン



温室



図書館



小杉方也氏

レクリエーション

教職員テニス大会の開催

10月20日（土）、工学部・農学部・低温研の各コートで職員硬式庭球同好会主催により、ミックスダブルス大会を開催しました。

参加者は総勢58名で、結果は次のとおりです。

（職員硬式庭球同好会）

平成30年度 学内ミックス大会試合結果

【A級】会場：低温研コート
予選リーグ
Aブロック

氏名	浅野・溝端	清水・三浦	山内・坂本	小田桐・曾我	勝：負 (ゲーム数)	順位
浅野 泰寛（工） 溝端 小百合（事）		○ 6－5（4）	× 2－6	× 4－6	1－2	3
清水 泰貴（事） 三浦 千穂（図）	× 5（4）－6		× 0－6	× 5（3）－6	0－3	4
山内 隆嗣（工） 坂本 ゆう子（図）	○ 6－2	○ 6－0		○ 6－3	3－0	1
小田桐 誠（学） 曾我 和実（病）	○ 6－4	○ 6－5（3）	× 3－6		2－1	2



A級 優勝



A級 準優勝

Bブロック

氏名	酒井・藤井	玉城・柏原	山間・金川	勝：負 (ゲーム数)	順位
酒井 広（学） 藤井 恵美子（工）		○ 6－0	○ 6－2	2－0	1
玉城 英彦（高機） 柏原 麻美（文）	× 0－6		× 2－6	0－2	3
山間 久美子（薬） 金川 眞行（事）	× 2－6	○ 6－2		1－1	2

決勝トーナメント

A 1 山内・坂本	6			
C 2 品川・佐川	3	2		
B 2 山間・金川	6			
C 1 藤田・湯原	2			
A 2 小田桐・曾我	6	7		
B 1 酒井・藤井		6(6)		
		6	2	優勝 山内・坂本
				準優勝 小田桐・曾我

Cブロック

氏名	品川・佐川	藤田・湯原	宮本・猫塚	勝：負 (ゲーム数)	順位
品川 和絵（薬） 佐川 浩太（工）		× 4－6	○ 6－4	1－1 (10/20)	2
藤田 進一郎（工） 湯原 綾子（低）	○ 6－4		× 5－6	1－1 (11/21)	1
宮本 大悠斗（事） 猫塚 和美（事）	× 4－6	○ 6－5		1－1 (10/21)	3

3位決定戦	山間・金川	6		3位 山間・金川
	酒井・藤井	1		4位 酒井・藤井
5位決定戦	品川・佐川	6		5位 品川・佐川
	藤田・湯原	3		6位 藤田・湯原

下位リーグ

氏名	浅野・溝端	玉城・柏原	宮本・猫塚	清水・三浦	勝：負 (ゲーム数)	順位
A3 浅野・溝端		○ 6-5(4)	○ 6-2	○ 4-2	3-0	7
B3 玉城・柏原	× 5(4)-6		× 1-4	○ 6-4	1-2	9
C3 宮本・猫塚	× 2-6	○ 4-1		○ 6-4	2-1	8
A4 清水・三浦	× 2-4	× 4-6	× 4-6		0-3	10

【BC級】会場：農学部コート

予選リーグ

Aブロック

氏名	伊藤・進	寺澤・川手	平田・山田	江崎・江澤	勝：負 (ゲーム数)	順位
伊藤 秀臣(理) 進 万里奈(病)		○ 6-0	× 4-6	○ 6-4	2-1	2
寺澤 惇(病) 川手 麻衣子(学)	× 0-6		× 0-6	× 3-6	0-3	4
平田 康史(低) 山田 美和(電)	○ 6-4	○ 6-0		○ 6-2	3-0	1
江崎 公二(工) 江澤 海(事)	× 4-6	○ 6-3	× 2-6		1-2	3

Bブロック

氏名	松原・高橋	西川・工藤	古谷・磯本	勝：負 (ゲーム数)	順位
松原 友姫(教) 高橋 英嗣(工)		× 2-6	× 2-6	0-2	3
西川 はつみ(低) 工藤 勲(水)	○ 6-2		× 1-6	1-1	2
古谷 久美子(図) 磯本 善男(図)	○ 6-2	○ 6-1		2-0	1

決勝リーグ

氏名	平田・山田	西川・工藤	古谷・磯本	伊藤・進	勝：負 (ゲーム数)	順位
A1 平田・山田		○ 6-4	○ 6-2	○ 6-1	3-0	優勝
B2 西川・工藤	× 4-6		○ 6-2	○ 6-4	2-1	準優勝
B1 古谷・磯本	× 2-6	× 2-6		○ 6-2	1-2	3位
A2 伊藤・進	× 1-6	× 4-6	× 2-6		0-3	4位

下位リーグ

氏名	江澤・江崎	松原・高橋	寺澤・川手	勝：負 (ゲーム数)	順位
A3 江澤・江崎		× 3-6	○ 6-3	1-1	6位
B3 松原・高橋	○ 6-3		○ 6-1	2-0	5位
A4 寺澤・川手	× 3-6	× 1-6		0-2	7位



BC級 優勝(右)・準優勝(左)

【エンジョイミックス】会場：工学部コート

予選リーグ

Aブロック

氏名	富成・鈴木	波多野・橘	安達・角家	田附・額額	勝：負 (ゲーム数)	順位
富成 絢子 (国メ) 鈴木 敦生 (理)		○ 4 - 0	× 1 - 4	○ 4 - 0	2 - 1	2
波多野 訓広 (理) 橘 明日香 (工)	× 0 - 4		× 0 - 4	× 1 - 4	0 - 3	4
安達 孝徳 (経) 角家 由紀子 (学)	○ 4 - 1	○ 4 - 0		○ 4 - 2	3 - 0	1
田附 望 (工) 額額 ゆかり (工)	× 0 - 4	○ 4 - 1	× 2 - 4		1 - 2	3

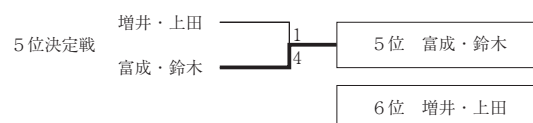
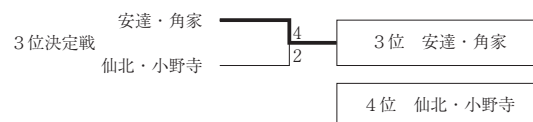
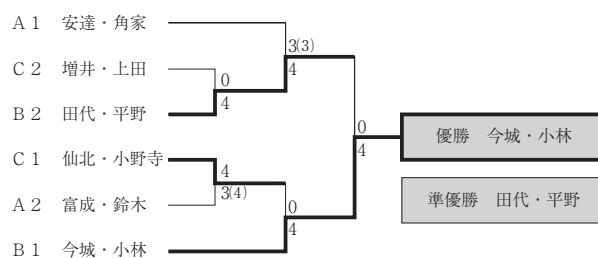
Bブロック

氏名	田代・平野	杉本・細木	稲葉・板倉	今城・小林	勝：負 (ゲーム数)	順位
田代 亜紀子 (国メ) 平野 亮 (経)		○ 4 - 0	○ 4 - 1	× 1 - 4	2 - 1	2
杉本 拓也 (工) 細木 杏奈 (工)	× 0 - 4		× 3 (5) - 4	× 1 - 4	0 - 3	4
稲葉 正思 (工) 板倉 恭子 (工)	× 1 - 4	○ 4 - 3 (5)		× 3 (7) - 4	1 - 2	3
今城 颯太 (工) 小林 まどか (国メ)	○ 4 - 1	○ 4 - 1	○ 4 - 3 (7)		3 - 0	1

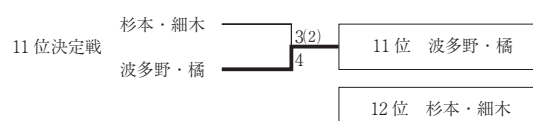
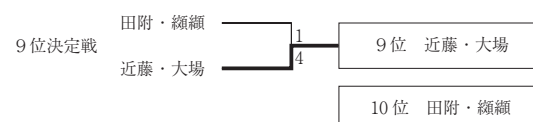
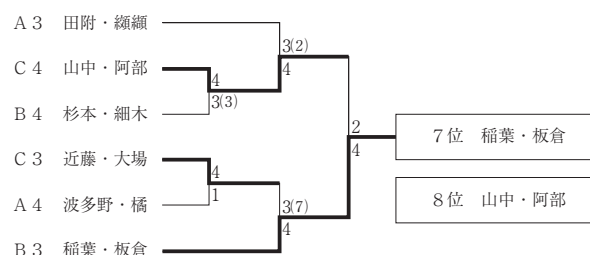
Cブロック

氏名	近藤・大場	増井・上田	山中・阿部	仙北・小野寺	勝：負 (ゲーム数)	順位
近藤 未央 (学) 大場 諒平 (学)		× 1 - 4	○ 4 - 1	× 3 (7) - 4	1 - 2 (8 / 17)	3
増井 啓太 (学) 上田 しのぶ (学)	○ 4 - 1		× 3 (6) - 4	× 3 (2) - 4	1 - 2 (10 / 19)	2
山中 楨 (工) 阿部 ひかり (工)	× 1 - 4	○ 4 - 3 (6)		× 2 - 4	1 - 2 (7 / 18)	4
仙北 久典 (工) 小野寺 佑佳 (工)	○ 4 - 3 (7)	○ 4 - 3 (2)	○ 4 - 2		3 - 0	1

決勝トーナメント



下位トーナメント



エンジョイミックス 優勝

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成30年10月4日）

議 案・業務上の余裕金の運用に係る認定申請について

協議事項・文学研究院，情報科学研究院の設置について

- ・ 現行の年俸制に係る新規適用の終了について
- ・ 北海道大学における研究活動上の不正行為防止にかかる体制等の見直しについて
- ・ 諸規則の全部改正について

報告事項・平成31年度設置の学院等の設置審査の結果について

- ・ 卓越大学院プログラムの選定結果について
 - ・ 北海道大学ホームカミングデー2018の実施報告について
-

教育研究評議会（平成30年10月16日）

議 題・文学研究院，情報科学研究院の設置について

- ・ 現行の年俸制に係る新規適用の終了について
- ・ 北海道大学における研究活動上の不正行為防止にかかる体制等の見直しについて
- ・ 諸規則の全部改正について

報告事項・平成31年度設置の学院等の設置審査の結果について

- ・ 平成30年度世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の採択について
 - ・ 卓越大学院プログラム申請に係る審査結果について
 - ・ 北海道大学ホームカミングデー2018の実施報告について
 - ・ 寄附分野の設置について
 - ・ 平成29事業年度財務諸表の承認について
 - ・ 学生の懲戒解除について
-

役員会（平成30年10月22日）

議 案・文学研究院，情報科学研究院の設置について

- ・ 現行の年俸制に係る新規適用の終了について
- ・ 北海道大学における研究活動上の不正行為防止にかかる体制等の見直しについて
- ・ 諸規則の全部改正について
- ・ 創成研究機構化学反応創成研究拠点の設置について
- ・ 諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・国立大学経営改革促進事業の選定結果について

- ・ 平成30年度北海道大学進学相談会の開催結果について
 - ・ 超過勤務実績について
-

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成30年10月23日海大達第147号)

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成30年10月23日海大達第150号)

国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(平成30年10月23日海大達第151号)

事務組織の改組を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程

(平成30年10月23日海大達第148号)

国立大学法人北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点規程

(平成30年10月23日海大達第149号)

文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択されたことにより、平成30年10月23日付けで、創成研究機構に化学反応創成研究拠点を設置することに伴い、所要の定め及び改正を行ったものです。

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成30年11月1日海大達第152号)

平成30年11月1日付けで、大学院医学研究院に置く分野の新設を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の全部を改正する規程

(平成30年11月1日海大達第153号)

本学における研究活動上の不正行為に関する体制を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学掲示等に関する内規を廃止する規程

(平成30年11月1日海大達第154号)

平成30年11月1日付けで、国立大学法人北海道大学掲示等に関する要項を制定することに伴い、所要の定めを行ったものです。

■ 研修

研修名：平成30年度アドビイラストレータ研修

開催期間：平成30年10月15日～16日

開催場所：情報基盤センター

研修目的：アドビイラストレータの基本操作の実習を通して、既存データの編集、簡単な図面を組み合わせたイラスト作成など、業務上使用する上で必要となる基礎知識を習得する。



研修の様子

(総務企画部情報企画課)

表敬訪問

海外

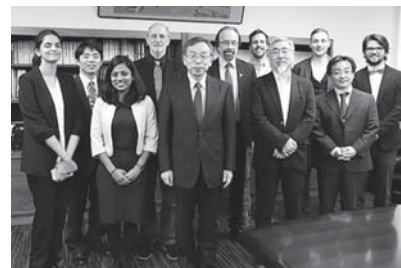
年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
30.10.3	Natural Resources Institute Finland（フィンランド）副所長, Kolström Taneli 博士, ワシントン州立大学（米国）Juming Tang教授	国際連携研究教育局食水土資源グローバルステーション主催シンポジウムの 基調講演に伴う来訪
30.10.30	中山大学（中国）Jun Luo学長	両大学の交流に関する懇談
30.11.7	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 Erich J.Windhab教授, 武田 靖本学名誉教授	両大学の交流に関する懇談



Natural Resources Institute Finland（フィンランド）副所長, Kolström Taneli 博士（左から2番目）, ワシントン州立大学（米国）Juming Tang教授（右から2番目）



中山大学（中国）Jun Luo学長（右）



Erich J.Windhab教授（後列右から4番目）, 武田 靖本学名誉教授（前列右から2番目）

（国際部国際連携課）

人事

平成30年10月23日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【部局長・施設長等】 創成研究機構化学反応創成研究拠点長 （期間：平成32年3月31日まで）	前 田 理	大学院理学研究院教授
【室長】 政策調整室室長代理（兼）研究推進部研究支援課化学 反応創成研究拠点事務室長	眞 野 茂 樹	政策調整室室長代理（兼）WPI対策室長

新任部局長等紹介

平成30年10月23日付

創成研究機構化学反応創成研究拠点長に



まえだ さとし
前田 理 教授

平成30年10月23日付けで創成研究機構化学反応創成研究拠点が設置され、拠点長として前田 理教授が発令されました。

任期は、平成32年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和54年 8 月30日
平成14年 3 月 東北大学理学部卒業
平成16年 3 月 東北大学大学院理学研究科修士課程修了
平成19年 3 月 東北大学大学院理学研究科博士課程修了
平成19年 3 月 博士（理学）（東北大学）
平成19年 4 月 日本学術振興会特別研究員
平成22年 4 月 京都大学次世代研究者育成センター白眉プロジェクト特定助教
平成24年 2 月 北海道大学大学院理学研究院助教
平成26年 1 月 北海道大学大学院理学研究院准教授
平成29年 4 月 北海道大学大学院理学研究院教授
平成30年10月 北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点及び
大学院理学研究院教授

訃報

名誉教授 田部 浩三 氏 (享年91歳)

名誉教授 田部浩三先生が、平成30年4月24日に逝去されました。

先生は大正15年5月7日、兵庫県山崎町の志賀家の次男としてお生まれになり、北海道上川郡当麻尋常高等小学校、旭川中学、東旭川青年学校指導員嘱託、陸軍経理学校予科を経て、昭和23年に北海道大学理学部化学科に入学され、26年に卒業されました。この間、大分県竹田市の田部家との養子縁組により田部姓に改名されました。卒業後直ちに触媒研究所の助手となられ、クロロホルムの分解反応機構の研究を始められ、昭和31年に理学博士の学位を授与されました。ジョージア工科大学、サウスカロライナ大学で研鑽を積み、昭和35年に触媒研究所教授、同40年に化学科の教授となられ、以降、平成2年に定年退官されるまで物理化学講座を担当されました。この間、ノースダコタ大学客員教授、京都大学工学部併任教授、東京工業大学客員教授、吉林大学名誉教授を勤められ

ました。ご退官後は、株式会社日本触媒の研究顧問として活躍される傍ら、ブラジルのニオブの会社CBMMなど国内外の数多くの企業の研究顧問を勤められました。

田部先生は固体の酸塩基触媒の研究の初期からこの分野に参画され、酸と塩基の協奏作用で反応分子を活性化し、特異的な活性と選択性を示すことを提唱されました。平成58年に出版されたSolid Acids and Basesは、世界で初めての固体酸塩基触媒に関する単行本で、適度の強度を持つ酸点と塩基点のバランスが重要との指摘は、その後の金属酸化物と複合金属酸化物の触媒作用の理解を支える礎となっています。

先生の研究成果に対し、松永賞、東レ科学技術賞、日本化学会賞、触媒学会賞、石油学会賞をはじめ、昭和63年には紫綬褒章（触媒の化学）が授与されました。業績は国際的に評価され、平成12年に、世界の酸塩基触媒研究者のグループの国際酸塩基触媒シンポジウム実行委員会によりKozo Tanabe Prize for Acid-Base Catalysisが創設

されました。

本学においては、研究室に在籍した学生は16名の研究生を含めると169名のほり、その一人一人に熱心に教育されるとともに、昭和62年6月から2年間評議員の要職を併任し、大学の管理、運営、発展に尽力しました。

学外においては、昭和53年2月から2年間文部省学術審議会専門委員を務め、関連分野の発展に寄与し、学会活動においても、昭和59年3月から1年間日本化学会北海道支部長、同63年1月から1年間触媒学会長を務め、斯界の発展に尽力し、平成8年に触媒学会名誉会員に推挙されました。

田部先生の生涯にわたる社会への貢献に対し、平成8年勲二等瑞宝章が贈呈されました。没後、正四位に叙されました。

先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大な貢献に感謝申し上げます、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

名誉教授 西 信三 氏 (享年77歳)



名誉教授 西 信三先生が、平成30年10月11日に逝去されました。享年77歳でした。先生は昭和35年4月に北海道大学医学部（当時は医学進学課程）に入学され、学生時代は山岳部に所属し、特に教養時代は山登りに没頭され、山岳部の主任幹事まで務められました。医学部卒業後は北海道大学医学部附属病院での1年間のインターンの

後、大学院（生化学第一講座）に進まれました。当時、生化学第一講座は平井秀松教授が講座を主宰されており、平井先生の指導の下、助手、講師として研究および教育に14年間従事されました。1年間の米国留学後、新設国立医大であった山梨医科大学に助教授として3年間生化学教室に務められ、昭和58年に教授として母校へ戻られました。

先生は大学院生時代から一貫して肝臓がんに関連が深い α -フェトプロテインの研究に没頭され、その研究成果が“Cancer Research”に単著で掲載され、先生の学位論文となりました。その際、研究者としての達成感や醍醐味を享受できた最初の瞬間であったと退職時の挨拶で述べられておりました。

管理運営面では、平成13年4月から平成17年3月まで、研究科長・医学部長を務められております。先生の功績としまして、学士編入学制度の導入、修士課程ならびに保健学科の設置が挙げられます。また、平成16年に国立大学が法人化され、新たな仕事として法人化後の大学評価・授与機構による大学評価への受審準備等が加わり、いずれも容易な仕事ではありませんでしたが、先生は一切おれることなく粛々と対応し、乗り越えられました。

こうした数々の業績により、平成3年北海道医師会賞・北海道知事賞を受賞されております。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

(医学院・医学研究院・医学部)

名誉教授 ^{いなべ} 稲辺 ^{たもつ} 保 氏
(享年65歳)



名誉教授 稲辺 保先生が平成30年10月14日に逝去されました。

先生は昭和51年3月に北海道大学理学部化学第二学科を卒業した後、北海道大学大学院理学研究科化学第二専攻修士課程・博士課程に進学し、昭和56年9月に理学博士を授与されました。その後、米国 Northwestern 大学にて博士研究員を務めた後、昭和59年8月に岡崎国立共同研究機構分子科学研究所の助手に採用され、平成4年4月に北海道大学理学部化学第二学科助教授

として本学に着任されました。翌年8月には教授に昇任し、平成29年3月定年による退職まで、固体化学研究室を担当されました。平成29年4月には北海道大学名誉教授の称号が授与されています。通算25年の永きにわたり北海道大学に勤務され、学科および専攻の講義・実験を担当し、学生の教育に尽くされるとともに、研究室では学部学生や大学院生の研究指導にあたり、多数の研究者・技術者を養成されました。学内運営においては、理学研究院副研究院長、教育研究評議会評議員、エックス線管理専門委員会委員長などを務められ、本学および理学部・理学研究院の発展に大きく寄与されました。

研究面では分子結晶の電気伝導性、電荷移動錯体の分子運動と結晶構造に関する研究に取り組まれました。なかでも、三価鉄イオンを中心金属とした軸配位型フタロシアニンでは、巨大な

磁気抵抗を示す結晶の開発に成功されました。この他にも、太陽電池の材料である金属ハロゲン化物ペロブスカイトの電子輸送特性や2種類の結晶を貼り合わせる接触型ドーピングなど、有機固体の物性化学をリードする研究を行い、同分野の発展に貢献されました。これらの研究に対して、アメリカ化学会アーサー K. ドリトル賞、日本化学会学術賞がおくられています。また、日本化学会理事、日本化学会北海道支部長を歴任され、北海道地区並びに日本全体の化学の発展に寄与されました。

先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大な貢献に感謝申し上げ、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

准教授 ^{たかみ} 高見 ^{さとこ} 敏子 氏
(享年49歳)



高見敏子准教授は病氣療養中のところ、平成30年10月19日に逝去されました。

高見先生は昭和44年山形県東根市生まれ、少女時代を旭川で過ごされ北海道に縁のある方でした。東京大学教養学部教養学科を卒業後、同大学大学院総合文化研究科(言語情報科学専攻)、バーミンガム大学大学院博士課程(言語学)を経て、平成13年4月に

北海道大学言語文化部に専任講師として着任されました。その後、平成16年に助教授に昇任、平成19年にはメディア・コミュニケーション研究院准教授となり、全学教育(英語)を担当した他、国際広報メディア・観光学院言語習得論講座において教育に従事されました。

高見先生の研究上のご専門はコーパス言語学です。学部時代からイギリスの新聞報道で用いられる語彙を数量的に分析するという研究に取り組まれました。その後、コーパス言語学の分析手法を英語教育に応用するという新たな試みも始められました。

高見先生が北大に残した大きな功績は何より、英語多読プロジェクトにあります。平成17年から易しい英語をたくさん読んで英語力を伸ばす「100万語多読」と呼ばれる学習法を北大での

英語教育に導入し、翌年以降は全学教育の英語演習などで多読学習法の指導を行ったほか、プロジェクトのリーダーとして教材の整備等に献身的に努力されました。高見先生のご尽力によって英語多読は北大に根付き、附属図書館には現在7,000冊以上の多読教材が所蔵され、平成25年から行われている附属図書館の「英語多読マラソン」の累積参加者は1,000人を優に越えました(「多読マラソン」は平成27年度「北海道大学教育研究支援業務総長表彰」優秀賞も受賞しました)。

今後も北大の教育・研究にご尽力いただけたはずの高見先生の早すぎるご逝去は言葉に尽くしがたく残念です。謹んで哀悼の意を表します。

(メディア・コミュニケーション研究院)

資料

役 職 員 数

平成30年10月1日現在

職 種		総 長	理 事	監 事	小 計	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	小 計	URA職	専門職	事務職員	技術職員	合 計
部 局 等	役 員	1人	5人	2人	8人	人	人	人	人	人	人		人	人	人	8人
	政策調整室													5		5
	WPI対策室													5		5
	監査室													5		5
事務局	総務企画部												4	94	12	110
	財務部													80		80
	学務部													95		95
	研究推進部													32	1	33
	施設部													10	24	34
	国際部													14		14
	附属図書館													91		91
	文学研究科・文学部					48	30		7		85	1		16		102
	法学研究科・法学部					33	17		4	2	56		2	18		76
	情報科学研究科					41	35		17		93					93
	水産科学院・水産科学研究院・水産学部					25	33		23		81				40	121
	函館キャンパス事務部													23	4	27
	環境科学院・地球環境科学研究院					20	23		8	1	52					52
	環境科学事務部													11		11
	理学院・理学研究院・理学部					74	65	11	46	1	197		1		18	216
	理学・生命科学事務部													42	2	44
	薬学研究院・薬学部					16	6	10	20		52				3	55
	薬学事務部													11		11
	農学院・農学研究院・農学部					43	36	31	17		127				11	138
	農学・食資源学事務部													26	2	28
	生命科学院・先端生命科学研究院					10	5	1	8		24					24
	教育学院・教育学研究院・教育学部					12	21		4	1	38					38
	教育学事務部													8		8
	国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究院					24	30	1	3		58					58
	メディア・観光学事務部													10		10
	保健科学院・保健科学研究院					23	11	7	33		74					74
	工学院・工学研究院・工学部					92	93	3	90	1	279		2		50	331
	工学系事務部													66	3	69
	総合化学院															
	経済学院・経済学研究院・経済学部					26	16		2		44		2			46
	経済学事務部													8		8
	医学院・医学研究院・医学部					34	31	15	71	2	153				12	165
	医学系事務部													45	2	47
	歯学院・歯学研究院・歯学部					17	20	1	44		82				4	86
	歯学事務部													11	1	12
	獣医学院・獣医学研究院・獣医学部					17	14	4	13		48				3	51
	獣医学系事務部													15		15
	医理工学院															
	国際感染症学院															
	国際食資源学院															
	公共政策学教育部・公共政策学連携研究部					11	7	2			20					20
	北海道大学病院					4	17	51	83		155			117	658	930
	低温科学研究所					14	9	1	22		46			10	9	65
	電子科学研究所					15	14		20		49				8	57
	遺伝子病制御研究所					9	4	6	10		29				7	36
	触媒科学研究所					8	7		7		22				6	28
	スラブ・ユーラシア研究センター					7	2		5	1	15					15
	情報基盤センター					7	5		3		15					15
	人獣共通感染症リサーチセンター					5	4	3	1		13				2	15
	アイソトープ総合センター					1	1		1		3				2	5
	量子集積エレクトロニクス研究センター					3	3				6					6
	北方生物圏フィールド科学センター					13	21		8		42			20	71	133
	観光学高等研究センター					3	2				5					5
	アイヌ・先住民研究センター					1	6		1		8					8
	社会科学実験研究センター															
	環境健康科学研究教育センター						1				1					1
	北極域研究センター					4	1		3		8					8
	脳科学研究教育センター															
	外国語教育センター															
	数理・データサイエンス教育研究センター															
	総合博物館					3	2	2	2		9					9
	大学文書館						1				1		2			3
	学生相談総合センター						1	2			3					3
	保健センター					1					1				8	9
	埋蔵文化財調査センター								1		1					1
	国際連携研究教育局					20(41)	8(28)	4(9)	6(18)		38					38
	技術支援本部															
	情報環境推進本部												1			1
	アドミッションセンター															
	人材育成本部															
	創成研究機構						1		2		3		1		8	12
	高等教育推進機構					5	11	1	9		26				4	30
	サステイナブルキャンパスマネジメント本部															
	安全衛生本部					2					2		1			3
	大学力強化推進本部											11				11
	産学・地域協働推進機構					2					2		8			10
	総合 I R 室															
	国際連携機構					1					1	1	4			6
	北キャンパス合同事務部													17		17
合 計		1	5	2	8	694	614	156	594	9	2,067	13	28	900	975	3,991

※国際連携研究教育局の教職員数の()内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該教職員は、原籍組織の教職員数に計上
 (情報科学研究科：16名、水産科学研究院：2名、地球環境科学研究院：3名、理学研究院：2名、農学研究院：12名、先端生命科学研究院：10名、メディア・コミュニケーション研究院：1名、保健科学研究院：2名、工学研究院：4名、経済学研究院：1名、医学研究院：10名、獣医学研究院：3名、北海道大学病院：4名、電子科学研究所：6名、スラブ・ユーラシア研究センター：2名、人獣共通感染症リサーチセンター：9名、北方生物圏フィールド科学センター：1名、北極域研究センター：8名)

(総務企画部人事課)

在 籍 学 生 数 (平成30年10月1日現在)

- (注) 1 () 内は女子の内数, < > 内は女子の比率
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数(工学部は高専卒業者の受入れ)
 4 以下の表は, すべて外国人留学生数を含む

■学部

学部等名	入学定員	在 籍 者 数							研究生	聴講生	科目等 履修生	特 別 聴講学生	合 計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文 学 部	185人 [人]	一人	191人	187人	231人	一人	一人	609人 (280<46.0%)	49人	11人	7人	72人	748人 (379<50.7%)
教育学部	50 [10]	—	51	62	76	—	—	189 (76<40.2)	24	1	7	1	222 (99<44.6)
法 学 部	200 [10] [10]	—	227	212	237	—	—	676 (204<30.2)		6	3	15	700 (217<31.0)
経済学部	190	—	204	209	209	—	—	622 (156<25.1)	37			15	674 (193<28.6)
理 学 部	300	—	313	316	371	—	—	1,000 (239<23.9)		1	2	5	1,008 (243<24.1)
医 学 部	287 [5]	—	307	299	304	107	107	1,124 (504<44.8)	2			6	1,132 (506<44.7)
歯 学 部	53	—	53	48	54	54	48	257 (104<40.5)	2				259 (104<40.2)
薬 学 部	80	—	79	84	85	30	27	305 (129<42.3)		1	4		310 (132<42.6)
工 学 部	670 [10]	—	695	732	839	—	—	2,266 (310<13.7)		1	1	41	2,309 (322<13.9)
農 学 部	215	—	220	228	237	—	—	685 (259<37.8)	1	5	1	7	699 (265<37.9)
獣医学部	40	—	42	43	42	47	40	214 (94<43.9)				7	221 (100<45.2)
水産学部	215	—	234	210	200	—	—	644 (147<22.8)	6		1	10	661 (156<23.6)
現代日本学 プログラム課程	—	—	14	16	9	—	—	39 (29<74.4)					39 (29<74.4)
総合教育部	—	2,669	—	—	—	—	—	2,669 (756<28.3)				158	2,827 (840<29.7)
合 計	2,485 [15] [30]	2,669	2,630	2,646	2,894	238	222人	11,299 (3,287<29.1)	121	26	26	337	11,809 (3,585<30.4)

※学部の入学定員は, 学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

■研究所等

研 究 所 等 名	研 究 生	特別研究学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合 計
人獣共通感染症リサーチセンター	2人	人	一人	一人	2人 (0< 0.0)
観 光 学 高 等 研 究 セ ン タ ー	1		—	—	1 (1<100.0)
量子集積エレクトロニクス研究センター	1		—	—	1 (1<100.0)
低 温 科 学 研 究 所	3		—	—	3 (2< 66.7)
電 子 科 学 研 究 所	7	1	—	—	8 (2< 25.0)
遺 伝 子 病 制 御 研 究 所	6		—	—	6 (1< 16.7)
触 媒 科 学 研 究 所	9		—	—	9 (3< 33.3)
スラブ・ユーラシア研究センター	5	1	—	—	6 (3< 50.0)
情 報 基 盤 セ ン タ ー	4		—	—	4 (2< 50.0)
総 合 博 物 館			—	—	0 (0< 0.0)
北方生物圏フィールド科学センター	4		—	—	4 (1< 25.0)
高 等 教 育 推 進 機 構	5		45	30	80 (44< 55.0)
合 計	47	2	45	30	124 (60< 48.4)

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数
 生命科学の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数
 医学院の修士課程1年次の上段は公衆衛生学1年コースの学生数

■大学院

研究科名	修士課程（博士前期）				専門職学位課程					博士課程（博士後期及び博士一貫）					研究 生	聴 講 生	科目 等履修 生	特別 研究学 生	特別 聴講学 生	合 計	
	入学 定員	在 籍 者 数			入学 定員	在 籍 者 数				入学 定員	在 籍 者 数										
		1年次	2年次	小 計		1年次	2年次	3年次	小 計		1年次	2年次	3年次	4年次							小 計
文 学 研 究 科	90人	101人	104人	205人 (114(55.6%))	一人	一人	一人	一人	一人	35人	40人	28人	94人	一人	162人 (79(48.8%))	13人	5人	2人	5人	9人	401人 (212(52.9%))
法 学 研 究 科	20	18	33	51 (20(39.2%))	50	16 16	12 26	16 —	86 (19(22.1%))	15	9	7	15	—	31 (10(32.3%))	29		2	3	7	209 (78(37.3%))
情報科学研究科	177	222	203	425 (40(9.4%))	—	—	—	—	—	42	47	40	66	—	153 (22(14.4%))	21			1		600 (66(11.0%))
薬 学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (1(100%))
水 産 科 学 院	90	122	100	222 (62(27.9%))	—	—	—	—	—	35	18	14	24	—	56 (17(30.4%))				5		283 (81(28.6%))
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2 (1(50.0%))
環 境 科 学 院	159	143	177	320 (101(31.6%))	—	—	—	—	—	63	48	31	77	—	156 (60(38.5%))				6	5	487 (166(34.1%))
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28					28 (15(53.6%))
理 学 院	129	132	139	271 (51(18.8%))	—	—	—	—	—	56	41	38	75	—	154 (26(16.9%))			1			426 (78(18.3%))
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14					14 (5(35.7%))
農 学 院	142	190	181	371 (124(33.4%))	—	—	—	—	—	42	38	40	69	—	147 (42(28.6%))				4		522 (168(32.2%))
農 学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25					25 (14(56.0%))
生 命 科 学 院	132	153	134	287 (106(36.9%))	—	—	—	—	—	44 6	35 6	41 6	63 5	— 11	167 (39(23.4%))				4		458 (146(31.9%))
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3					3 (0(0.0%))
教 育 学 院	45	43	59	102 (63(61.8%))	—	—	—	—	—	21	15	12	56	—	83 (44(53.0%))		1	1	1	1	189 (110(58.2%))
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7					7 (4(57.1%))
国際広報メディア・ 観 光 学 院	42	50	50	100 (78(78.0%))	—	—	—	—	—	17	7	9	55	—	71 (36(50.7%))		2	2	1	5	181 (122(67.4%))
メディア・コミュニ ケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28					28 (20(71.4%))
保 健 科 学 院	40	46	55	101 (52(51.5%))	—	—	—	—	—	10	10	7	21	—	38 (17(44.7%))						139 (69(49.6%))
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22					22 (14(63.6%))
工 学 院	326	389	415	804 (119(14.8%))	—	—	—	—	—	69	51	69	88	—	208 (37(17.8%))				9	13	1034 (163(15.8%))
工 学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	51					51 (19(37.3%))
工 学 研 究 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0 (0(0.0%))						0 (0(0.0%))
総 合 化 学 院	129	160	151	311 (64(20.6%))	—	—	—	—	—	38	39	47	64	—	150 (36(24.0%))				5	1	467 (100(21.4%))
経 済 学 院	35	58	32	90 (58(64.4%))	20	20	22	—	42 (10(23.8%))	8	6	11	—	—	17 (8(47.1%))		1			3	153 (79(51.6%))
経済学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						—
経済学研究科	—	—	3	3 (2(66.7%))	—	—	—	—	0 (0(0.0%))	—	—	—	10	—	10 (1(100%))						13 (3(23.1%))
医 学 院	20	2 30	25	57 (26(45.6%))	—	—	—	—	—	90	108	85	—	—	193 (44(22.8%))		1		3		254 (71(28.0%))
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7					7 (4(57.1%))
医学研究科	—	—	1	1 (0(0.0%))	—	—	—	—	—	—	—	6	94	146	246 (55(22.4%))						247 (55(22.3%))
歯 学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	47	19	—	—	66 (20(30.3%))						66 (20(30.3%))
歯 学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5 (3(60.0%))
歯 学 研 究 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	34	34	71 (28(39.4%))						71 (28(39.4%))
獣 医 学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	13	17	—	—	30 (10(33.3%))						30 (10(33.3%))
獣医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6					6 (2(33.3%))
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	25	22	50 (20(40.0%))						50 (20(40.0%))
医 理 工 学 院	12	11	16	27 (1(3.7%))	—	—	—	—	—	5	6	8	—	—	14 (2(14.3%))						41 (3(7.3%))
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	18	14	—	—	32 (11(34.4%))						32 (11(34.4%))
国際食資源学院	15	16	17	33 (16(48.5%))	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						33 (16(48.5%))
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	32	45	—	77 (24(31.2%))	—	—	—	—	—	—			4			81 (25(30.9%))
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10					10 (6(60.0%))
合 計	1,603	1,886	1,895	3,781 (1,097(29.0%))	100	84	105	16	205 (53(25.9%))	664	603	554	935	213	2,305 (664(28.8%))	272	10	12	47	44	6,676 (2,008(30.1%))

(学務部学務企画課)

広 報 誌 等 一 覧

平成30年10月調査

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
事務局	企画課	北海道大学近未来戦略150（英語・日本語併記版）	不定期	H26年 8 月	北海道大学創基150年に向けた近未来戦略
		ビジュアルブック	不定期	H30年 9 月	色彩豊かで伝統と趣のあるキャンパス風景を四季ごとに紹介
	広報課	北海道大学概要	年 1 回	H30年度版	本学の沿革，組織，職員数等，大学の概要を掲載
		北海道大学概要（英語版）	年 1 回	H30年 8 月	本学の沿革，組織，職員数等，大学の概要を掲載
		リテラボプリ	年 2 回	H30年 9 月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革，教育研究，及び緑豊かなキャンパス等を紹介
		リテラボプリ（英語版）	年 2 回	H30年 6 月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革，教育研究，及び緑豊かなキャンパス等を紹介
		北大時報	月 1 回	H30年10月	その月の大学や部局のニュース，お知らせ等を掲載
		キャンパスガイドマップ	不定期	H29年 6 月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介
		Campus Guide Map（キャンパスガイドマップ 英語版）	年 1 回	H29年12月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介
		Campus Guide Map（キャンパスガイドマップ 繁体字版）	年 1 回	H30年 3 月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介
		Campus Guide Map（キャンパスガイドマップ 簡体字版）	年 1 回	H30年 3 月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介
		Tackling Global Issues	年 1 回	H30年 3 月	世界の課題解決を目指す北海道大学の先鋭研究を紹介
		ACADEMIC FANTASISTA 国民との科学・技術対話事業	年 1 回	H29年度版	北海道大学における「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業の紹介
		Strategy for Making Innovation 理の社会実装を目指して	不定期	H29年度版	北海道大学の研究者の紹介と，産学・地域協働を支えるシステムの紹介
		Reach アウトリーチイベントのつくりかたハンドブック	不定期	H28年 3 月	教職員を対象としたアウトリーチのイベント企画のためのハンドブック
	主計課財務管理室	財務レポート	年 1 回	H30年10月	財務諸表では伝わりにくい財務情報をわかりやすく分析し，併せて本学の活動のうち特徴的なものを財務情報を交えて紹介
	教育推進課	新渡戸カレッジパンフレット	年 1 回	H30年 8 月	新渡戸カレッジの概要を掲載
		新渡戸カレッジパンフレット（企業向け）日本語版	不定期	H30年 2 月	新渡戸カレッジの概要を掲載（企業向け）
		新渡戸カレッジパンフレット（企業向け）英語版	不定期	H30年 4 月	新渡戸カレッジの概要を掲載（企業向け）
		新渡戸スクールリーフレット	年 1 回	H30年 3 月	新渡戸スクールの概要を掲載
	学生支援課	えるむ	年 2 回	H30年 4 月	学生向けに学内行事・ニュース・お知らせ等を掲載
		北大元気プロジェクト実施報告書	年 1 回	H29年 9 月	北大元気プロジェクトの活動報告を掲載
		学生生活の案内	年 1 回	H30年 4 月	学部学生向けの学生生活案内
		学生相談室 広報用カード	不定期	H30年 3 月	学生相談室の概要
		アクセシビリティ支援室リーフレット	不定期	H28年 7 月	アクセシビリティ支援室の概要
		キャンパスライフサポートマップ	不定期	H28年 7 月	アクセシビリティ調査の結果と学内の関係機関と支援学生の協力により作成した環境情報を掲載
		北大生のための相談先お助けガイド	年 1 回	H30年 4 月	学内のサポート機関の紹介及びフローチャートを用いた相談先の紹介
		とっても北大生	4年に1回	H30年 9 月	学生生活実態調査の結果を元に北大生の学生生活を紹介
		北海道大学学生寮入寮案内－恵迪寮－	年 1 回	H30年 1 月	学生寮（恵迪寮）の概要・入寮出願手続き等を掲載
		北海道大学学生寮入寮案内－霜星寮－	年 1 回	H30年 1 月	学生寮（霜星寮）の概要・入寮出願手続き等を掲載
		北海道大学学生寮入寮案内－北大インターナショナルハウス北23条2号棟－	年 1 回	H30年 1 月	学生寮（北大インターナショナルハウス北23条2号棟）の概要・入寮出願手続き等を掲載
	入試課	Be ambitious（大学案内）	年 1 回	H30年 6 月	学部等の紹介，修学コースマップ，入試・教育・学生生活の紹介
		オープンキャンパス	年 1 回	H30年 5 月	オープンキャンパスの実施内容を掲載
		AO入試案内	年 1 回	H30年 4 月	AO入試の概要について掲載
		入学者選抜要項	年 1 回	H30年 7 月	入学者選抜に関する概要
		北大キャンパスビジットプロジェクト 北大ぐるぶらマップ	不定期	H30年 7 月	北大キャンパスビジットプロジェクト概要紹介，キャンパス案内
		知のフロンティア－北海道大学の研究者は，いま－	不定期	H30年 1 月	本学教員の研究内容紹介
		外国人留学生のための北海道大学案内	年 1 回	H30年 4 月	外国人留学生のための本学紹介
		INTERNATIONAL STUDENT PROSPECTUS（『外国人留学生のための北海道大学案内』の英語版）	年 1 回	H30年 4 月	外国人留学生のための本学紹介
		DEGREE PROGRAMS IN ENGLISH	年 1 回	H30年 4 月	英語で修得できる学位プログラムの紹介
	教育推進課・入試課	Modern Japanese Studies Program (MJSP)	年 1 回	H30年 3 月	現代日本学プログラムの概要を掲載
		Modern Japanese Studies Program (MJSP) Flyer(English)	年 1 回	H30年 3 月	現代日本学プログラムの概要をより簡潔にまとめた内容を掲載（英文）
		Modern Japanese Studies Program (MJSP) Flyer(日本語)	年 1 回	H30年 3 月	現代日本学プログラムの概要をより簡潔にまとめた内容を掲載（和文）

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
事 務 局	教育推進課・入試課	Integrated Science Program (ISP)	年 1 回	H30年 2 月	ISPのプログラム概要を掲載
		Integrated Science Program (ISP) Flyer(English)	年 1 回	H30年 2 月	ISPの概要をより簡潔にまとめた内容を掲載 (英文)
	キャリア支援課 (キャリアセン ター名義で発行)	キャリア通信	年 3 回	H30年10月	キャリアセンター利用案内、各種就職ガイダンス・セ ミナー情報、インターンシップ情報等を掲載 (発行時 期により内容は異なる)
		就職活動のためのキャリアハンドブック	年 1 回	H30年 9 月	各種就職関連情報等を掲載
		就職活動のためのキャリアハンドブック (日本語・英語併記版、日本語・中国語併 記版)	不定期	H29年 9 月	日本での就職を希望する外国人留学生向けに日本独 自の慣習や就職活動の流れ等を掲載
	国際交流課	HANDBOOK FOR INTERNATIONAL STUDENTS	年 1 回	H30年 8 月	在学中の留学生に必要な手続き及び生活情報を提供
		Exchange Possibilities at Hokkaido Univesrity	年 1 回	H29年12月	本学の交換留学プログラムの紹介
		Hokkaido University Short-Term Exchange Program	年 1 回	H29年12月	北海道大学短期留学プログラムHUSTEPの紹介及び 開講科目の授業内容等を掲載
		JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE STUDIES PROGRAM (JLCSP)	年 1 回	H29年12月	北海道大学短期留学プログラムJLCSPの紹介及び開講 科目の授業内容等を掲載
		日本語・国際教育研究紀要	年 1 回	H29年12月	研究論文、研究ノート、実践報告、調査報告
		北海道大学国際教育研究センターブック レット	年 1 回	H30年 3 月	オンラインでつなぐ協働学習一複数国・地域間での多 文化交流型授業の実践
		北大生のための留学ハンドブック	年 1 回	H30年 3 月	北大生のための留学情報提供誌
		全学教育科目 一般教育演習 (フレッシュ マンセミナー) グローバル・キャリア・デ ザイン [通称: ファースト・ステップ・プ ログラム (FSP)]	不定期	H30年 3 月	FSP概要
		Hokkaidoサマー・インスティテュート リーフレット (英語版のみ)	年 1 回	H29年12月	HSIプログラム概要
		Hokkaidoサマー・インスティテュートポ スター (日本語版・英語版)	年 1 回	H29年12月	HSIプログラム概要
		Hokkaidoサマー・インスティテュート六 角形リーフレット (日本語・英語併記)	年 1 回	H29年12月	HSIプログラム概要
		Hokkaidoサマー・インスティテュート POP (日本語・英語併記)	年 1 回	H29年12月	HSIプログラム概要
		RJE3リーフレット (日本語・英語・ロシ ア語)	不定期	H27年 3 月	RJE3プログラム概要
		PAREリーフレット (日本語・英語)	不定期	H28年 3 月	PAREプログラム概要
	施設企画課	北海道大学キャンパスマスタープラン 2018	不定期	H30年 3 月	北海道大学の新しい大学像の実現を期するための、 キャンパス空間利用の大綱となる計画 (1996年に策定 し、2006年の改訂を経て2018年に改訂したもの)
		北海道大学キャンパスマスタープラン 2018 リーフレット	不定期	H30年 3 月	キャンパスマスタープラン2018の概要を掲載
	施設整備課	歴史的資産ガイドマップ	不定期	H30年 2 月	北海道大学の歴史的資産 (建造物等) をマップと写真 で紹介
		HISTORIC HERITAGE VISITOR GUIDE AND MAP (歴史的資産ガイドマップ 英 語版)	不定期	H30年 2 月	北海道大学の歴史的資産 (建造物等) をマップと写真 で紹介
	国際連携課	ソウルオフィス リーフレット (日本語 版、韓国語版)	不定期	H28年 4 月	ソウルオフィスの施設案内
		北海道大学留学案内ガイド (韓国語版)	不定期	H28年 5 月	韓国人留学生向けの入学案内 (発行: ソウルオフィ ス)
文学研究科・文学部		北海道大学大学院文学研究科・文学部概要	年 1 回	H30年 6 月	文学部の沿革、歴代学部長、組織運営等の概要を掲載
		北海道大学大学院文学研究科案内	年 1 回	H30年 8 月	2019年 4 月設置予定の文学院の特徴、学院の担当教員 や専攻・研究室紹介、学生生活、授業内容、入試情 報、進路・就職情報等を掲載
		北海道大学文学部案内	年 1 回	H30年 7 月	学部の担当教員や履修コース紹介、学生生活、授業内 容、留学情報、入試情報、進路・就職情報等を掲載
		北海道大学文学部学外評価委員会報告書	不定期	H27年12月	外部評価報告書
		北海道大学文学研究科紀要	年 3 回	H30年 7 月	文学研究科専任教員の研究成果を論文として掲載
		北海道大学大学院文学研究科研究論集	年 1 回	H29年11月	文学研究科大学院学生の研究成果を論文として掲載
		北海道大学大学院文学研究科研究叢書	年 1 ～ 3 回	H26年 7 月	文学研究科専任教員の研究成果や共同研究の公表
		Journal of the Graduate School of Letters	年 1 回	H30年 3 月	文学研究科教員及び大学院学生の研究成果を英文論文 として掲載
		北海道大学大学院文学研究科ライブラリ	年 1 ～ 2 回	H30年 6 月	文学研究科専任教員の研究成果や共同研究の成果、公 開講座のテキストを掲載
		北海道大学文学研究科 若手研究者支援 リーフレット	不定期	H30年 4 月	文学研究科が大学院生向けに実施している独自の支援 事業の概要を紹介するリーフレット
		文学院紹介特設ページ	不定期	H30年 4 月	2019年 4 月設置予定の文学院の特徴を紹介するウェブ サイト
		文学院紹介動画	不定期	H30年 6 月	2019年 4 月設置予定の文学院の特徴を紹介する動画
		文学院大学院進学説明会配付資料 (教養深 化プログラム)	不定期	H30年 6 月	2019年 4 月開設予定の教養深化プログラムの特徴を紹 介するリーフレット

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
文学研究科・文学部	文学研究科大学院進学説明会配付資料	年 1 回	H29年 6 月	文学研究科の入試情報、カリキュラム、支援情報、進路情報、学位論文題目などを掲載
	Graduate School of Letters / Faculty of Letters	不定期	H26年 2 月	文学研究科・文学部の海外向け英文パンフレット、文学研究科・文学部の概要をコンパクトにまとめて掲載
	北海道大学大学院 文学院（仮称）紹介リーフレット	不定期	H29年10月	2019年 4 月設置予定の文学院の特徴を紹介するリーフレット
	留学ガイドブック	年 1 回	H30年 3 月	部局間協定校へ留学を希望する、文学研究科・文学部の学生向けガイドブック
法学研究科・法学部	法学部案内 Be Ambitious	年 1 回	H30年 6 月	法学部での学生生活、学修内容や教員等の紹介
	北大法学論集	年 6 回	H30年 9 月	文献の論説、資料の紹介及び判例研究を掲載
	北大法政ジャーナル	年 1 回	H29年12月	法学研究科の「秀」及び「優」に相当する修士論文及びリサーチペーパー、並びに法科大学院修了者が修了の次年度 1 月末までに提出し「秀」及び「優」相当の修士論文と同等の水準を有すると認められた論文
	附属高等法政教育研究センター NewsLetter j-mail	不定期	H28年 9 月	主催シンポジウムの報告、所属教員・研究会の研究内容等を掲載
	大志ある法曹をめざして（法科大学院パンフレット）	年 1 回	H30年 3 月	法科大学院の教育プログラム、教員の紹介、入試制度等を掲載
	自己点検評価・外部評価報告書	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価報告書 法学研究科・法学部の外部評価報告書
	自己点検・評価報告書評価資料集	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価に関する資料集
	知的財産法政策学研究	年 2 回	H30年 4 月	知的財産法政策学研究に関する研究報告
情報科学研究科	北海道大学大学院情報科学研究科	年 1 回	H30年 4 月	情報科学研究科の研究内容等に関する紹介
	北海道大学大学院情報科学研究科（日本語・英語併記リーフレット）	年 1 回	H30年 4 月	情報科学研究科の紹介
	IST NEWS	年 4 回	H30年10月	情報科学研究科のニュースを掲載
水産科学院・水産科学研究院・水産学部	北海道大学大学院水産科学研究院・水産科学院・水産学部概要	年 1 回	H30年度版	沿革、組織、講座等の紹介（一般向け）
	北海道大学水産学部 PR誌 aQua	年 1 回	H30年 7 月	学部、学院、各学科及び各専攻の紹介（学生向け）
	北海道大学水産学部附属練習船おしお丸	不定期	H27年 1 月	附属練習船おしお丸の概要紹介
	北海道大学水産学部附属練習船うしお丸	不定期	H14年 3 月	附属練習船うしお丸の概要紹介
	北海道大学水産科学研究彙報（Bulletin of Fisheries Sciences, Hokkaido University）	年 3 回	H30年 8 月	英文・和文で書かれた報文、短報等をまとめたもの
	Memoirs of the Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University（北海道大学大学院水産科学研究院紀要）	年 2 回	H29年12月	学術的価値を有し、まとまった研究成果を公表する報文、特定の分野に従来の研究を総合的にまとめた総合論文（レビュー）等を掲載
	Data Record of Oceanographic Observations and Exploratory Fishing（海洋調査漁業試験要報）	年 1 回	H29年 3 月	本学部練習船を用いて行った海洋観測、生物調査、漁業試験結果の紹介
	北海道大学水産科学研究科・水産学部の現状と課題－自己点検評価報告書－	不定期	H20年 3 月	水産学部の現状と今後の課題をまとめたもの
	北海道大学水産科学研究科・水産学部の現状と課題－外部点検評価報告書－	不定期	H20年 4 月	水産学部の現状と今後の課題をまとめたもの
	学生寮入寮案内－北晨寮	不定期	H28年12月	学生寮（北晨寮）の概要・入寮手続き等を掲載（WEB版）
環境科学院・地球環境科学研究院	北海道大学大学院環境科学院の紹介	年 1 回	H30年度版 (H30年 4 月)	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載
	英文リーフレット	年 1 回	H30年度版 (H30年 4 月)	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載
理学院・理学院・理学部	北海道大学大学院理学院・理学院・理学部概要	不定期	H29年度版	沿革、組織、職員数、学生数、建物案内、附属施設等の紹介
	理学部 学部案内	2～3年に1回	H30年度版	理学部各学科の概要や附属施設の紹介及び卒業生の進路、メッセージ等を掲載
	北海道大学理学部広報誌「Sci」	年 2 回	H30年 7 月	理学部各学科を特集で紹介、理学部OB・OG紹介、識者による理学と理学部への期待、学生受賞情報、理学部の歴史等を掲載
	理学部ハンドアウト(簡易版パンフレット)	不定期	H28年12月	理学部各学科の簡単な紹介
	School of Science リーフレット	不定期	H29年 8 月	理学部各学科の簡単な紹介（英文）
	Graduate School of Science	年 1 回	H30年 3 月	理学院の紹介（英文）
	Faculty of Scienceパンフレット	不定期	H27年 3 月	理学院の紹介（英文）
	北海道大学大学院理学院数学専攻パンフレット	年 1 回	H30年 6 月	数学専攻スタッフ一覧、専門紹介、修士課程の履修について掲載
	Hokkaido Mathematical Journal（紀要）	年 3 回	H30年10月	研究論文
	数学科目ガイド	不定期	H30年 4 月	数学科の学部学生向け科目案内（全学教育科目、専門科目）
	Hokkaido University Preprint Series in Mathematics	不定期	H30年10月	研究論文速報（HPにて公開）
	Hokkaido University Technical Report Series in Mathematics	不定期	H30年 8 月	研究集会、特別講演等、本学で講演されたもののアブストラクト集
	北海道大学理学部数学科ガイド	年 1 回	H30年 5 月	1 年生向け数学科の案内
	北海道大学理学部化学科パンフレット	不定期	H27年 6 月	化学科の研究室・研究内容等の紹介

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
理学院・理学研究院・理学部	Annual Report2017（化学専攻）	年1回	H30年7月	各研究室の研究業績・外部資金獲得状況等の紹介、各種大学院教育プログラム実績の紹介
	物理学部門年次報告書	年1回	H29年4月	部門の活動一覧、各研究グループの成果報告
	北海道大学理学部物理学科パンフレット	不定期	H29年4月	カリキュラム、研究室等の紹介
	北海道大学理学部生物科学科（生物学）学科案内	年1回	H30年5月	高校生・一般向け講座紹介、入学から卒業までの過程、授業内容、高校生一日入学紹介、教員名簿、卒業後の進路（過去3年間）を掲載
	北海道大学理学部生物科学科（生物学）広報	不定期	H30年10月	高校生・一般向け講座紹介、教員紹介、各種お知らせ、いきものがたり、生物学者列伝、入学から卒業までの過程、授業内容等を掲載（HPにて公開）
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）パンフレット	年1回	H30年7月	学科内容、研究室紹介
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）「学部・学科紹介」	年1回	H30年4月	【1年生対象】高分子機能学が分かる！身近に感じる！「学部・学科紹介」
	北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）広報	不定期	H30年4月	学科内容、研究室紹介、留学・国際交流、卒業生の声、動画・高分子図鑑など
	北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻 専攻案内パンフレット	不定期	H25年6月	専攻内容及び各研究室研究内容メンバーの紹介
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻概要	年1回	H28年5月	専攻の組織、カリキュラム、講座紹介・教員紹介等を掲載
	北海道大学理学部地球惑星科学科パンフレット	不定期	H29年4月	学科内容の紹介、教員紹介
	北海道大学地球物理学研究報告	年1回以上	H28年3月	研究論文の発表
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星ダイナミクス講座	不定期	H29年3月	ダイナミクス講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星システム科学分野	不定期	H28年3月	システム科学講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載
	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	不定期	H29年4月	学部学生を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載
	The Institute of Seismology and Volcanology Faculty of Science, Hokkaido University	不定期	H24年3月	外国人研究者及び留学生等を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載
	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター年報	年1回	H30年8月	センターとしての活動・研究活動・教育活動及び構成員名簿を掲載
薬学研究院・薬学部	生命科学の最先端へ	隔年	H29年6月	学部紹介パンフレット
	北海道大学大学院薬学研究院・薬学部外部点検評価報告書	不定期	H26年3月	点検評価
	北海道大学大学院薬学研究院・薬学部自己点検評価報告書	不定期	H25年10月	点検評価
農学院・農学研究院・農学部	北海道大学大学院農学研究院・大学院農学院・農学部概要	年1回	H30年7月	農学研究院・農学院・農学部の沿革等の概要を掲載（和文・英文併記）
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要	年1回	H30年3月	農学研究院・農学部の学術研究論文誌
	Journal of the Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University（北海道大学大学院農学研究院欧文紀要）	年1回	H23年2月	農学研究院・農学部の学術研究論文誌
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要別冊「農経論叢」	年1回	H30年3月	農業経済に関する学術研究論文誌
	Insecta Matsumurana	年1回	H29年10月	昆虫学に関する学術研究論文誌
	農学部学部案内	不定期	H30年7月	各学科・附属施設の内容紹介（冊子）
	20th Anniversary Commemorative Bulletin of the Special Post Graduate Program in English Graduate School of Agriculture Hokkaido University: 1997-2017	不定期	H29年11月	農学院英語コース20周年記念誌
生命科学院・先端生命科学研究院	北海道大学大学院先端生命科学研究院パンフレット	不定期	H26年3月	構成、研究活動、連携、支援体制、人材育成、研究室紹介
	先端生命科学研究院リーフレット	不定期	H30年9月	構成、研究活動、産学連携、支援体制、人材育成、研究室紹介
	先端生命科学研究院 広報	不定期	H30年4月	研究活動、研究室紹介
	次世代物質生命科学研究センター Annual Report 2017年度	年1回	H30年10月	研究活動、研究業績、研究資金、設備紹介
	北海道大学大学院生命科学院パンフレット	年1回	H30年度版	大学院受験生への学院紹介、研究概要、入試概要、施設・設備紹介
	北海道大学薬学部 大学院生命科学院 生命科学専攻 生命医薬科学コース 臨床薬学専攻 パンフレット	隔年	H29年6月	薬学部、生命医薬科学コース、臨床薬学専攻の概要、カリキュラム、研究活動、施設・設備紹介
	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻生命融合科学コース パンフレット	不定期	H24年5月	コース概要
	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻生命融合科学コース 研究室紹介	不定期	H30年4月	コース概要、研究室紹介
	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻生命融合科学コース 広報	不定期	H30年4月	研究活動、研究室紹介

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
生命科学院・ 先端生命科学研究院	北海道大学大学院生命科学院 生命システム科学コース	年 1 回	H28年度版	コース概要
	北海道大学大学院生命科学院 ソフトマター専攻 研究室紹介	不定期	H30年 4 月	コース概要, 研究室紹介
	北海道大学大学院生命科学院ソフトマター専攻 広報	不定期	H30年 4 月	研究活動, 研究室紹介
	Graduate School of Life Scienceパンフレット	不定期	H29年 3 月	生命科学院の紹介 (英文)
教育学院・ 教育学研究院・ 教育学部	北海道大学教育学部案内	3 年に 1 回	H29年 3 月	各研究室の紹介, 卒業後の進路, 学生の声, 卒業生の声, 国際交流状況等を掲載
	北海道大学大学院教育学院入学案内	3 年に 1 回	H29年 3 月	各研究室を紹介
	北海道大学大学院教育学研究院紀要	年 2 回	H28年 6 月 H30年 8 月	研究の成果を論文として掲載
	北海道大学教職課程年報	年 1 回	H29年 3 月 H30年 3 月	北海道大学教職課程に関連した調査研究及び授業実践等に関する論文や各種資料を掲載
国際広報メディア・観光学院 メディア・コミュニケーション研究院	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院案内	年 1 回	H29年 4 月	学院の沿革, 組織, 職員数等の概要を掲載
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院案内 (新学院紹介用の臨時発行版)	臨時発行	H30年 7 月	新学院設立の方針, 新しい教育内容, 組織, 職員数等の概要を掲載
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院案内 英語版	年 1 回	H27年 4 月	学院の沿革, 組織, 職員数等の概要を掲載 (英語版)
	国際広報メディア・観光学ジャーナル	年 2 回	H30年 9 月	教員の教育・研究成果の公表, 博士後期課程学生の研究発表
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア専攻 観光創造専攻 (リーフレット)	年 1 回	H29年度版	学院の紹介, 入試日程概要
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 国際広報メディア専攻 観光創造専攻 (リーフレット) 中国語版	年 1 回	H29年度版	学院の紹介, 入試日程概要 (中国語版)
	メディア・コミュニケーション研究	年 1 回	H30年 3 月	教員の研究報告
	自己点検・評価報告書 外部評価報告書	不定期	H28年 3 月	自己点検・評価報告, 外部評価報告
保健科学院・ 保健科学研究院	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院・医学部保健学科概要	年 1 回	H30年度版	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科の沿革, 組織, 職員数, 学生数等の概要を掲載 (英文併記)
	北海道大学大学院保健科学研究院広報「プラテュス」	年 2 回	H30年10月	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科のニュース, トピックス, お知らせ等を掲載
	北海道大学医学部保健学科パンフレット	年 1 回	H30年 6 月	医学部保健学科各専攻紹介, 卒業研究, 在校生・卒業生からのメッセージを掲載
	北海道大学大学院保健科学院パンフレット	隔年	H30年 6 月	保健科学院担当教員紹介及び保健科学研究院研究プロジェクト等を掲載
	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院保健科学院 (医学部保健学科) 年報	年 1 回	H30年 9 月	沿革, 組織, 研究活動, 教育活動等を掲載 (CD-ROM)
	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド	不定期	H27年 6 月	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド (日本語版, 英語版)
工学院・工学研究院・工学部	北海道大学大学院工学研究院・工学院・工学部概要 (和文・英文)	年 1 回	H30年 7 月	沿革, 組織, 職員数等, 工学研究院・工学院・工学部の概要を掲載
	北海道大学大学院工学研究院・工学院広報誌「えんじにあRing」	年 4 回	H30年10月	工学研究院・工学院の研究紹介, ニュース等を掲載
	北海道大学工学系教育研究センター平成26年度活動報告書	隔年	H27年 3 月	工学系教育研究センターの報告書 (活動)
	北海道大学工学系教育研究センターリーフレット (和文／英文併記)	不定期	H30年 4 月	工学系教育研究センターの紹介
	北大CEED (工学系教育研究センター) e ラーニングのご案内 (和文・英文)	不定期	H30年10月	工学系教育研究センター e ラーニングシステム開発部で提供している e ラーニングに関する紹介, 視聴方法等案内, 多言語化への取組
	北海道大学工学部のすべて 2017・2018 (学部紹介パンフレット)	隔年	H29年 7 月	工学部への入学を目指す高校生等を対象に, 工学部の概要, 特に 4 学科15コースの内容を中心に紹介
	Girls, Be ambitious!	不定期	H28年 3 月	工学部への入学を目指す女子学生を対象に, 工学部を紹介するパンフレット
	就職に強い! 工学部	不定期	H29年10月	工学部・工学系大学院の就職状況を紹介
	english engineering education PROGRAM	不定期	H27年 8 月	グローバル工学人材養成プログラム (e3) の概要紹介
	北海道大学工学部 情報エレクトロニクス学科 (パンフレット)	年 1 回	H30年 4 月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介
	E.O	不定期	H27年11月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介
	北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターパンフレット (和文・英文)	隔年	H28年 8 月	センターの沿革, 組織, 研究内容, 業績等統計を掲載
	大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター複合量子ビーム超高圧顕微解析研究室	不定期	H30年10月	超高圧電子顕微鏡及び周辺機器の仕様, 研究例, 沿革等を掲載
総合化学院	北海道大学大学院総合化学院概要 (英語併記)	不定期	H29年 3 月	沿革, 組織, 総合化学院の概要, 研究室紹介等を掲載
	北海道大学大学院総合化学院自己点検評価書	不定期	H26年11月	総合化学院創設から 5 年間の自己点検評価を掲載

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
総合化学院	北海道大学大学院総合化学院外部点検評価書	不定期	H27年 4 月	H27年 2 月開催の外部中間評価概要、評価資料、外部委員による評価
	ANNUAL REPORT 2016	年 1 回	H30年 3 月	総合化学院の特色ある教育活動、学生状況、分野（研究室）の教育研究活動を掲載
	北海道大学大学院総合化学院紹介ポスター（パネル）	不定期	H27年 4 月	総合化学院の概要等を紹介
経済学院・ 経済学研究院・ 経済学部	北海道大学大学院経済学研究院・大学院経済学院・経済学部概要	年 1 回	H30年 4 月	経済学研究院・経済学院・経済学部の沿革、組織、学生数、職員数等の概要を掲載
	北海道大学大学院経済学院（紹介パンフレット）	不定期	H29年 4 月	経済学院への入学を目指す方を対象に、研究科の構成、入試情報、研究内容等を紹介
	北海道大学アカウンティングスクール（紹介パンフレット）	不定期	H29年 4 月	会計専門職大学院への入学を目指す方を対象に、入試情報、講義科目等を紹介
	経済学部のすべて（紹介パンフレット）	不定期	H29年 4 月	経済学部への入学を目指す方を対象に、学部の構成、授業科目、入試情報、学生生活等を紹介
	経済学研究（紀要）	年 2 回	H30年 6 月	経済学研究院・経済学院所属の教員・大学院生の研究論文を掲載
	地域経済経営ネットワーク研究センター年報	年 1 回	H30年 3 月	経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターの研究成果を発信
医学院・医学研究院・医学部	北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科概要（日本語版）	年 1 回	H30年 9 月	医学研究院・医学院・医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載
	北海道大学大学院医学研究院・医学院・医学部医学科概要（英語版）	年 1 回	H29年11月	医学研究院・医学院・医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載（英文）
	北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科広報	年 4 回	H29年11月	医学研究院・医学院・医学部医学科のニュース、トピックス、お知らせ等を掲載
	北海道大学大学院医学研究院・大学院医学院・医学部医学科紹介DVD	不定期	H30年 7 月	入学志願者、一般向けにカリキュラム、医学研究院・医学院・医学部医学科の特色等を紹介
	北海道大学医学部医学科紹介動画（日本語版）	不定期	H30年10月	入学志願者、一般向けに医学部医学科の特色等を紹介
	北海道大学医学部医学科紹介動画（英語版）	不定期	H30年10月	入学志願者、一般向けに医学部医学科の特色等を紹介
	北海道大学医学部医学科案内	年 1 回	H30年 6 月	入学志願者、一般向け医学科案内
	VIS-Voice of the International Students-国際連携部門だより（英語版）	年数回程度	H30年 9 月	留学生（大学院生・交換留学生）、医学科学生の意見、国際交流イベントの紹介・参加者の感想等を掲載
	北海道大学 大学院医学院 修士課程案内（日本語版）	年 1 回	H30年 5 月	入学志願者、一般向け医学院修士課程案内
	北海道大学 大学院医学院 修士課程案内（英語版）	年 1 回	H30年 8 月	入学志願者、一般向け医学院修士課程案内（英文）
	北海道大学 大学院医学院 修士課程公衆衛生学コース 学生募集チラシ	不定期	H30年 5 月	入学志願者向けに募集案内
	北海道大学 大学院医学院 博士課程案内（日本語版）	年 1 回	H30年 5 月	入学志願者、一般向け医学院博士課程案内
	北海道大学 大学院医学院 博士課程案内（英語版）	年 1 回	H30年 8 月	入学志願者、一般向け医学院博士課程案内（英文）
	北海道大学大学院医学研究院 連携研究センター「フラテ」概要	年 1 回	H30年10月	センターの組織、研究概要、セミナー、研究業績等を掲載
	北海道大学医学部保健学科案内	年 1 回	H29年度版	受験生向け保健学科案内
歯学院・歯学研究院・歯学部	北海道大学大学院歯学研究院・大学院歯学院・歯学部概要	年 1 回	H30年 9 月	沿革、組織等、研究院・学院・学部の概要を掲載
	北海道大学大学院歯学研究院・歯学院・歯学部・歯科診療センター広報	年 1 回	H30年 8 月	行事紹介、研究活動紹介、新任教員紹介、歯科治療の紹介、学生ニュース等を掲載
	北海道大学歯学部学部紹介	年 1 回	H30年度版	歯学部を志願する高校生向けの学部案内
	北海道大学大学院歯学院紹介	年 1 回	H30年度版	歯学院の志願者向けの大学院案内
獣医学院・ 獣医学研究院・ 獣医学部	光れる北を	不定期	H30年 6 月	獣医学部案内
	THe Japanese Journal of Veterinary ResearchH	年 4 回	H30年 8 月	欧文による研究論文の発表、広報
	大学院獣医学研究院・大学院獣医学院・獣医学部 概要（日本語・英語版）	不定期	H30年 2 月	獣医学研究院・獣医学部の沿革・組織・職員数等の概要を掲載
	大学院獣医学研究院・獣医学部 年報	不定期	H28年11月	研究院の概要、組織、研究活動、教育活動等を掲載
	獣医学研究院 附属動物病院	不定期	H27年10月	動物病院の施設・設備等診療案内
	大学院獣医学研究院・大学院獣医学院・獣医学部 動物実験施設	不定期	H30年 5 月	動物実験施設の概要を掲載
	外部評価報告書	4 年に 1 回	H27年 6 月	外部評価委員による、獣医学研究科・獣医学部の施設・設備等の評価を公表
	自己点検評価報告書	4 年に 1 回	H27年 6 月	獣医学研究科・獣医学部の点検・評価事項を公表
医理工学院	北海道大学 大学院医理工学院 修士・博士後期課程案内（日本語版）	年 1 回	H30年 5 月	医理工学院修士課程・博士後期課程案内
	北海道大学 大学院医理工学院 修士・博士後期課程案内（英語版）	年 1 回	H30年 5 月	医理工学院修士課程・博士後期課程案内（英文）
国際感染症学院	北海道大学 大学院国際感染症学院 設置案内（日本語・英語版）	未定	H28年 8 月	大学院国際感染症学院の開設・カリキュラム案内

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
国際食資源学院	北海道大学大学院国際食資源学院 入学希望者向けガイドブック	年 1 回	H30年 6 月	国際食資源学院の紹介
	北海道大学大学院国際食資源学院概要	年 1 回	H30年 7 月	国際食資源学院の沿革等の概要を掲載（和文・英文併記）
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部	外部評価委員会評価報告書	不定期	H26年 3 月	公共政策学連携研究部・教育部の外部評価報告書
	年報公共政策学	年 1 回	H30年 3 月	公共政策に関する研究論文
	大学院案内（日本語版）	年 1 回	H30年 4 月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介
	リーフレット	不定期	H28年 3 月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を簡略に紹介
	大学院案内（英語版）	不定期	H27年 3 月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介
	大学院案内（中国語版）	不定期	H27年 3 月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介
	大学院案内（韓国語版）	不定期	H27年 3 月	本大学院の特色、カリキュラム、学修環境等を紹介
北海道大学病院	北海道大学病院概要	年 1 回	H30年度版	診療実績等の概要を掲載
	CSRレポート	不定期	H30年 9 月	“わたしたちの社会貢献活動”をテーマに5つの取り組みを紹介するほか、病院の概要やデータを掲載
	北海道大学病院 初期医師臨床研修プログラム	年 1 回	H30年度版	医師臨床研修プログラムを掲載
	北海道大学病院 歯科医師卒後臨床研修プログラム	年 1 回	H30年度版	歯科医師臨床研修プログラムを掲載
	北海道大学 臨床研修センター Resident NEWS letter「AMBITION」	年 4 回	H30年 9 月	当院医師臨床研修に係る最新情報を掲載
	北海道大学病院 内科専門研修プログラム	不定期	H30年 7 月	当院内科領域の専門研修に係る情報を掲載
	北海道大学病院 外科専門研修プログラム	不定期	H30年 7 月	当院外科領域の専門研修に係る情報を掲載
	北海道大学病院 地域医療連携福祉センター ニュースレター	年 2 回	H30年 6 月	各診療科外来診療等紹介や院内の最新情報等を掲載
	北海道大学病院 腫瘍センター NEWS	年 2 回	H27年 6 月	腫瘍センターの活動やがん診療に関する情報を掲載
	北海道大学病院 看護部キャリア支援室だより「つながり」	年 3 回	H30年 6 月	当院看護師の研修に係る最新情報等を掲載
	北大病院 薬剤部NEWS	年 4 回	H30年 9 月	薬剤師業務及び医薬品に係る情報を掲載
	北海道大学病院 臨床研究開発センター News	年12回	H30年10月	臨床研究開発センターに係る情報を掲載
低温科学研究所	北海道大学低温科学研究所概要	隔年	H30年 7 月	研究所の沿革、組織、職員数等の概要を掲載
	北海道大学低温科学研究所年次自己点検評価報告書－年報－	年 1 回	H30年10月	研究所の活動状況、研究成果、自己点検評価の結果を掲載（年報）
	北海道大学低温科学研究所外部点検評価報告書	不定期	H25年 3 月	研究所の組織及び運営、教員人事、研究活動、大学院教育及び社会教育等の外部評価を掲載
	低温研ニュース	年 2 回	H30年 6 月	研究紹介、シンポジウム報告、共同研究、人事異動等を掲載
	環オホーツク観測研究センターリーフレット（日本語版・英語版）	不定期	H26年 9 月	環オホーツク観測研究センターの研究内容を紹介
	北海道大学低温科学研究所「ダイジェストガイド」	不定期	H29年 1 月	研究所の歴史、最新の研究内容、組織を紹介
電子科学研究所	北海道大学電子科学研究所（概要）	隔年	H26年 1 月	研究所の概要の紹介用パンフレット（日本語と英語の併記）
	研究活動－点検評価報告書－	毎年	H28年 8 月	研究所の研究教育活動の年次報告
	外部評価報告書	不定期	H28年 1 月	研究所の外部評価の状況の取りまとめを掲載
遺伝子病制御研究所	北海道大学遺伝子病制御研究所概要	隔年	H28年12月	目的と使命、沿革、歴代所長・施設長及び名誉教授、機構、職員・学生、研究活動、附属施設、教育活動、代表論文、北海道大学配置図を掲載
	北海道大学遺伝子病制御研究所年報	年 1 回	H30年 1 月	総論、機構、管理運営、社会貢献、附属施設、予算規模等、研究成果、教育活動、共同利用・共同研究拠点、研究活動、施設・設備、各種委員会等を掲載
	北海道大学遺伝子病制御研究所外部評価報告書	不定期	H26年 8 月	理念・目標、沿革、研究体制と将来構想、中期目標・中期計画、研究、教育、社会貢献活動、国際交流、管理運営等、施設、共同利用・共同研究拠点、附属施設、各分野における研究概要と成果等を掲載
	IGM News Letter	年 1 回	H29年 3 月	トピックス、お知らせ、研究業績紹介、新任教員紹介、新講座開設等を掲載
触媒科学研究所	触媒化学研究センター外部点検評価報告書	不定期	H25年 3 月	センター外の委員で組織された委員会による点検評価報告
	触媒科学研究所概要	年 1 回	H30年 5 月	研究所の沿革、組織、研究概要を掲載（英文併記）
	触媒科学研究所年報	年 1 回	H30年10月	沿革、組織、研究活動状況、教育活動状況を掲載
附属図書館	北海道大学附属図書館年報	年 1 回	H30年 7 月	附属図書館の活動のトピックス紹介、統計、組織、人事往来等を掲載
	北海道大学附属図書館本館利用案内（リーフレット） 日本語版	不定期	H29年 9 月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載
	Hokkaido University Library Guide（リーフレット） 英語版	不定期	H29年 4 月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載
	北海道大学附属図書館北図書館利用案内（リーフレット） 日本語版	年 1 回	H30年 4 月	附属図書館北図書館の利用に関する案内等を掲載
	北海道大学附属図書館北方資料概要	不定期	H30年 6 月	附属図書館所蔵北方資料の利用に関する案内等を掲載

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
附属図書館		Hokkaido University Library Northern Studies Collection	不定期	H30年3月	附属図書館所蔵北方資料の利用に関する案内等を掲載（英文）
		榆蔭（北海道大学附属図書館報）	年2回	H30年10月	学生向けに附属図書館のサービス紹介、ニュース等を掲載
		HUSCAPレター	不定期	H26年3月	北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）収載文献の紹介記事等を掲載
スラブ・ユーラシア 研究センター		SLAVIC RESEARCH CENTER HOKKAIDO UNIVERSITY（概要）	不定期	H28年10月	センターの沿革、組織、職員紹介、研究活動等を掲載
		北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターニュース	年4回	H30年9月	センターの最新の研究・行事・人事等の活動状況を掲載
		スラブ・ユーラシア研究センターを研究する（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター点検評価報告書）	不定期	H26年8月	センターの自己点検評価報告、外部評価報告、活動記録報告
		ACTA SLAVICA IAPONICA（欧文学術雑誌）	年1回	H30年5月	投稿論文を欧文で掲載（レフェリー制）
		スラヴ研究（和文学術雑誌）	年1回	H30年6月	投稿論文を和文で掲載（レフェリー制）
		スラブ・ユーラシア研究報告集	不定期	H30年9月	研究報告会等での報告抄録等を掲載
		Slavic Research Center News	年1回	H30年9月	センターの研究・行事・人事等の活動状況を欧文で掲載
		Slavic Eurasian Studies（欧文論集）	不定期	H30年8月	シンポジウムのペーパー等を欧文で掲載
		Eurasia Border Review	年2回	H30年3月	グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する報告抄録等を掲載
		境界研究	年1回	H30年3月	グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する投稿論文を和文で掲載（レフェリー制）
		スラブ・ユーラシア研究者名簿	不定期	H24年3月	スラブ・ユーラシア地域研究者の名簿
		スラブ・ユーラシア研究センター（SRC）メールマガジン	月1回	H30年10月	センターの行事や研究会の予定、募集等について掲載
		スラブ・ユーラシア研究センター（SRC）Twitter	随時	H30年10月	センターの行事や研究会の予定、募集等について掲載
情報基盤センター		情報基盤センター概要	年1回	H30年8月	センターの沿革、組織、研究概要を掲載
		情報基盤センター概要（英語版）	隔年	H30年10月	センターの沿革、組織、研究概要を英文で掲載
		情報基盤センター年報	年1回	H29年11月	センターの沿革、組織、研究活動状況、教育活動状況を掲載
		大型計算機システム（iiC-HPC）ニュース	年2回	H30年9月	大型計算機システムに関する情報提供
		情報セキュリティ及びネットワークの手引き HINES-WORLD	不定期	H30年4月	北海道大学情報ネットワーク利用案内、情報セキュリティの手引き、規定集
		情報セキュリティ及びネットワークの手引き HINES-WORLD（英語版）	不定期	H30年10月	北海道大学情報ネットワーク利用案内、情報セキュリティの手引きを英文で掲載
		情報セキュリティガイド（リーフレット）	不定期	H30年4月	情報セキュリティの手引き
人獣共通感染症リサーチセンター		北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター（日本語・英語版）	年1回	H29年9月	人獣共通感染症リサーチセンターの概要を掲載
		人獣共通感染症リサーチセンター年報	年1回	H29年12月	センターの概要、組織、研究活動、教育活動等を掲載
		外部評価報告書	6年に1回	H27年3月	外部評価委員による、人獣共通感染症リサーチセンターの研究業績・施設・設備等の評価を公表
		自己点検評価報告書	6年に1回	H27年3月	人獣共通感染症リサーチセンターの点検・評価事項を公表
アイソトープ総合センター		センター概要	不定期	H29年3月	センターの施設案内、沿革等を掲載
		アイソトープ総合センター利用案内	隔年	H30年3月	センターの利用に関する規程等、利用に関する情報をわかりやすく掲載
		北海道大学アイソトープ総合センター自己点検・評価報告書	年1回	H30年8月	センターの利用状況、共同研究一覧、活動報告等を掲載
		センターニュース（CIS NEWS）	年1回	H30年3月	センターの最新機器の紹介、講義、講習会のお知らせ等のニュースを掲載
量子集積エレクトロニクス 研究センター		北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター（概要・和文）	不定期	H26年4月	センターの目的、組織、研究内容等を掲載
		北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター（概要・英文）	不定期	H26年4月	センターの目的、組織、研究内容等を掲載
		量子集積エレクトロニクス研究（研究報告）	年1回	H30年6月第17巻	センターの研究目的、組織、研究内容、施設・設備と、研究活動及び研究成果の報告
		量子集積エレクトロニクス研究センター自己点検評価書	年1回	H30年6月	研究・教育活動成果に基づく自己点検評価書
北方生物圏フィールド科学センター	企画調整室	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター概要	不定期	H27年2月	沿革、組織、研究内容等の概要を掲載
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター年報	年1回	H29年2月	各施設の教育・研究動向、職員の研究業績一覧、施設の利用状況等を掲載
		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター News Letter	年数回	H30年6月	センターの活動紹介、イベントなどのお知らせ、ショートエッセイ等を掲載
	森林圏ステーション	演習林研究報告	不定期	H27年3月	森林科学関連分野及び森林圏ステーション関連の研究論文（和文）を掲載。国内外の関係機関等にも送付
		Eurasian Journal of Forest Research	不定期	H29年12月	「演習林研究報告」の英語論文分冊。国内外の関係機関等にも送付
		森林圏ステーション年度報告	年1回	H30年2月	森林圏ステーション管理面の資料を掲載

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
北 方 生 物 園 フ ィ ー ル ド 科 学 セ ン タ ー	森林園ステーション	北方森林保全技術	年 1 回	H30年 2 月	森林園ステーション技術系職員が試験年報報告会で発表した論文等を掲載。国内の関係機関等にも送付
		森林園ステーション概要	不定期	H30年 3 月	施設の紹介
	耕地園ステーション	北海道大学生物生産研究農場概要	不定期	H14年 9 月	農場の沿革、部門紹介、組織等の概要を掲載
		北海道大学生物生産研究農場研究報告	隔年	H17年12月	農場を利用した研究の報告
		北海道大学北方生物園フィールド科学センター耕地園ステーション生物生産研究農場（概要パンフレット）	不定期	H14年 3 月	農場の沿革、組織等の概要を掲載
		北海道大学北方生物園フィールド科学センター耕地園ステーション生物生産研究農場余市果樹園（リーフレット）	不定期	H16年 1 月	余市果樹園の解説
		北海道大学北方生物園フィールド科学センター生物生産研究農場技術業務報告	年 1 回	H21年 3 月	農場における圃場管理や家畜飼養に関する技術業務を掲載
		北海道大学北方生物園フィールド科学センター植物園（概要パンフレット）英語併記	不定期	H29年 8 月	植物園の沿革、組織等の概要を掲載
		植物園だより（リーフレット）	年 6 回	H29年10月	日高山脈の植物
		北海道大学植物園（リーフレット）日本語版	年 1 回	H28年 7 月	植物園内の解説
		北海道大学植物園（リーフレット）英語版	年 1 回	H27年 4 月	植物園内の解説
		北海道大学植物園（リーフレット）中国語版	年 1 回	H28年 7 月	植物園内の解説
		北海道大学植物園（リーフレット）韓国語版	年 1 回	H28年 7 月	植物園内の解説
		北大植物園技術報告・年次報告	年 1 回	H30年 3 月	植物園の活動内容
		MIYABEA sive Illustrated Flora of Hokkaido	不定期	H11年10月	研究報告
		北大植物園研究紀要	年 1 回	H28年12月	研究報告
		北大植物園資料目録	不定期	H28年 2 月	資料目録
		北海道大学北方生物園フィールド科学センター静内研究牧場研究報告	不定期	H13年 3 月	牧場を利用した研究の報告
	水園ステーション	北海道大学北方生物園フィールド科学センター水園ステーション厚岸臨海実験所報告	不定期	H19年 3 月	所員及び研究目録、業績目録、科学研究費等補助金、利用者リスト及び研究、利用状況、利用者業績目録、教育・社会教育活動、気象・海洋観測データ（各内容を英語及び日本語で掲載）
観光学高等研究センター	CATS2018 パンフレット		年 1 回	H30年 8 月	観光学高等研究センターの紹介
	CATS2018 パンフレット 英語版		年 1 回	H30年 8 月	観光学高等研究センターの紹介（英語版）
アイヌ・先住民研究センター	アイヌ・先住民研究センター案内（パンフレット日本語版）		不定期	H29年11月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを日本語で紹介
	アイヌ・先住民研究センター案内（パンフレット英語版）		不定期	H30年 6 月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを英語で紹介
	アイヌ・先住民研究センター案内（パンフレット中国語版）		不定期	H29年11月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトを中国語で紹介
	アイヌ・先住民研究センター案内（パンフレットロシア語版）		不定期	H29年11月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトをロシア語で紹介
	日本国憲法と先住民民族であるアイヌの人びと（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 1号）		不定期	H25年 2 月	アイヌ・先住民研究センターが2011年10月に主催した講演会の講演内容を紹介
	トンコリの世界（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 2号）		不定期	H26年 3 月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介
	The Ainu : Indigenous People of Japan（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 3号）		不定期	H29年 3 月	ワシントンD.C.での国際シンポジウムにおける報告をまとめ、現代のアイヌ民族の活動等を海外に向けて英文で紹介
	花とイナウー世界の中のアイヌ文化―（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 4号）		不定期	H29年 4 月	アイヌ民族の信仰や儀式等において用いられるイナウの意味や特徴を各国のイナウとも比較しながら紹介
	台湾の原住民族政策―民族認定と博物館―（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 5号）		不定期	H27年 4 月	アイヌ・先住民研究センターが2012年と2014年に主催した台湾の原住民族政策に関するシンポジウムの講演内容を紹介
	古川アシンノカルの生涯―新冠地方の故事と伝承―（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 6号）		不定期	H28年 3 月	北海道日高郡新ひだか町在住の狩野義美氏が書き記した文章の中から大叔父の古川アシンノカル氏らに係るものを集成
	The World of Tonkori（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 7号）		不定期	H29年 3 月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介したブックレット 2号の英語版
	An Introduction to Ainu Studies（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 8号）		不定期	H30年 3 月	アイヌ・先住民研究センターの研究内容を海外に向けて英文で紹介
	Flowers and Inaw-Ainu Culture in the World-（北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット 9号）		不定期	H30年 3 月	アイヌ民族の信仰や儀式等において用いられるイナウの意味や特徴を各国のイナウとも比較しながら紹介したブックレット 4号の英語版
	アイヌ・先住民研究センターの10年-2007～2017-		不定期	H30年 9 月	アイヌ・先住民研究センターの10年間の研究の成果と今後の展開について主要なプロジェクトごとにとりまとめた報告書

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
アイヌ・先住民研究センター	2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活と意識	不定期	H24年 1 月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査（アンケート調査）に関する報告書
	2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容	不定期	H24年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2009年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査（インタビュー調査）に関する報告書
	2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活と意識の多様性	不定期	H26年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査の結果を再分析した報告書
	2014年アイヌ民族多住地域住民調査報告書 地域住民のアイヌ政策への評価とアイヌの人々との社会関係	不定期	H27年 9 月	アイヌ・先住民研究センターが2014年に札幌市とむかわ町で実施したアイヌ民族多住地域住民調査の結果に関する報告書
	Report on the 2008 Hokkaido Ainu Living Conditions Survey	不定期	H23年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査に関する報告書の英語版
	2017年アイヌ民族多住地域調査報告書 帯広市におけるアイヌ民族の現状と地域住民	不定期	H30年 6 月	アイヌ・先住民研究センターが2017年に帯広市で実施したアイヌ民族多住地域住民調査の結果に関する報告書
	沖縄におけるガイドツアーの運営実態に関する事例調査	不定期	H23年 3 月	アイヌ・先住民研究センターがエコツーリズム・プロジェクトの一環として実施した事例調査の報告書
	世界のなかのアイヌ・アート	不定期	H28年 1 月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民族アートプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	先住民族アート・プロジェクト報告書 アイヌ・アートが担う新たな役割－米国先住民アートショーに学ぶ	不定期	H27年 4 月	アイヌ・先住民研究センターが2014年に国立民族学博物館との共催で開催した国際シンポジウムの記録
	先住民文化遺産とツーリズム－アイヌ民族における文化遺産活用の理論と実践	不定期	H28年 6 月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民文化遺産とツーリズムプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	Indigenous Heritage and Tourism-Theories and Practices on Utilizing the Ainu Heritage-	不定期	H26年 1 月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民文化遺産とツーリズムプロジェクト」の研究成果に関する報告書の英語版
	teetasinrit tekrukoci 先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料－受けつぐ技－	不定期	H21年 2 月	アイヌ・先住民研究センターと北大総合博物館の企画展示の記録
	teetasinrit tekrukoci -The Handprints of our Ancestors- Ainu Artifacts Housed at Hokkaido University-Inherited Techniques	不定期	H24年 3 月	アイヌ・先住民研究センターと北大総合博物館の企画展示の記録の英語版
	北海道新冠地方におけるアイヌ語地名の調査と分析	不定期	H28年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2013年から2015年に行ったアイヌ語地名調査の成果報告
	にかほ市象潟郷土資料館所蔵森家旧蔵「蝦夷方言漢沙草 全」翻刻・解題	不定期	H25年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2012年に実施した「古文書プロジェクト」の研究成果に関する報告書
	ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所蔵 田藩文庫旧蔵「東蝦夷集考」翻刻・解題	不定期	H26年 5 月	ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所蔵の和文写本の概要を日本で初めて紹介
	国立公文書館内閣文庫所蔵 昌平坂学問所旧蔵「蝦夷語集」 元・亨 影印・翻刻	不定期	H29年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2016年に実施した「古文書プロジェクト」の研究成果に関する報告書
	国立公文書館内閣文庫所蔵 昌平坂学問所旧蔵「蝦夷語集」 利・貞 影印・翻刻	不定期	H30年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2017年に実施した「古文書プロジェクト」の研究成果に関する報告書
	藤山ハル口述・村崎恭子採録・著 樺太アイヌ語例文集（2）	不定期	H28年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2015年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	和田文治郎 樺太アイヌ言語・文化誌 出版・育児・通過儀礼	不定期	H29年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2016年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究（7）	不定期	H30年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2017年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロジェクト」の研究成果に関する報告書
	アイヌ語十勝方言例文集1	不定期	H26年 3 月	アイヌ語十勝方言の研究に際して基礎となる例文を提示し、言語学的研究の一助とする目的で日常語例文を収録
	アイヌ語厚別方言語彙集	不定期	H29年 2 月	北海道日高町豊田に在住した松島トミ氏によるアイヌ語語彙と例文の記録
	アイヌ語十勝方言会話小辞典	不定期	H29年10月	アイヌ・先住民研究センターが行ったアイヌ語十勝方言の言語調査で得られた資料を意味分類に従って配列したもの
	アイヌ語浦河方言語彙集	不定期	H29年 5 月	アイヌ・先住民研究センターが行った調査によるアイヌ語浦河方言の語彙集
	アイヌ叙景詩鑑賞 押韻法を中心に	不定期	H30年 8 月	アイヌ・先住民研究センターが2017年に実施した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロジェクト」の研究成果に関する報告書
社会科学実験研究センター	北海道大学社会科学実験研究センター自己点検評価	年 1 回	H30年 3 月	社会科学実験研究センターの概要、教育研究活動の実績、組織構成を掲載（HPよりダウンロード可能）
	北海道大学社会科学実験研究センター案内（パンフレット）	不定期	H22年 3 月	社会科学実験研究センターの概要、実験室等の研究設備とその利用状況、研究成果を紹介
	北海道大学社会科学実験研究センター案内（パンフレット）英語版	不定期	H27年 8 月	社会科学実験研究センターの概要、実験室等の研究設備とその利用状況、研究成果を紹介
環境健康科学研究教育センター	北海道大学環境健康科学研究教育センター年報	隔年	H30年 5 月	環境健康科学研究教育センターの概要、部門報告、業績一覧、委員会名簿等を掲載

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
環境健康科学研究教育センター		環境健康科学研究教育センターチラシ（英語版、日本語版）	不定期	H28年 3 月	環境健康科学研究教育センターの組織、概要、活動内容を分かりやすく掲載
脳科学研究教育センター		北海道大学脳科学研究教育センター概要	隔年	H29年 7 月	センターの組織、発達脳科学専攻（バーチャル専攻）の概要等を掲載
外国語教育センター		HOKKAIDO UNIVERSITY CENTER FOR LANGUAGE LEARNING	不定期	H21年 4 月	外国語教育センターの紹介
		自己点検・評価報告書 外部評価報告書	不定期	H28年 3 月	自己点検・評価報告、外部評価報告
数理・データサイエンス教育研究センター		数理・データサイエンス教育研究センターリーフレット	不定期	H30年 6 月	数理・データサイエンス教育研究センターの概要
総合博物館		重要文化財札幌農学校第2農場パンフレット（見学者配付用資料）	1 回	H29年 3 月	重要文化財札幌農学校第2農場を見学者に紹介
		総合博物館展示リーフレット（見学者配付用資料）	1 回	H28年 7 月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介・利用案内を見学者に紹介
		An Introduction to The Hokkaido University Museum	1 回	H28年 7 月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介・利用案内を見学者に紹介（リーフレット）
		北海道大学総合博物館外部点検評価報告書（平成22年度～平成27年度）	不定期	H29年 3 月	外部点検評価委員会による総合博物館の評価
		北海道大学総合博物館点検評価報告書（平成22年度～平成27年度）	不定期	H28年12月	北海道大学総合博物館点検評価委員会委員による総合博物館の評価
		北海道大学総合博物館研究報告	年 1 回	H28年 3 月	研究報告 No. 1（2003.3）-No. 8（2016.3）
		北海道大学総合博物館年報	年 1 回	H30年 7 月	博物館及び博物館教員の活動記録 H16年度 H18・19年度 H20・21年度 H22・23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 H29年度
		北海道大学総合博物館ニュース	年 2 回	H30年 6 月	博物館の活動状況・出来事・ニュース・特別寄稿等を掲載 No. 1（1999.7）-No.37（2018.6）
		Guidebook : Museum Meister Course, The Hokkaido University Museum	年 1 回	H30年度版	総合博物館ミュージアムマイスター認定コースの案内
大学文書館		北海道大学大学文書館年報	年 1 回	H30年 3 月	研究論文、資料紹介・目録、業務記録等を掲載
		北海道大学大学文書館資料叢書	不定期	H22年 3 月	資料翻刻、解説等を掲載
		北海道大学大学文書館自己点検・外部評価報告書	不定期	H30年 3 月	自己点検・外部評価報告書
		北海道大学大学文書館概要	年 1 回	H30年 4 月	大学文書館の概要、案内図等を掲載
		北海道大学大学文書館リーフレット	年 1 回	H29年 9 月	大学文書館の概要、所蔵資料の紹介、利用に関する案内等を掲載
		北海道大学大学文書館利用案内	年 1 回	H29年 9 月	大学文書館の利用方法に関する案内を掲載
		北海道大学150年史編集準備室リーフレット	年 1 回	H30年 8 月	150年史編集準備室の概要、沿革年表等を掲載
		北海道大学150年史編集ニュース	年 2 回	H30年 7 月	150年史編集準備室の活動内容、北大史小話を掲載
埋蔵文化財調査センター		北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター	年 3 回	H30年 3 月	構内の遺跡、埋蔵文化財調査センターの活動内容を紹介
		北大構内の遺跡	年 1 回	H30年 3 月	北大構内（札幌キャンパス）における埋蔵文化財の調査報告
人 材 育 成 本 部	上級人材育成ステーション S-cubic	S-cubic通信	不定期	H30年 3 月	DC・PDを対象とした進路選択のガイドブック
	I-HoP	Career Management Guide for the Doctorates	不定期	H30年 8 月	外国人英語コース博士のためのキャリアマネジメントガイド
	連携型博士研究人材育成推進室	科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業 連携型博士研究人材総合育成システムの構築	不定期	H30年 6 月	コンソーシアム事業の紹介
	女性研究者支援室	女性研究者支援室FResHU リーフレット	不定期	H30年 2 月	女性研究者支援室の紹介
創成研究機構		創成ニューズレター CRIS TIMES	年 1 回	H28年度版	創成研究機構の活動紹介
		北海道大学 創成研究機構	不定期	H28年 1 月	創成研究機構の組織紹介
		北海道大学 創成研究機構（DVD）	不定期	H23年 9 月	創成研究機構の紹介DVD（改訂版）
		Creative Research Institution	不定期	H23年10月	創成研究機構の紹介DVD（英語・改訂版）
		北大を特徴づける研究機関 創成研究機構 構成組織	不定期	H25年10月	創成研究機構各構成組織の紹介及び研究・活動内容の紹介
		オープンファシリティプラットフォーム	不定期	H29年 5 月	オープンファシリティプラットフォームの紹介
		Global Facility Center Hokkaido University	不定期	H30年 6 月	グローバルファシリティセンターの紹介（日本語版）
		Global Facility Center Hokkaido University (English ver.)	不定期	H29年 7 月	グローバルファシリティセンターの紹介（英語版）
		北海道大学グローバルファシリティセンター	不定期	H30年 8 月	グローバルファシリティセンターの紹介
		北海道大学グローバルファシリティセンター（英語版）	不定期	H30年 8 月	グローバルファシリティセンターの紹介
		“ひらめきをカタチにするパートナー” 今すぐ使える北大GFC	不定期	H30年10月	グローバルファシリティセンターの紹介（学外向け）
		オープンファシリティ料金表 学外利用者用	不定期	H29年10月	オープンファシリティ学外利用料金一覧（日本語版）
		Hokkaido University OPEN FACILITY PRICE LIST For EXTERNAL USERS	不定期	H29年10月	オープンファシリティ学外利用料金一覧（英語版）

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最 新 版 発行年月	掲 載 内 容 等
創成研究機構	先端技術のオープンステーション 北海道大学 オープンファシリティ	不定期	H27年12月	オープンファシリティの紹介DVD（日本語版）
	Cutting-edge Open Station Hokkaido University Open Facility	不定期	H27年12月	オープンファシリティの紹介DVD（英語版）
	第5回オープンファシリティシンポジウム 報告書	年1回	H30年3月	オープンファシリティシンポジウム開催報告
	北海道大学創成研究機構グローバルファシ リティセンター機器分析受託サービス	不定期	H30年7月	グローバルファシリティセンター機器分析受託部門の 紹介
	分析料金表	不定期	H28年4月	分析料金一覧 学外料金（日本語版）
	Price List	不定期	H28年4月	分析料金一覧 学外料金（英語版）
	北海道大学次世代研究基盤戦略	不定期	H29年9月	文部科学省「先端研究基盤共用促進事業（新たな共用 システム導入支援プログラム）」の紹介
	原子・分子の顕微イメージングプラット フォーム	不定期	H30年6月	文部科学省：先端研究基盤共用促進事業（共用プラッ トフォーム形成支援プログラム）「原子・分子の顕微 イメージングプラットフォーム」事業の紹介及び利用 募集
	同位体顕微鏡	不定期	H25年4月	文部科学省：先端研究基盤共用・プラットフォーム形 成事業「安定同位元素イメージング技術による産業イ ノベーション」事業における塚本教授のインタビュー （リテラボブリ29号を元に作成）
高等教育推進機構	高等教育ジャーナル ー高等教育と生涯学習ー	年1回	H30年3月	広く高等教育に関する論文・報告等を公開
	ニュースレター	年3回	H30年10月	高等教育推進機構の活動を報告
	ラーニングサポート室リーフレット	不定期	H29年4月	ラーニングサポート室の利用に関する案内
	アカデミック・マップ	年1回	H30年4月	進級、学部移行の参考として各学部学科等の研究内容 等を掲載
	ラーニングサポートレター	年4回	H30年9月	初年次学生の修学状況とラーニングサポート室で実施 する学習サポートやセミナーの利用状況を掲載
	北海道大学オープンエデュケーションセン ター活動報告書	年1回	H29年3月	北海道大学オープンエデュケーションセンターの活動 報告書
	北海道大学オープンエデュケーションセン ターリーフレット	不定期	H29年3月	学内の教職員を対象にオープンエデュケーションセン ターの活動内容を紹介
	北海道大学オープンエデュケーションセン ターフライヤー	年1回	H28年4月	新入学生向けに、北海道大学オープンコースウェア及 びオープンエデュケーションセンターに関する案内を 掲載
	教育情報システム（ELMS）リーフレット	年1回	H30年4月	教育情報システム（ELMS）の利用案内を掲載
	CoSTEPリーフレット	年1回	H30年3月	CoSTEPの活動を紹介
	いいね！Hokudai	週4回	H30年10月	北大の日々を紹介するWebマガジン
サステナブルキャンパス マネジメント本部	環境報告書2017 北大のタテ・ヨコ・あした	年1回	H29年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、2016年度の環 境に関連する教育研究活動やエネルギー・水等の使用 量の状況を掲載
	Sustainability Report 2017 Coaction with expertise for the future of Hokkaido University	年1回	H29年10月	環境報告書の日本語版を海外向けに編集した報告書
	環境報告書2018 ゴールとプロセス	年1回	H30年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、2017年度の環 境に関連する教育研究活動やエネルギー・水等の使用 量の状況を掲載
産学・地域協働推進機構	産学官連携の手引き	年1回	H29年8月	産学・地域協働推進機構の業務内容説明及び産学官連 携のための案内
	産学・地域協働推進機構パンフレット	年1回	H30年4月	産学・地域協働推進機構の概要紹介
	北海道大学 研究シーズ集Vol.5	年1回	H30年3月	北海道大学の研究シーズを分野別に紹介
	フード&メディカルイノベーション国際拠 点パンフレット	不定期	H29年10月	フード&メディカルイノベーション国際拠点（FMI国 際拠点）の紹介
	「食と健康の達人」拠点パンフレット	不定期	H30年10月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点の活動紹介
	笑顔プロジェクト	不定期	H30年7月	北海道大学COI「笑顔プロジェクト」の活動紹介 （HPにて公開）
	岩見沢市母子健康調査パンフレット	不定期	H30年6月	北海道大学COIのプロジェクト「母子健康調査」の活 動紹介・ご案内
	岩見沢市×北海道大学のフリーマガジン 「live（ライブ）」	年2回	H30年1月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点が地域と課 題、情報を共有するフリーペーパー
	岩見沢市×北海道大学のフリーマガジン 「live（ライブ）」別冊	年1回	H29年11月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点が高校生と共 に地域と課題、情報を共有するフリーペーパー
	共同研究等契約形態紹介リーフレット	不定期	H30年5月	北海道大学との契約形態（共同研究・産業創出・学術 コンサルティング）の制度紹介
	北海道大学 研究シーズ集webページ	不定期	H30年10月	北海道大学の研究シーズを分野別に紹介
国際連携研究教育局	GI-CoRE概要（英語・日本語表記）	不定期	H29年6月	国際連携研究教育局の概要、各グローバルステーショ ン（量子、人獣、食水土、ソフトマター、ビッグデー タ、北極域）の紹介

編集メモ

●11月を迎え、札幌市でも初雪を観測し、冬の訪れを感じる季節となりました。本格的な冬に備え、本学キャンパスでも冬支度が始まっています。

●先日、映画「こんな夜更けにバナナかよ」のロケが本学構内で行われました。原作は北海道大学文学部に在籍していた渡辺一史氏の「こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス・鹿野靖明とボラ

ンティアたち」。筋ジス患者と彼を支えるボランティアとの交流を描いた作品で、ボランティアの医学部生が通う大学という設定のもと、中央ローン、クラーク会館等での撮影が行われました。公開は12月28日（金）を予定しています。



2002.11.16 函館本線 然別～銀山（仁木町）

北の鉄道風景 68 雪晴れの山線を駆ける汽車

秋の函館本線山線区間（以下、山線）を走る観光列車「SLニセコ号」の運行が取りやめとなって早4年が経過した。関係筋によると、同列車は「廃止」ではなく「運行休止」なる扱いであったという。しかし、JR北海道の厳しい現状からすると、同列車の「運行再開」は望むべくもないことであるのは火を見るよりも明らかであろう。さらに、北海道新幹線の札幌延伸後、JR北海道から経営分離される山線の第3セクター鉄道への転換が極めて困難であることは

想像に難くなく、新幹線の札幌開業とともに山線は廃止となる公算が大きい。つまり、汽車の運行再開云々以前に、それが走るべき路線が消えてしまうかもしれないのだ。SLニセコ号が雪晴れの山線を駆けた、16年前の稀少な光景を今回とりあげて、同列車を偲ぶよすがとしたい。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑪ No.776 平成30年11月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail: kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html